

FN-55

818.41

Y1220

佐渡方言集

818.41Y122A



31843

凡例

此集始は各部門を分たず單に五十音順に排列すると普通辭書の如くせんと思ひしもそれにては搜索及類語參照の不便少からざるを以て大體を音韻體書用官副詞辭辭の五部とし其體言を更らに天地、人倫、動物、植物、器用、服食、雜の七門とす

此集各門中更に五十音順に排列し後のいろわを省けり

此集用言部は動詞形容詞の門をたてず唯動詞はいろは仮字形容詞は片仮名もて之を別つ

此集別に附録を添へて朝夕の挨拶及或飲食物に付きての名目を擧ぐ

又各頁ごとに何部何門(體言部天地門の如きを云ふ)と頁端に標して搜索に便す

此集同一語の轉訛等にして意義同じきものは一所に収む假令は體言部天地門の體をあらねどもあらねども云ひ全部人倫門のじやうたんをじよんから、みから、いたづらなど云ふが如きは是あり但意義の異なるものは別に各門に収む假令へは餅類のあまれの全部飲食門に再収せるが如し

凡例

此集強めて見聞の及ぶ限は廣く之を集むといへとも或る一地方に僻在せる小村落の方言にして見聞の及ばぬものも多くて遺漏せるも亦少からざらべさもそれらは各地方有志の士の補助を仰ぎて他日の増補を期せんとす

此集全體より考察すれば北村落には詳にして南佐渡に疎略なるの感あり編者の南方に住居したるときは又南方に此事に力を盡しよ人なきによるか北口には川上賢吉氏の知ありて其内容を裨補せしこと少からざらしによる

此集今般新潟縣立佐渡中學校創立十周年紀念冊として同校同窓會文藝部にて發行せり

此集の成れる本は岩木擴君の集められたるものを森知幾君より囑托せられて之を部類編次して其剩れるを削り足らぬを補ひて加ふるに解釋めきたるものを以てせしに在りて成功の大半は右兩君の力にして又其出版及校台訂正に補助盡力せられしは同會長柏倉一徳君部長本間茂世君等より茲に一言して其勞を謝す

明治四十年十月二十二日

編者識

引用書目

古事記	日本紀	全標註	續日本紀
古語拾遺	東鑑	今昔物語	宇治拾遺物語
源平盛衰記	熱田縁起	驗法靈異記	万葉集
全考	堀河太郎百首	全次郎百首	曾丹集
散木寄歌集	冠辭考	玉ノ緒琴	新選字鏡
和名類聚鈔	今箋註	東雅	言海
書言字考節用集	雅言集覽	俚言集覽	和訓栞
日本大辭書	ことばの泉	撮壤集	和字正濫抄
播摩風土記	出雲風土記	佐渡志	和漢三才圖會略
祝詞辨蒙	猿樂沿革考	安齋隨筆	貞丈雜記
建武年中行事	延喜式	禁秘御抄	歷世服飾考
歷世女裝考	主佐日記	關東海道記	故學新編
比古娑衣	山彦冊子	煮雜の記	續混陽漫錄
撈海一得	鹿添埃囊抄	倭姬世記	稜威言別

嬉遊笑覽	古事類苑法律部	可成 <small>ナレシ</small>	用捨箱
學藝誌林	外來語原考	骨董集	越後方言集
禁裡女房内々記	燕石雜志	庭訓往來抄	鋸屑談
類聚往來	世串百談	古事談	落窪物語
膝栗毛	伊勢物語	源氏物語	花鳥餘情

引用書中繁を厭ひて和訓栞を和栞、俚言集覽を俚集、書言字考節用集を書言字考、日本大辭書を大辭書、ことばの泉を詞泉とのみ畧稱、和名類聚抄と和名抄、日本紀神代卷と神代紀杯云ふは普通の如し

目次

總說	一頁
音韻部	十二頁
體言部	
(甲)天地門	十三頁
(乙)人倫門	二十三頁
(丙)動物門	四十二頁
(丁)植物門	五十一頁
(戊)器用門	五十七頁
(己)服食門	六十四頁
(庚)雜門	七十二頁
用言部(動詞形容詞)	八十二頁

副詞部

雜辭部

附 録

(甲) 朝夕の挨拶

(乙) 八代名詞付敬稱

(丙) 飲食物(大根及豆料理)

百十二頁

百三十五頁

百三十九頁

百四十頁

百四十三頁

佐渡方言集

矢田求編著

第一章 總 說

凡そ方言俚語等は如何様にも善し特に研究の必要もあるまじとの感想を抱けるものもはたあきにしもあらねど經史古籍も亦方言を混和して其解釋を得ずば能く解くとの難きを曉るべし是れ支那にても古代より轉軒(使者絶代)語釋別國(方言)即ち世に云へる揚子方言あり爾雅にも釋話釋言の部ありて古今言及五方の方言俚語を解釋せしゆゑあり

大聖孔子も經史を談するには無論京畿の正音を用ひしも平居の雜話には齊魯の俚語即ち方言を雜へ用ひられたる事は論語

に子所^ニ雅言^一詩書執禮皆雅言也と記されたるにて明かあり同書又其言を載せし曰く文莫^ハ吾猶^レ人也と、この文莫の二字漢唐宋明の諸儒の註一も其要を得ず明の楊升庵外集に晋書樂肇論語駁を引て燕齊勉強を謂つて文莫と爲すと云へるに至りて始めて其正解を得たり尤も文莫に勉強の義あることは文は廣雅に勉也莫或は慎に作る音暮玉篇に勉也説文に勉也と見ゆ揚子方言に俚莫は勉也と見わたるも文莫の轉語にて是れ正しく齊魯の方言あり

又伊勢物語に昔男陸奥に漫^ニ行^ハいたりけり其處ある女云々夜深く出でにければ女夜も明けばキツに投入^ルらん腐雞の未^キに鳴きて夫^ヲを遣^リつる

とあるキツを古來諸註皆解き兼ねてキツ

は狐也ハメに令^セ食也と強解し言りて狐に食はせんと云ひしとは物遠き解からずや

然るに平田篤胤太人の出羽の秋田邊にて大き丸木を鑿りて作れる水槽をキツと云ひて人家の門に居る置きて常の用水に爲るあり伴信友翁の比古婆衣に見わたるにて始めて妥當の解を得たり是は雞の宵鳴したるを宵の曉の雞鳴ぞと心得て男の歸りたる跡にて詠みたる趣の歌あり女其雞の又も宵鳴させんことを忌みて明旦キツの水に投入むと云へるあり雞の宵鳴は水に入るれば止むと今も言ひ傳ふるにて著るかりこの二ヶ條は其一例に過ぎぬども文莫キツの二方言の解を得て始めて妥當に古書を解するを得たるにて又方言

研究の必要は明あらん是れこの編の成れる所以あり

此國は面積狭く距離遠からざるに各地の言語音調に差異多きは他國に其例少かるべし之を大別して相川海府國中三岬前濱等とみすを得べし尙ほ細別すれば相川系川原田系畑野系西濱系外海府系小木系徳和系水津系新穂系吉井系夷系内海府系といふ如くみすを得べく各町村毎に多少の差異あるを免れず時に町家と村落と海邊と國中とは大に異なるものあり國中は往古國府あり後守護職を置かれたる地方にして前には赴任の官吏又は流謫の卿相僧祝の京都より來れるもの多く後には鎌倉より移住の武士多かりしかば其言語音調の自然に傳播して今も尙ほ京畿

に似たる言語に鎌倉地方に似たる音調をも交へたり

相川は慶長中鑛山と共に始めて開けたる地にして其住民の多くは内地の各國より移住したるに上席の諸官吏の皆常に江戸より派遣せられたるがため各種の言語互に混雜して國內にても一種特別の語調を爲したり其他海府西濱三岬前濱の如き亦各相異なりたるは土地僻在して交通の疎遠ありし爲め各地に於て自然に轉訛したる上に他國より移住若くは漂流せる者これに混じて今日の有様とかりたるあるべし特に奥羽人の移住多かりしを見わて奥州牽土が遺に在るてふ善知鳥と名とせる郷名(相川はモト善知鳥といひし所ありとぞ)神社名を存し又鹽竈神社といひ又

賽の河原なども皆奥羽と關係あり言語も同きもの多かり又此國の古傳に土佐能登兩國の人始めて移住せしより拓殖の業大に開けたる由を云ひ土佐に行はると妖説犬神の名が三岬の地名に残り能登の國幣社たる石動の神が海府前濱諸村に祭られ其一の宮たる遠敷神社の越敷神と當國の式内社に祭られ又其祭神はら大彦命を諸所に金北山社として迎遇突智神に配祀し或は單祭せらるるを見ても古傳の事實なるを知るを得べきも其言語は能登に似たる所はあり土佐に似たる所は未だきかず(乞食をホイトツと云ふとは土佐も同じといふ者あれど昔は土佐のみならず徳島本筋川集に陪當僧食とあるに基きたるにて豊前にも紀州)甲州と佐渡にも云へる由傳言集覽に見たり)甲州と佐渡とは語言相似たると寡からざるは鑛山よりの關係にて鑛山の吏人技師工夫などの

往來多かりしによるるべし嘗て大槻博士の日本全國方言につけて講演せし事あり全國三分して西部東部中部とせしが佐渡も其中部に屬せる内にて東北奥羽の方言より西南、關西諸國の方言が混交したりの事ありしが徳川氏以後奉行の交代によりて江戸辭を傳へ商賈の往復によりて京阪の辭を傳へたるもの少からず抑方言俚語の因りて起る所を按ずるに神代は邈として考ふるに由らきも我邦語は凡そ三千年前よりの大和民族固有の言語にして特別の發達を爲し他に其比類を見ず上古に於ては天孫降臨以前に於て原住民の民族蝦夷人内地に住し韓土との交通は神代より開けたれば蝦夷韓語及吾國語を今日に傳ふる古事記日本紀姓氏錄風土記

万葉集の類の古書は何れも漢籍及佛典渡來の後に記載されたる物にしあれば其著者當時の通用語を用ひて上古神聖の傳説を書き取りたるも多かりと見ゆれば上古神聖の事蹟を語り傳ふる神話の内にも思はぬ方に梵語漢語等も多少混和せる形跡あり然れど大體より言へば無論應神天皇以前は概ね純粹なる物にして内部より自ら膨脹發達し大和地方最も發達せしが其後梵語漢語の傳來繁くありて大に漢語佛語梵語も亦國語に混和し西國より漸次東國に向つて發達せしが中古帝都奈良より平安に移りし爲め奈良地方の言語も貴紳と共に平安に移りて發達し爰に再び國語の中心とされり所謂大和詞是あり大和詞とは山城の土人が大和の人の土語

即ち方言をさして云ひしものありしが平安朝の永遠に帝都と定り四方人士の之を貴びしより終に大和詞とは雅言又は標準語を云ふが如き義と爲すに至れり斯の大和詞亦風俗と共に代々の變遷あるは更らにも言はず平家の隆盛と極むるや烏帽子の矯め様まで一種六波羅様とてもてはやされたりと云へば勿論伊勢武者の口吻語氣を眞似て其地方の方言をも混和し鎌倉足利の代には關東諸國の方言を打雜へ織田豊臣の興れるや尾張地方の方言を混和し徳川の覇權を握るや多く參河の方言を混和せし由東雅の總論に見わたる然も有るべし稽て斯の標準語たる可き大和詞を中心として五方諸國の之に異りたる言語を指して方言とは云へるあり

蓋國語の發達は前にも云へる如く西より東に波及し大和に至りて尤も其發達を極めて標準語とも成れりしかば終に方言を指して東語又東訛杯といふに至れるからん万葉集古今集に諸國の方言にて詠める歌を東歌と云へる以て證すべし東國は中世に至る迄荒夷又は唯夷と稱へて蝦夷語も多く雜り音調も自然に野鄙にして訛謬多かりしは是れ自然の勢あるべし此訛言を指してダミ詞とぞ云ふる和菜大綱田舎詞はダミて聞ゆるを俗にナマリと云へり拾遺集に東土にて養はれたる人の子は舌だみてこそ物は言ひけれ又玉葉抄に然らば田舎の巢れて育てどもだみたる音

をば鳴かぬありけり
と見たり

借て其方言とても必しも誤謬訛舛の言語のみと云ふことはできず凡そ天下の言には古言あり今言のり其古今の間に於て亦其方言あり方言の中にも亦各雅言あり俗言あり又古言の雅なる後の俗言とあり古言の俗なる後の雅言となれるあり古言とは太古より近古に至迄其世の人々の云ひし所の語言也
今言とは近世人の云ふ所の語言あり唯今五方の語言各同じからぬ所あるのみには非ず古の時とても亦各其世に在りて五方の語言同じからざりしは猶今の如し古も亦中土東西南北の人の如き其人には雅なる有り俗なるあり大方は良き人の云

所は雅言にして賤者の云所は俗言にあらざるもの寡し

爾雅に古言今言其異なるを解きて釋詁と云ひ古今の間四方の言能く通ずる事なきを解きて釋言と云ふ千載の下に生れて千載の上に通じ一方の内に在りて四方の外に達しかん事尤も難きわざと云ふべし或は交通隔絶の爲めに中土及東西南北の各地共に各別の發達を成し或は交通頻繁の爲めに或る一地方の語言の流傳を受けて或る一地方にのみ發達し其土地の狀勢生活模様等に因りて一は速に變遷し又は新語の發生して古語の廢語と成れるにも拘らず一は依然として其舊態を改めずして變遷も純く新語發生の場合も少なく古語廢語の實用に供せられつゝあり或は同

一の語言も甲より乙に傳へ乙より丙丁を

轉々相傳ふも毎に謬り訛れるもあり或は風土の寒暖等に因りて語氣音調の正しきを得ず京畿正格の語言も一たび其人の口の上には即ち訛りて異音を生ずる如きも是皆方言發生の一因たるべし
序でに和采大綱に載れる諸國方言の歌を記して此國の方言と如何なる關係を有するかを示すべし
言語其方俗あるは和名鈔に秦原をハイバラともハギハラともハリハラともハンバラともハツバラとも訓み榛名をハルナと訓み亦邑樂をオハナギ邑美をオフミ邑知をオホヂと訓めるをもて知るべし幽齋九州道記に
天離も鄙には猶ぞ居たむかさごつこも

同じ浮世かれども

と是れ九州の方言を詠めるあり亦カウスルナと云は後を制する詞ナゼカウスルと云は今を答むる詞なるを上總にてはカウスルナといふべきヤナゼカウスルと云ふは語脈 異なれるあり亦土佐辭をよめる長曾我部の歌に
けるくはこれくは人を呼ぶ也ちふはといふ也わごらは吾子等也るすらしやはいやに思ふ也きつし事を急すいと云へりせじやうは總體をいふ詞世上にやしやうちには精盡くるにて事に倦くを云ふよんべは昨夜也きたちよは來といふ也ちよはちよの轉にて毎々語助につけて云ふ也又

阿波辭を詠める歌

うらが國さやうに咲きたる梅の花をや
れけうとあるすあやま風

うらは吾也さやうには仰にて仰山の畧を
るべしとやれは訝る辭けうとあは甚しき
や云へり(今按に怪しとの俗様けいとの
音便あるべし)亦難波人の尾張の卿談を
よめる狂歌

買つて來いさすがおそがいおぞいこと
はあにあらすに然うでや此うでや
さすが何しにおそがいは恐ろしきおぞい
は不好事(オカシム)はあに初めてあらずにはあ
らざるに云ふあり

亦豊後辭の歌に

昨日見ちぬ今日見んしひが悔しいは二
日に見せば我どうしやう(ウドウはウ

ラウの訛にて良行多行の錯誤)

吾も我う思ひはすれどどうしうる終に
逢得じ辛苦なんじやり

亦信濃の賤女が山路の櫻を見て詠めると
か

往つしまに蓄みし花の來ちまにぐわら
もと咲いたとけとちの權(桶のタガに
綴ち用ふる權櫻を云ふ)

奥州の方言をよめる

鶯や初音ふん出せ聞く可いに何い鳴か
あゝ無沙汰だんべい

琉球の祝賀の初めにうたふ歌

今日の福らしや何もがみかか
る花の露ぎやわたくと(つゆぎやたぐ
とは露に行逢た如きの義)

又蝦夷辭の歌

甚しきものあり(以上大綱)

此國にてタ行濁音とラ行音とを互に訛用
せるは(相川又中以上の人士の外)全國
に亘れり他國にては九州の或る地及山陰
道の一部にこれあり又三岬と南國仲の一
部とに於けるが如く動詞を言ひ切りたる
後に(ばつてい)といふ語を添ふる所は九
州西北部の一地方の外之を聞くことあし
茲に方言として擧げたるもの内には古
今に通じ全國に亘るものあり(ト子峠コ
ウナゴ玉筋魚ウキ水腫をぞ)一地方に限
るものあり(ミンジヤ水流東濱にてホチ
近傍北國仲にてドガイ如何様海部をぞ)
昔行はれて今廢れたるものあり(ダイク
礦夫カメ海島ヨセイ餘裕)昔にかくして
今あるもの(ナンバタ礦夫子コ賣淫婦ヤ

びるしやもどかものもかげをもころし
て霞の内にもつば見わけり(ヒルシヤ
は褒めたる詞カモノカゲは美女子の體
也モコロシテ熟睡を云ふチツボ舟あり
と云へり)

又伊勢櫻を伊勢にて御所櫻と云ひ江戸櫻
を江戸にて吊燈櫻と呼ぶの類も亦少から
ず因て連歌に

草の名も所に因りてかはるありといふ
句に

救濟法師

難波のあしも伊勢の濱萩とこそ付けら
れたれ

西土にては山海經に海外西南の人蟲を蛇
とあし蛇を魚と爲すといひ病源候論に吳
音藥を呼んで菽と爲すと云ふが如きは其

チフキ骨牌の賭博をぞ(其他正しき古言
あれども他國に亡びたるもの(シタ、ミ
細螺ゾメキ喧嘩をぞ)古言の轉訛したる
もの(セ、ナギ溝溜セ、ラギ、コツテイ杜
牛コトヒをぞ)言語は訛らされども用方
の違へるもの(アイ北風或は東北風を云
ふ万葉にては東風あるべきをナンド調度
を納むる室あるべきを寢所タンゼン潤袖
あるべきを女の髪を飾る綾かご)僅に誤
りたるたの他語の如くさこゆるもの(ギ
シヤク磁石デロ泥ヨノキ梗をぞ)等をも
亦一括して之をのせたり

地方の習慣又は身分の高下によりて父母
兄弟を呼び又は自ら稱し他を呼ぶ杯の語
に差異多きとは他國に其比を見ず故に此
條のみは普通語をも併せのせたり

重語副詞には似よりたるもの多く普通と
方言との區別もし難きか多く亦併せのせ
ねば意義の解しかたきも少きからねば是
亦普通語をも交へのせたり

此他猶編者の寡陋にして方言ありと思へ
るも普通語をもちあり普通語と思ひすて
たるに反て方言あるもあるべく方言には
あれど佐渡のみにてはかく或一地に同じ
きも亦尠かからずみん人之を了せよ

余曩に佐渡方言俗語考といふ物して家に
藏したりしを大學よりも望まれて贈して
やりしともありしが斯の方言集はそれと
は少し趣きを異にせるも大同小異のもの
あれば其内よりかきのせつるもはた少か
らざる中に小倉の方言は故余胡鶴松ぬし
のわざわざかい記しおくられたるものに

つき序で乍ら爰にとわりおきの同一語を
るも音調高低の差異に因りて方言とされ
るものも多かる可れどこれは文筆に因り
て現出し難きものゆゑに今は總べて省略
せり例へば醫者石屋十槌橋箸端佐渡にては
端はじこ潤
るゆゑに
混雑せず辭書に示したるは日本のにては山田美妙
氏の大辭書をおきて他に見當らず此は準
用すべき良法かねど咄嗟の間に合はねば
唯其法の大要をのみ擧げて後の大成をま
つ

山田氏辭書の緒言第六にいはいはく音調はな
(花)ハカニ於テ上聲トナリはカ(端)ハハ
ニ於テ上聲トナリはカ(鼻)ハハカ共ニ平
聲トナル是ラ音調ノ上下ヲ示スノガ辭書
ニ必用ノ第二デアル

其仕方ハ耳杯ノ脆弱ナ感覺ハ頼メズ音樂
ニイフ律ノ第一階ヲ去聲ニ配シ其上ヲ平
聲ニ配シ又上ヲ上聲ニ配シカタガタソレ
ニ據ツテ高下ヲ定メルニ限ル

都テ此規則ニ據リテ一ノ音調ヲ取扱フ
精密ニ言フトキハ平上去ノ三聲ヲ示サナ
クテハ爲ラヌモノナント畢竟上ト云フモ
去ト云フモ何レ絶對ノモノデハナク平ガ中
心ニ位スレバトガ其上ニアツテ去ガ其下
ニ在ルダケノコトデアル故一ツノ語ノ中ノ
一箇所ニモシ上聲ガ有ルナラソコダケニ
符号ヲ用キテ事ハ濟ム其例左ノ通り

ハカ(第二上)花はカ(第一上)端はカ
(全平)鼻
かさ(第二上)量かさ(第一上)笠かさ
(全平)梅毒

かへる(第一上)蛙みたる(第二上)亂か
たる(全平)語

此編強ひて解説せんと意にはあらねど
前後の關係上或は同語の轉訛變遷などを
見んとには語釋の必用ある場合も少なか
らねば見聞の及ぶ限りは主要の解釋を施
したり

近世小學校普及以來無識の教師に誤られ
て雅俗に正を訛に化し去られたるもの
多かりコフノ川をコクフガハと文字の儘
に讀みサハダがツタと云ひ瓜はイカに
てよきを特更にタコと教へられたる如き
例多かり特に近年に至り少年女子の教育
に従事せるも越人あるか將た越地にて教
養せられしもの多かる爲めに言語亦越化
せられつゝあるもの少からず杞憂に堪へ

ざる所あり

第二章 音韻部

音韻ノ下ハ文部省ニ於テ日本全國ノ調査ニ從事シ既
ニ其報告ヲ公ニシテ佐渡ノ分モ概見スレバ後ニハ其
甚シキモノノミチヲ舉ケルノミ尤モ一地方ニ偏シタル
音韻ノ精密ナル調査ハ文部省ノニモ詳悉シタラテハ
ソレヲハ異日ヲ待チテ調査ニ從事セントス
おラウ 大太鼓ウ、ダイコ、大和山ウワダ、
大屋ウ、ヤ、御前ウメア、金澤村邊、畑野村ノ
一部、三宮後山邊、小布施、背合瀧脇邊

ヒラシ 火鋤、火箸、晝間、百文、姫津邊
ヘラセ 家、大倉矢柄邊
シラヒ 癩ノ藥、借金、杓子、姫津邊

セラヘ 清藏、是ハ大倉邊ニ限ル
リラジ 利介、林右工門、カム、是ハ一般ナレ
ル人ニ因ルヤウナリ(俗ニ舌ノ短シト云フ人)

シラリ 八力、常庵、丈介、全上
シラロ 宿所、門、是ハドナロニ限ラズダナラ、デ

チレナドモ訛レリ佐渡一般ナリ

ヒ又ハイヲへ又ハエニ相川ヲアエカハ貝殼

ヲカエカラ挨拶ヲアエサツ在郷ヲザエガ

ウノ類多カリ(カエノ發音ケア、アエノ發

音エアノ如シ)但シ此訛ハ下ニ川殼郷抄

ノ如ク(カサ)阿列韻ノ來ルルニ限ルヤウ

ナリ下ノ阿列ニヒカレテ伊列ノ工列ニ變

ズルカ

以上ハ其大略ナルガ以上ニ列記セルモノト

雖モ佐渡全般ニ渡ルモノアリ一地方ニ限ル

モノアリ一村一大字ニ限モアリ又同ジ訛リ

ニテ上ニ在ルル訛ルモアリ下ニ在ルル訛ル

モアリ語ニ因リテ同シカラズ

佐渡一般ノ訛リヲ連續シテ見レハ左ノ

如シ
佐渡國雜太郡竹田村鈴木傳十郎倅岩藏

平藏か家 清十郎の竈 大倉矢柄邊ノ訛リ

姫津村 白井新右左門 姫津邊、新ハヒント訛ラ

我等の處の大屋の大桶 金澤後山背合邊

第三章 體言ノ部

(甲) 天地門 (天象地儀、金石、時限)

あいの風 東北風ヲ云フ間ノ風カ万葉集ノ越

中歌ニ年魚風トアル是ナリ西蒲原ニテハ

暑中ノ北風ヲ云フト年魚ノ上ル時ナリト

イヘリ是レガ正シキカ

養雜の記佐渡ノ方言ニ風ハ東ヨリ吹クヲ

山瀬ト云フ辰方ヨリ吹クヲ出シト云フ

(だしヲやすもの、又やすげル云フ東南風

ナリコレニ對シテ西北風ヲたかげト云

フ)己ヨリ吹クヲうちト云フ南ヲくだり

未ヲわかさ申ヲひかた西ヲ真西成ヲ下西

亥ヲたば北ハ真丑ヨリヲあひ寅ヲ中の手

ト云フ之ヲ知ル歌『卯は山瀬辰たし巳う

ち午くだり未わかさに申ひかた風』西真

西成は下西亥たば風北は眞丑あひ寅は中
の手』

あいま 時間ノ間隔

あきり 朝ヲ云フ朝限ノ意カ

あした 明日ヲ云フ明朝ヨリノ轉語ナルベシ

古語ニつとめてト云ヘバ則チ明早晨ノ

ニテあしたトイフモ明朝ヲ重ニ云ヘル語

ナルヨリイデシナラン

あど 高低ノ地ヲ云フ下所カ、上ノ出ト下ノ

田トノ間ナリ

あなれ 霞ヲ云フ又あらね云フ皆あられノ

轉語

あんど 端ノ間、新所カ明所カ

あわい 物ト物トノ空間

いぢぢ 軟石ノ地盤、意氣地ナキ意カ剛石ニ

對シテ

いつたか 日外ヲイフ

いつびよろし 同時ヲ云フ

うち 家ヲ云フ和川河原田邊町家ニテ鄉村

ニテハいいト云フ家ノ轉ナリうちハ内ニ

テ外ニ對ス禁中ヲ云フモ同ジ意

おちあれ 驟雨、落チ荒レカ

おとしな 又おとし、おつとし、おつと

しき、一昨年ヲ云フなハ往キシナ、還リ

シナ、ナドノ事ニ同ジク時ヲ云ヘル一種

ノ古言

おごこな 又おごつひ、一昨日ヲ云フ

がき 又がんぎ、庇ヲ云フ工匠ノ詞ニイノ

字形ニ木ヲ組ミテ他ノ直立形ノ物ニ寄立

ツルヲがんぎト呼ブモ雁木ナルベシ俚集

着ノ所ナドヲ云フ小川ノ岸ニ雁木アリ江

戸丸ノ内ニ辰ノ口吉原雁木、小石川御門

外ノ御堀ニ市兵衛雁木ト云フ総揚場アリ

ト見エタリ其形ヨリ云ヒシ詞ナルベシ

かべた 既收田、空田、稻ヲ刈上ゲテ其株ノ殘

レルヨリ株田ノ轉ナルベシ壁田ノ説ハ非

ナリ

きくば 又きよくば、竈ノ側ニ在ル薪所、

木置場ノ急語

きんによ 又きのよ、昨日ナリ

きののばん 一昨夜ヲ云フハ一般ノ習ハシ

ナレド大ナル誤ナリきののばんハ即チ

昨夜ニテ夜サリノコナリよんベト云フモ

全ジ、日ハ前ニシテ夜ハ此ニ屬ス故ニ昨

日ノ夜ハ即チ昨夜ニシテ一昨夜ニアラヌ

ト著シ

くね 山ノ根ヲ云フ俚集ニ越後ニテいけ垣、

西北三河ニテ山腹ノ畦ガタチナル處、出

羽ニテ垣根ヲイフ

くづや 萱葺、藁葺、麥稈葺杯ヲ總稱ス(木羽

葺ノ板葺、瓦葺ノ瓦葺根杯ニ對シテ)

けんたん 懸段木カ又間段木カ田ニ水ヲ引ク

分水定木、木ニテ高ク水ヲ堰キテ段ヲナ

セル故ニ懸段トイヘルナルベシ其上面ニ

鐵ヲウチタルヲ金懸段トイフ

こた 下ろ、へど、ごべ、皆泥ナリ

こつたう 又雪だうトイフ下駄ノ齒ニツキタ

ル雪ノコ

こんにや 又こんや、今夜ナリ

こなひた 又このじう、こんじゆか、此頃ヲ

イフ此間ナルベシノアノ約ナナリ

こんどめ 後日ヲイフ今度目ナリ

このじう 先達テ(先日)

さづい 又さづい、さづいノ轉さハ發語つゆ

ハ梅雨

さい 水上ニ結ベル氷板ヲ云フ 牙ノ居体言

ナルベシ又ジエアモイフ

さかわら 葉ヲ逆エシテ葺キタル屋根

さはん 菜園ナリ今對嶋ニテサイエント和菜

ニ見エタリ佐藤ニテハサエンバタケト云

ヒテサエントハ野菜ノ名稱ノ如ク使用セ

リサエンウリ、サエンツクリ杯イヘリ
又ささかかたし先刻ヲイフささかハ
前時ささかおたしハ前時方シニテ例ノ
ハ詞ナルベシ

しもて 下座敷ヲイフ下殿カ又下手カ
しもげ 丑ノ方ヨリ吹ク風ハヒモイフ

しみ 氷ヲイフ、縮ノ約言物ノ凝ルヲイフ古
言ナリ堀河次郎百首衣手のうすきや春の
せきふるん我身はいとしみ氷りつ、又
中院通村卿關東海道記に十二月十六日箱
根を越へんと思ふに三四日さきに彼の山
雪降りて道懸かるべし朝シミの程に立た
ばよかりかんといふを問へば道の氷りた
るを申すといひければ其詞をよみ侍りし
箱根山まじり明けぬ間に越ゆゆかんの道
ぬかりのシミ解けぬ間に一トアリ西國ニ
テ冬日泥ノ凝リタルヲシムトイヘバシミ
ノ縮ナルヲ著シ

じりつち 門口ヲイフ常口カ常ニ出入スル

ノ口ノ義或ハ城口カ

しあつて 又あさつて和菜云今日ヨリ第
四日ニ當ル故ナリ全浙兵制ニハ後日ヲあ
さつて大後日ヲしあつてト譯スト見エ
タリ

すまつ 月末ヲイフ
すま 隅ヲイフ、隅間カ隅ノ轉訛カ

せき 小流ヲイフ、水水ヲ堰キ止ムルヲナル
ヲ堰上ゲテ田ニ注ク溝ヲ江、堰、堰、イフヨ
リウツリテ小流ヲモ(小倉)ニテ堰、(畑
野)ニテ江、イフナリ江川ナドハ何レニ
テモイヘリ
せいがい 又せいがい板、かさがへし杯屋根ノ
端口ノ板、舟ノセガイヨリ移リシ語ナル
ベシ狭衣ニ硯ヲ舟のせかいに取出て、又
沖の方のせかいに人の見侍しかばトア
リ船用集云物茂卿曰、水主ノ居處ヲセカ
イトイフセガイヤグラトイフハ二階ノ
ナリ舟ノ左右ノ脇落間ノ處、セカイトイ
フヤグラノ出シ椽ノ下則セガイノトアル

たへ 全上、田方カ

たなる 泉水又ハ堀池ヲイフハ種ヲ漬クル
池即チ柳井ノ意ナルベシ種井ハ春苗代ヲ
セントテ田ノ側杯ニ井ヲ堀リテ種ヲ漬ス
ヲイフ俚集ニ種ヲ浸ス淺流ヲイフ夫木抄
秋刈りしむるの晩稻を思ひ出で、春ぞた
かむに種をかしける

たんだん 川中ニ支流ヲ制シテ樋(小兒ノ戲)
ヲ架シテ小キ瀧トスルヲタン、事トイ
フタキゴトノタツ重テタル小兒語ナラン

たんと 笈ヲイフ(東菴)竹樋ノ轉カトハトヒ
ト同ジク樋ヲイフ或ハタンタンノタン
タンヲタント、トイヘルカ樋ヲ架ケ瀧口
ヲ作ルヨリノ稱

たうかん セガイノナキ屋根ヲイフ
たいわん 來年ナリ相川河原田杯ノ市街地及
中流以上ノ人士ニ非ラサル以上ハ一般ニ
た行濁音トら行トヲ顛倒セルヲ例トスロ
モ具一ナリ

杯ニテ其大要ハ知リヌベシ

せうち 小路ヲイフせうハ小ノ字音ナリ
せうち 下水ヲイフせうハ水ノ轉、瀆ヲ訓
メリ東京ノドブナリ和菜云大平記ニせ
らぎ水ハ馬の足冷してトイヘリ今房舎ノ
斜溝ヲせうちトイフ是也せうハさし
通ズ小ノ義ナリ水ノ淺ク流ル、所ヲイヘ
リ或ハ礮礮ヲ訓メリ礮礮ハ字書ニ涉水
見ニ沙石ニ貌ト見ユレバ其義適ヘリ塵埃
糞抄ニ不淨ナル水ヲセ、ナギトイフハ何
ノ字ゾ又片言歟セ、ナギトハ訛ナリセ、
ラギトイフベシ澗ト書ク又潺湲カカ也
遣水ノトイヘリ白氏文集悟真寺詩ニ見
ユ云々ト尙委シクイヘリ

せうち 扱ケ道ヲイフ狭所ナルベシ扱道ハ
狭キガ多ケレバナリ

たうくさま 又たうくさん、てんたうさま
ノ小兒詞ナルベシ月ヲイフ

たんば 田畝ヲイフ田圃カ

つらみ 又つらみぶら、山嶺ヲイフ頭ヲつむりトイフ其ノ訛ナルベシ頭ヲツムリトイフハ圓ノ義ナルベシ但集ニ圓ヲツムラトイフモ同シ蝸牛カタツムリトイフモ同シ天窓ヲツムリトイフモ旋風ヲツムジトイフツモ一言ナリカタツムリ一名ヲマイマイツツプロトイフモ卷々圖トテ同義ナリトイヘリ

つぼ つぼのうち、園庭ヲイフ是ハ禁中ノ五舎ノ内庭ヲ桐壺、梨壺、梅壺ナドイヒシニイデシカ

つづり 畑作ニ溝形造ルヲイフ端作ノ訛ナルベシ

てんかう 本屋ヨリ張出シタルヲ出居トイヘバ出居ノ口カ又出入口ノ畧ナルベシ

てんかう 過日ヲ云フ

てんかう 又てんかう、高地所、鐵夫ヨリ出デタル語ニテ天廣カ嶺嶺カ高キヲ天上トイ

へバ天廣ナルベシ天上モテンカミヲ音便ニテンカウトイフベシ

てんかく 又てんかくさん、天ヲ云フ小兒語婦人ニモカクイフモノ多シ

とつろく 早速又早ク已ニノ意

とどめ 堤ヲ云フハ土堤ノ音語ナルベシ

とどめ 川ノ高低アリテ水ノ音ノトバメク處、但集渠ノ落台ヒテ鳴ル處、轟トイフ

とね 峠又ハ山嶺ヲイフ李部王記ニ百官主典以上ヲ刀稱ト稱スト見エタリ諸ノ長上ノ官ヲイフ主典以上ハ皆長上官ナリコレヨリ移リテ山ノ頂上ヲモ云ヘルナラン發のどね里のどね山のどねナドモイフ皆長上ノ義ナリ

ど 埋桶杯ヲイフトヒノ轉略カ

どつたけ 又トツナギ、屋外ニ馬ヲ繫グ圍ヲイフ外繫ト云ヘルナルベシ一ニナツマヤモイフハ夏廐ノ義ナルベシ

なつか 物ト物トノ間ヲイフハ中間ノ轉ナルベシ

なんじ 寢所ヲイフ納所ノ義、在郷ニテハ今尙ホ寢所ノ側ヲ物置トス是レ納所ノ名アルユエナリ中古スリゴメ、又ハヲサメドノト稱セシ處

にど 屋内ノ土間即チ内庭ヲイフ外庭ハ別ニオニハ、オホニハト云ヒテ之ヲ別ツ

にほ 又によ、柴葦又ハ稿、肥料杯ヲ積ミ重キタル物、鴉ノ浮巢ノ狀ニ似タルヨリ云ヒシナルベシ

ねじ 虹ヲイフ遠江ニテモカクイフヨシ万葉考ニ見ユ、ニジ、ヌジ、ノジ杯万葉集日本紀杯ニ見エレバ同行ニテねじ杯轉ジ云ヘルナルベシ

ねき 側ヲイフ根岸ノ下略ナルベシ但集大坂詞門のねき、橋のねき杯いふそばの事備後にて近所をいふと見たり

のし 山河池沼ニ舊クヨリ棲ミテ靈アリト

スル動物ヲイフ主ナリヌシモイフ他人ヲ指シテヌシモノシモ云ヒテ敬稱トセリ

とつて 苗代ノ畔ニ鳥除ニ張ル繩ヲ云フ又物乾時ニ張ルヲモイフ

のぼり 牛馬ヲ防グ爲メニ往還ノ道路ノ中央ニ上下スルノ出来ルヤウニ設ケタル木戸ナリ楷梯兼垣ナリ(内浦外海府)

のた 浪ヲイフぬたノ轉波ノウチリ寄スル狀ヨリイフ轉顛ヲヌタタルトイフモウチリコロガルヲ云ヘバソレヨリイデシ語ナルベシ

とろせ 雪中路傍ニ麻柄竹杯ヲ立テ置キテ道筋ヲ示スヲイフ連歌杯ニモツカヘバ佐波ノミノ方言ニハアラザルベシ榜示ノ轉カ東鑑ニ境杭ヲ榜示ト記シ文徳實錄ニ榜示路頭普令ニ知見一見見エタリ

とつた 泉眞光寺邊ニテ細繩即チ菴ノ經繩ナリ破石菴ヲハウレ菴トイフハ寶來菴ナレバ其義ナルベシ

とんさき 又とんさき、山岡杯ノ最端。鼻崎ナルベシ
 とんさき 最前又ハ最初ヲイフ前語ノ轉ナルベシ
 とんさき 稻干場ナリはせハはでノ轉、はでハはつ木ノ轉略ナルベシ和菜云、顯昭説ニ下人ノ物杯掛ケテ晒ヌ木ヲイフナリト見エタリ然レバ舟泊ル意ニテ泊木ノ義ナルベシ後、堀河百首ニ濡衣今ぞはつ木にかけ乾すかづきしてけりよさのま主人トアル是ヨリ轉リテ稻乾木ヲモ云ヒタルガ別ニはでトナリシナルベシはつ木ハ顯昭説ニ枝アル木二本ヲ柱ニ立テ、其枝ニ横様ニ竿ノ様ニ木ヲ波シテソレニ物ヲ掛ケテ晒ヌナリトアリは堀河百首ノ注ニ八手トカクガ稻ヲカケテ乾ヌ垣ナリ又垣ノヤウニ柱ヲ入レ違ヘテ立テル物ナリト云ヘリトアルモ其状思ヒ見ルベシ好忠集ニ山賊のはてに刈乾す麥の穂の碎けて物を思ふ頃哉堀河百首宿もせに朝毎稻を乾

すよりははでを結ひてぞかくべかりじるといつか 火葬場ヲイフ灰積リテ塚ノ如クナレルユエナルベシ
 はしかけ 棧道ナリ橋架ノ義
 ばん 氷ヲイフ盤ニテ氷面ノ状ヨリ云ヒ出デシ語
 ばんげ 今夕ヲイフ晚氣カ
 ひして 一日ヲイフ
 ひなから 半日ヲイフ日半ナリ
 ひがなひちち 又ひして、一日中又終日ヲイフひしてハ日一ノ轉カ古ク日一日夜一夜ナト、一日一夜ノコトヲイヘルコトアリ其日一日ヨリ轉リテ日一トイヒシガ訛レルナルベシ土佐日記、日一日夜一夜とかく遊ぶやうにて明にけり源氏物語葵ノ卷、日一日人給ひて慰の聞に給へど和泉式部集夕暮の哀は痛く増しけり日一日物は思ひつれどもひがなは日は日ハ日之ニテハ例

ノ時ナリ
 ふきあげ 最高ノ礦脈ノアル山ヨリ出デシ語ナルベシ
 ふんだんつじ 札ノ辻ナリ札ハ廣告札ノ義
 ふんだんたらすけ 垂氷ヲ云フフラリダラスケノ轉語
 へた 河海杯ノ岸ニ近キ處端ノ轉又邊ノ義
 こつちへた、そつちへたトイフ
 へち 側ヲイフ又そつちへち杯イフ但普通ニモイフ
 ほと 又へち邊端ヲイフ秀手ナルベシ秀ハ垣ホ杯ノホニテ垣ノ表即チ外ヲイヘル語又近傍ヲモカクイフ所アリ
 まぶ 低ヲ望ム地、是モ鑛山ノ語ニテ間歩ハ皆低キ所ニアルヨリ云ヘルナルベシ
 まぶ 上ノ耕地ト下ノ耕地トノ間地ヲ云フ間所ナルベシ
 まぶかけ 雪又ハ砂利ノ溜リテ高低ヲナシタ

ルヲ云フ熟熟不熟調和セヌマ、コ又轉リテメツコル云フコノマ、ハ平均セヌマ云ヘル語カケハコト同義ニテモト同語カ
 みんじや 水屋ヲ訛リシ語、ハシリヲ云フ
 みぎり 右ヲ云フ人アリ古語ナリ和菜右ヲイフ南面ノ正位ヲ以テイヘリ右ハ西ニアタレリ日ノ入ヲ見限ル義ナリトイヘリ古事記傳右ハミキリトイフゾヨキ俚集石ヲミキリトイヘリリハ助語ナリ歌ニヨミシハ新勅選集ニラしと思ふ物からぬる袖ハ浦ひとりみさりも波やたつらんと見エタリ
 むね 嶺ヲイフミチノ轉カ又屋ノ棟ヨリウツリシ語カ
 ぼたゆき 牡丹雪ナルベシ牡丹花ノ如ク綿ノ如キ雪ヲイフ所謂ル沫雪ノ類ナラン相川ニテハ牡丹雪トイフ
 やまげ やす風ニナル兆、安氣ナルベシ

ちち 又フケ、深田ヲイフハ野地カ但シ字ニ
 多クハ谷地トカケリ低地水多カル處ヲイ
 フ然ラバ谷地ノ義ナルベシ但集ニ津輕ニ
 テ草アリテ水アル處ヲヤチトイフ范字ヲ
 ヨメリ草包水ノ會意ナリ云々江戸ニテ草
 茂リテ水アルヲヤチトイフトアリ谷中ナド
 是ナリ又フケモイフハ深田ノ義ナルベシ
 やなつて 又やのあさつて明後々日ヲイフ
 彌ノ明後日ナリカハのノ轉

よひて 又よりげ、暴風雨

よんべ ゆうべ、よんべな夜昨夕ナリ、コハ
 夜方ノ昨夜ノ義ノ轉訛ナメリ万葉集大伴
 郎女ガ歌ニあまさはりつねする君は久方
 のよんべの雨にこりにけんか土佐日記
 ニ舟子ノ謠フ歌ニよんべのうきひもが
 トアリ

よらま 夜、夜ノ間ノ轉略よらヨウサリ
 よベヲヨウベ杯イフ類但のハ略ケルナリ

よつち 辻ヲイフ四道ノ意ナルベシ街道ニテ
 ハ四ツ門モイフ(辻ハツジノ仮名ナレバ
 よつじカ)
 よがなつて 又唯よつびて、一夜中又終夜
 ヲイフよがハ夜之ニハ例の時ナリよ
 ツびてハ夜一夜ノ説、夜一夜ハ前ノ土佐
 日記ニモ見ユルガ又源氏物語若紫ノ卷ニ
 夜一夜風吹さある大和物語ニ門をさ
 せ給ひければ夜一夜立ち煩ひてかへると
 テトアリ

よこぎ 小倉ニテ居間ヲイフ

らんば 又ダンバ、墓所ヲイフ卵塔場ノ略岩
 代ニテモシカイフト

わしり 浪ノ荒ラセル海岸ノ道、波屢ウチヨ
 セテ通行人ノ疾走シテ過グベキ道ノ義ナ
 ルベシ

りくろさん 海底ヲイフ龍宮さまナルベシ
 又海神ヲモイフ

めど 穴ノイナリ又下駄終ノ穴、篩ノ目モめ

どトイフ但集孔ヲめどトイフハ目所ナリ
 轉ジテミズモミゾモイフ錢ヲモイフハ穴
 アルニ因ル眼目モ穴ナレバ通ジテ穴ヲ目
 所ト云ヘルナルベシ

ぼた 保田トカク水氣ノアル土地、水ノ漏ル
 ヲボタモボタノ一モ云ヘバ字ハ唯當字ニ
 テ水漏リテ汗ナル地ヲヤイフラン

(乙) 人倫門(人稱、人體言語)

あいはり 頭ニ生ズル腫物ナリアイバリカウ
 べ杯又クレタ物取ルトアイバリガ出來ル
 杯イフ

あんちん 又あんさん、あんやん、あんか
 ん、あんーやん、以上兄上又ハ長者ヲヨ
 ブニ用ヒル相川ニテハ普通ニあんかんヲ
 兄上ニあんさんヲ妻ノ夫ヲ呼ブニ用ヒ其
 他ハ夫ヲモ兄ト同ジクあんちやんと稱ス
 あねさん 又あにやん、あねさん、ねやん、お

ねい以上姉上又ハ年長女ヲ呼ブ又嫂ヲモ
 姉ニ準ヘテ年ノ多少ニ抱ラズ稱ス

あね 下女ヲ稱ス、下女ノ義、姉ノ稱トハ義
 ヲ異ニセルナラン下ハ唐音ナリ下三連ノ
 類女ヲねトイフハ女性ヲねしやうトイフ
 ノ類ナリ姑ノ姉ヲ指シテアテトイフ所ア
 ルモ賤シメテイフナラン

あんちやう 下男ノ義、下男ヲイフアナンヲア
 ンナウトイフハ音便ナリ

あか 小兒ヲイフ處ニ因リテハ青年ニ至ル
 迄男女共ニト稱シテ名ノラヌモ多カリ
 赤子ナルベシ

あいのし 乾鹽魚ヲ製造販賣スル者續昆陽
 漫錄云大坂邊ニテ魚ヲ種々商フヲ五十集
 トイフ也或云今ハいさばトイフ云々越後
 ニテハ四十集トカキテあいのしトヨム、
 コレハ五十集ヲ轉ジテ四十集トカクナル
 ベシトアリ然レバ此處ニテ四十物トカク
 ハ四十集ノ再轉ナルベシアヘハ交合ノ義

ニテ雜物ヲ合ハスル謂ナリ茄テタル蔬菜
ニ胡麻味噌ヲ交テタルヲ鹽物トイフ同
義ニテ字ハ唯義訓ナルベシ尙其委シキ
ハ北斗三十四号ニ解釋アリ又和菜ニ間物
ナルベシ大平記ニ一トテ乾シタル魚ノ
入タル俵ヲ船ニ取積ミテト見エタリ今モ
馬子ノ語ニ雜種ノ干魚ナドヲシカイフト
ゾ海ノ藻芥ニ近代間物五度入十度入り塞
ト見エタリ今イフ酒肴ナルベシトアリ
但集ニ越後蒲原郡ニテ幹物屋ヲいもの
トイフト

あね 魚菜菓實ナドヲ行商スル婦人ノ稱、
八幡村ヨリ野菜賣リニ出ルヲ八幡アチコ
五十里ヨリ雜魚菓實ナド賣リニ出ルヲ五
十里アチコトイフ類ナリ是ハイト古キ語
ニテ寛平熱田縁起ニ載レル日本武尊ノ歌
ニ宮酢媛ヲ指シテヒカミアチコトイヘル
ト見エ又會丹集ニモ神祭る冬は半にあり
トイフアチコガ聞ク榊折きしトイフ歌見
エタリ縁起ノ歌ハ愛智縣アチカひかみあねこは

われこんどとこさらんや衰れあねこは
ト見エタリ
あひぼう 同輩ヲイフ相棒ナルベシ駕籠ヲ昇
グ先肩ト後肩トノ伴、轉リテ全ジ程ナル
人物

あかぎれ 和菜云倭名鈔ニ輝ヲヨメリ垢ニキ
ラルノ義催馬樂ニあかぎれとむらじりか
る子ト見エタリ爰ニテハあかぎれト云是
其義カ篠葉集ニあかぎれも春はこしぢに
かへれか冬はちにはあしにすぢも
あきま 明旨アキマノ轉語、靈異記ニ精旨字鏡ニ
隣ト見エタリ醫語黒内障

あぐ 踵ヲイフ言海ニイフ足四所ノ義カ大
辭書ニイフカハトノ轉リテアカトナリ
タルガ再ビ轉リテアクトトナリシモノ、
カトアトハ通スル例多ケレバ此說然ルベ
シ和菜云三義一統ニ見エキピスツイフ
あよ 小兒ノ足ヲイフ歩ヨリ出デタル語、小
兒ノ歩行ヲアヨノト云ヘバナリ歩ヲあ
よトイフハ動ヲあよトイフヨク起レリ

いさばもの 漁者及其家族共ノ稱、轉リテ輕

桃者ノ稱、和菜云今魚肆ヲ云ヘリ磯端ノ
義ニヤ又勇魚場ニヤトアレド漁場ノ義ナ
ルベシ但集ニ醜魚ナド商フ人ヲいさばや
トイフモ見エタリ

いね 母親ヲイフ外海府ノ方言、寢ヨリ出デ
シ語カチヲ抱イテチルヨリ

いもじ 鍋いかけヲいもじトイフハ鑄物師ノ
畧ナリ

いも 痘痕ヲイフ和名抄箋注ニ是ノ瘡ヲ患
フル者、飲食其他ニ禁忌多キヲ齋居イモノ人
ノ如シ故ニ痘痕ヲいもトイフハ齋ノ義ナ
リトアリ

いんぶりつり ぶすこまヲイフいんぶりハイ
ブリノ音便イブリハ神代紀ニ有ニ男悍以
安忍トアル安忍ヲイブリナルト訓ミ
倭姫世記ニ惡神伊不加里豆人民多亡ルア
リ和菜ニ心強クナサケナキヲイフ廣勾ニ
忍安ニ不仁ト曰忍ト見エ俗ニヌテタル氣

象ノ人ヲイフモ意通ヘリ否ブリノ義ナル
ベシト見エタリ

いかつもの 驕傲者ヲイフハ其狀ノ自然ニ莊
嚴ナルヨリ嚴重ナドヲいかし、いかつい
ナドヨメル意ナルベシ類聚名物考いかの
しきノ注ニいかハスベテ高大ノ意ニテ今
俗言ニモいかつ、いらなき、いらたかな
ドイフハ皆カドアリヲいらしきヲイ
フトアリ

いしかねぶしやう 固クシテ動カヌモノヲイフ
石金賦性ナルベシ(小倉ノ方言)

うめは 又うめア、中以下ノ母ヲ稱ス乳汁ノ
甘美ナルヨリ呼ビシ語ナラン

うつき ウハキ者ヲ稱スモトハをこづきヨ
リ出デシ語ナリ古今著聞集ニのこりの輩
ありかどりををこづきけりトアリ和菜ニ
今昔物語ニモをこづきたる者ト見エ今モ
イフ詞ナリトアレバ俗言ノウこづくハを
こづきの轉ナルヲ著シ其をこハをこがま

しナドノをこニテ笑シクをかしき狀ヲイ
フナリ尙動詞ノうこづくノ條ヲ見ヨ
はんばなねつり 諂諛者又狡猾者ヲ稱ス椽鼻
ニ頭ヲ板ニツケテ諂諛スル狀ヨリイデシ
語

おごつあん ちやん、とらん、とつさん、とつ
つらん、ちやん、ちやん、ちやん、ちやん、ちやん、
屋ニテ一種ノ敬稱

おぢさん 又ぢいさん、ぢやん、ぢい、祖父ノ
稱、貶稱ニハこつぢいアリ又祖父ナラズ
トモ老人ヲモ稱セリ

おつさん 伯叔父、又少年ヨリ老者ヲ指シテ
イフ

おばさん おばやん、おばおトモイフ伯叔母
又ハ老女ヲ稱ス

おぢぢ 親父ニテ父ノ稱ナルヲ夫ヲ指シテ云
ヘリ但シ妻ノ云ヘルニ非ズ他人ヨリノ稱
おかた 全上妻ヲ稱ス御方ノ義ナルベシ薩摩
常陸ニテモイフトゾ縉紳方ノ御方向々御

方トイフ語ノ残りタルナラント俚集ニ見
エタリ

おかみさん 上流ノ母ヲ稱ス、御上様トイヘ
ルナルベシ浪花の風におかみさんといふ
は老女の様にありて五六十に及ぶ老婆を
呼ておかみさんと唱ふト俚集ニ見エタリ
コノ國ノモコレヨリノ轉ナルベシ

おぢさん 町八、庄屋、富家、舊家ノ戸主等ヲ
稱ス、大家様トイヘルナルベシ又御家様
ヲおへさんト尊稱セル轉カ但おへさんハ
婦女ノ稱ナルヲちやん、ハ男子ノ稱ナル
ヲ婦女ニイヘル如キ顛倒カ

おごつさん 又おごさん、小僧ヲイフ御小僧
ノ轉

おば 又ばど、大黒(寺ノ)ヲイフ御婆ト云ヘ
ルナルベシ

おぢぢ 怖氣(オチゲ)ノ轉訛
おまじす 諛言、賣僧ヨリ出タル語ナルベシ

かまさん 又かやん、中等社會ノ他人ノ老女
ヲ呼ブカハ梵語おツカ(母ノ義)ノカヲ
重テシ語、ソレヨリ轉リテ人ノ母又ハ妻
ヲ稱シテかまさんト云フハ西京ノ方言ナ
ルヲさんヲやんと轉シタルナリかやんハ
かまさんノ省略今ハおツかさんトモ云フ
かアさん、かアナドモ其轉語、撈海一得ニ
通鑑胡注ヲ引キテ家々ナリ齊ノ諸王呼ニ
嫡母ニ爲ニ家々トモ見ユ

かまおひ 弱キ人ヲイフ米壹俵負ヒテ三里
ユクヲ一丁前ノ人トシ吠ニ分ケテ負フ人
ハ一人前ノ力ナキユエニ云ヒイデシ語

かんく 又かん、かんど、上流ノ男兒ヲ下流
ヨリ呼ブ可愛々々ノ轉訛ナルベシ又かん
ぞハ最愛兒ヲ云ヒテ甘卓ト云フ義ナルベ
シ煮雜記ニ百年以前ノ小歌ニかんぞ兒
じやとてあまらやにそだてト云ヘルガア
リ即チ其意ナルベシ然レバかんかんモか
んぞノかんヲ重テタルニテモアルベシ

かんち 又めツこ、めツからトモ云フ片盲ナ

リ天目一神ハ鍛冶ノ祖神ニテ鍛冶ヲ古
語ニかぬちトイヘバ一目ノ人ヲがむちト
イフハかぬちノ轉ナリトゾ一ニイフ眼一
ノ音ナリト云ヘレドイカマツカハ目
かぬちノ轉ナルベシ目偏ノ音便轉トイフ
モノアレドイカマツこハ眼一、眼一箇
ノ訛リカ

がうやぐん 又がうやくからだ、衰弱ヲイフ
証弱ノ訛ナルベシ貞丈云証ハチヒサシト
モヤマヒビト、モ訓ム字ナリ病人坏ノ如
ク弱キヲイフナリ証弱ノ官人又一ノ訴
訟ナド云是ナリ

がめ 頭瘡ヲイフ越后古志郡邊ノ方言ニ龜
ヲガメトイフハ瘡癩ノ形狀ノガサノシ
タル様子ノ龜ノ甲ニ似タルヨリ云ヒシ語
ナルベシ

かま 母又ハ妻ヲ稱ス和訓栞云卑俗ニ母ヲ
イフカトハト韻連ズ通鑑胡注ニ齋諸王皆
呼ニ嫡母ニ爲ニ家々トモ見ユ田舎ニ妻ヲモ
云ヘリ兒ニヨリテイフ也トアリ

がざり 多数ノ小兒ヲイフがざりハ、本、
 寄居虫ノ稱ナルヨリ小兒ノ他家ニヤドカ
 リテサワグヨリ移レルナラン
 がせ 手ノ指キカズシテ物ヲ把ムコト能ハ
 ザルニ云フ
 かたごぶ 頑固ヲイフ(小倉ノ方言)
 かうあく 補助ヲイフ効力ト云ヘルナルベシ
 かたら 身體ヲイフからだノ説
 がまん 忍耐ヲイフ我慢ノ自高ブリテ他人ノ
 言ヲ用ヒヌヨリ轉リテ忍耐ノ意ニモナリ
 シナルベシ駿河國ニテモ堪ヘルコトニ言フ
きんま 怒リ易キ者又我儘者、又女ノ提慧ナ
 ルヲきんまものトイフハ氣儘ものノ轉カ
 トモ思ヘド或ハ彼ノ君眞物ヨリ出デシニ
 ハ非シカ琉球ノ君眞物ハ彼ノ國ニテ尊崇
 スル神ニテソレニ仕フル神女三十三人ア
 リテ王妃以下ノ貴女ヲソレトスレバ威權
 アリ才色ナドモアルヨリ轉リシ語カ(君

眞物ノコトハ弓張月ニ據ル)
きんひら 短氣者ヲ稱ス淨瑠璃人形ノ坂田公
 平ノ短氣ナルヨリ出デシ語
きんく 氣輕者ヲ稱ス氣裂ノ意カ交際ニ氣象
 ノ打解ケタル狀ナルコト、一ニさくく、ス
 杯トモ云ヒ又木ノ裂ケ易キヲモサク、
 ス杯云ヘバ氣裂ノ意ナルコト著シ
きんぬ 秃頭ノ稱、金柑ノ轉
きんぐらう 又さも、そつトモ寡言者ノ稱、
 無言者ノ稱、黃無垢性ナルベシ黃無垢ハ
 黄色ノモノヲ無垢ニ指ヘタル名黄色ハク
 チナシ色ナレバ口ノ無イト云フニ取リテ
 物言ハヌニ喩ヘ言ヒシナラン或人ハ木木
 像ナラン又木無口性ナラン木ハ質ヲ云ヒ
 天質無口ノ性カトイヘドイカ
きんつ 苛刻ヲ云フ義事ノ意カ義ヲ固ク守
 レバ自然苛刻ニ迄ナリユクエナリ
きりり 又じんきり、旋毛ヲイフきりり
 ハ旋回ヲイフ副詞ナリ毛ノ旋回ヨリ起リ

シ語
きうたい 隨意(或地方)休體カ隨意ニ體ヲ休
 ムルヨリノ語カ
くらたれ 臆病者、恐怖ノ餘リ脱糞スルヨリ
 出デシ語 恐クハ普通語ナラン尿をたれ
 テ逃ルト云諺ノコト牛馬間ニ日本紀ヲ引キ
 テ解尺アリ
くろ 雜談ヲ言フ、是ハ醉漢ノ多言ナルヲ、
 だままくトイフくだノ轉ナルベシくだ々
 まくハ葎ヲ卷ク義ニテ機ノ糸ヲ卷クヨリ
 出デタル語
くじこね 無理言ヒ公事捏スル人、くじこね
 ルトイフ動詞ヨリ成リシ語、くじハ公事
 ニテ四角バリテ諍論スルヲイヒこねハ
 捏スル義ニテ元ハ粉泥ナドヲコチマハス
 義ヨリ移リテ難題ナド云ヒカクル義ノこ
 ねナリ貞丈雜記云公事トイフハ禁裡ニテ
 行ハル、政事ヲイフナリ武家ニテモ殿中
 ニテ行ハル、規式等ノ事ハ皆公事ナリ然
 ルニ今時ハ爭論訴訟ヲ公事トイフナリ爭

論ナドヲバ元ハ口事ヲシテ公事トマギ
 レタルナルベシ
くがい 親戚ナラヌ會葬者、又じんぎくがい
 仁義公解ト云ヘルナルベシ仁義ハ字ノ如
 ク禮義ヲ盡スト、公解ハかるべシニ今時
 くがいといふ詞のり公解とかく也本は國
 の年貢米の内にて京都に運上するを正
 税といひ國に残置きて守介掾目らの國司
 どもが分取りテ雜用にするを公解といふ
 職用は全く私用に用ふる也公解は官府に
 ての雜用にするありこれよりして私から
 ぬおしたしを事を(オシダチタル)公解
 といふあるべしト云ヘル是ナリ
けつ 譬ヲイフ囊ツ部ノ下略カ、けハ穢ハシ
 キヲイフ但和名抄ニ尻(之利)トアルヲ呂
 氏春秋ニ許鄙相尻トアリ尻後竅也ト注
 セル尻ハ即チ俗尻字ナレバ後竅ヲ尻ト云
 フヨリ轉リテ尻ヲ穴ト云ヒタルニ出デシ
 カ
けんひき ケンベキノ説、肩ノ痛ミヲイフ發

癖ナリ、注ハ淫癖ナリト玉篇ニ見エタリ
 けち 妖兆ヲイフ恠事トカクト云フ、忌々シ
 キヲ云フ事ノ字チト呼ブ充字也(俚集)令
 案スルニ獨言ヲひとりにち宣言ヲのりこ
 ち、ごらごらノ省カレル語ナルベシ
 こもごらう 蕪女郎、密賣婦ヲイフ小木ニテ
 無免許ノ娼妓ヲ船ヘ遣ルキ蕪儀ニ包ミテ
 役人ノ目ヲ忍ビシヨリ起レリトイフ
 こけり 後夫、後妻共ニ稱ス後家入ト云ヘ
 ルナルベシ
 こへい 青二才ノ稱、小兵兒ノ轉訛カ
 こせ 女盲ノ絃歌スルモノ、稱、御前ト云ヘ
 ルナルベシ白拍子ナドヨリノ轉語、替女
 ノ轉ト云フハアラジ
 こまへ 老人ノ内妾ヲイフ、御席延ト云ヘ
 ルナルベシ
 こらう 又ころ、語聲カ又うしころ、啞者ノ
 稱、特牛ヲこつていれころらうしれイヘ
 バ啞者ノ發聲ノ特牛ニ似タルヨリ云ヘル

ニテころらうらノ轉カウしころノ語ア
 ルヨリ見レバ成然ラン
 こんく 握拳ヲイフ拳肉ノ義ナルベシ拳骨
 ノ語アレバ拳肉云ヒツベシ
 こり 密事、秘事、(或地方)密ニスルコ
 こく ト云フハ宇治拾遺ニモ谷より峯の
 上ささへコソコソのほり下見ニ又コ
 ッソリ言フ杯ノ副詞ヲこそりト濁ル地方
 モアレバ語原ヲ同スルナルベシ
 こまへん 令嬢ノ意、様トイフ敬稱ニ其音便
 語さんヲ重テタルモノ
 さうどめ トイフ田少女ノ義ナリ田
 ノイヲザト云フ田開ヲさびらさ田苗ヲさ
 かへ又其頃ノ雨ヲさみだれナド云ヘルニ
 テ用ルベシ少女ハ女子ノ通稱ナリ作男ノ
 たらごニ對シテ作女ヲイフ
 さんたいふ 土方業者ノ稱、是ハ文化ノ頃越
 後カ坂田邊ヨリ三大夫ト云ヘルモノ來リ
 テ土方ノ一派ヲ起シ、ニ因ルトイフ

かへりちやう 饒舌者ヲイフ、饒舌ヲさべもト
 云フハ、サヘツルノ畧語ナルベシ燕雀ナ
 ドノ轉聲ニ喩ヘシナランちやうハ手ノ轉
 訛ナシメリ
 かへりちやう 關心、煩惱杯ノ意ニ用ウ佛語ノ
 罪障ヨリ申デシ語ナルベシ愛情ヲ遂ゲヌ
 ハ罪障トレバナリ
 かへり 又かへり、性ノ字ナルベシ或ハ強情
 ノ情ノ訛リタルナラン
 じよらさん 上流ノ妻ヲ稱ス、ト薦妹ト云ヘ
 ルナルベシ
 しんせい 離妓其他初心者、是ハ船ノ新造ヲ
 指ヘルヨリ出ヅト
 じやご 痘痕ノ稱、コハいもト云フヨリ其一
 種ナルじやかいもヨリ轉ラシ語ナルベシ
 じやかいもハじやがたらいもノ畧稱
 しみたれ 又さまかし、一はたれ云フ醜垂
 ノ意ナルベシ役ニタヌモノ、用ノタリ
 スモノヲイフ

じやくうま 短氣者又ハ髮ノ亂レタル形容
 語ニイフ
 じりつべた 尻ヲイフ尻邊ノ義
 じやうだん いたづら、じよんから、又みがら
 一、串戲ヲイフみがらくハ身ガ樂、即閑暇
 アルユエニ戯ル、意ナルベシ
 じみ 又じま、質直又ハ儉約、移リテハ華
 美ナラヌ衣類ナド浮華ノ驕奢ナルニ對シ
 テ質味、綿(ジミ)ナドノ意ト云ハ質全
 カ又ハ質味ノ意ニモアルベシ
 まつば 水邊、兵家ニ間者ノ稱、間諜ヲイフ
 侍渡ニテハ身体健全ニテ能ク物學ヲスル
 人ヲ稱ススツバノ人ナドヲ云フ俚集云盜
 ノ一名又間諜
 まべた 平凡女子ヲイフ、外國語ヨリ轉、骨
 牌ニイフ語、一枚ガ一ニナラテバ價セヌ
 平凡ナル牌ノ稱、ソレヨリ轉リテ女子ノ
 平凡狂弱ナルヲイフ

すてツから 強情ヲイフ小倉ノ方言、ステガ
 ッタキノ轉訛ナルベシ俚集ニすてツから
 赤事とした淀ノ方言思ヒ切タル事ヲシタ
 ルト褒美シタル意ニ云フトアレバ佐渡ノ
 ズレカウト云ニモ當ル如クナレモ即チ其
 ズレツカウモモトハステガツタキノ義ナ
 ルベシステガツタキハ捨癪病者ノ義、癪
 者ハ不治ノ惡病ニ罹レル故ニ身投ケヤリ
 ニシ思ヒキソタルコノデキルヨリ出デシ
 詔ナルベシ之ヲフテガツタキ云フ又源
 平盛衰記ニハ不敵癪見エタリ皆同意ナ
 リ猶委シクハ俗語考ニ云ヒタリ又俚集ニ
 てんがう癪癪の音轉也京にて小兒のいな
 づら云ふトアリ是カ、コレナラバやハ
 一種ノ接頭語

すてねご 放蕩娘又ハ密賣女ヲ稱ス
 すのきやう 好事ヲイフ粹狂、醉狂シタル如
 キ意カ粹即チ好ニ狂シタル意カモノズキ
 せんせいさん 按摩ヲ敬稱スル語、但男子ニ限

ル先牛様ト云ヘルナルベシ
 せせり 言語不判明者ノ稱
 せなかうぢご 連レ子ヲイフ、せなかしちノ條
 参照スベシ
 ろんぶり 人ニ馴レ合ハヌ者ヲイフ尊風ヨリ
 轉ゼシカ尊大ブリテ人ニ馴レ合ハヌニ似
 タル所アリ又ハソリブリニテインブリノ
 對カソリハ物ノソルヲ云フ
 かもつ 原因ヲイフ、賊物ニテ法律語ノ轉訛
 カ窃盜、賄賂ナドノ罪ノ原因トナル物ハ
 賊物ナレバナリざうもつ和菜賊物とかげ
 り盜物といふかり俗ニ病根を何がざうも
 つはかるといへる是ナリ
 かつぱり 強情者ヲ稱ス、ソリ張リノ急促語
 カ
 たうご 作男、雇男ヲイフコハきをどめノ對
 語ニテ田人ト云ヘルナルベシソラタウド
 トイフハ媒^{ヒト}ヲナカウド客^{ヒト}ヲマラウド

素人^{ヒト}ヲシロシト商人^{ヒト}ヲアキウド黑人^{ヒト}
 比^{ヒト}クロウトナドイフ類ナリ農人ヲ田人ト
 イヒシコトハ古語拾遺ニ見エタリ又田子
 ノ語アルモ由アルナリ

たうびやく 天保錢用イフ當百ノ面ニハ天保
 通寶ノ字面アレバナリ又くちぬき用イフ
 錢百枚ヲ一緡トシテ不足ナルハ口拔キシ
 タルニ據ル

だんさん だんやん、だんい、又唯だん、下
 流父ヲ呼ブ稱又上流人ヨリ下流人ヲ呼ブ
 ニモ用フル其子ニ對シテイヘル語ナラン
 是ハ檀那ノ下畧ニ敬稱ヲソヘシナルベシ
 又參々ノ急呼ナルベシ參モ唐音トナレモ
 漢音ハ音能ニテ北人呼レ父曰^レト玉篇ニ
 モ見ユ越后ノ岩船地方ニテハ今尙だだト
 イヘリトゾ是正ク參々ナリ

だいく 大工トカク古ヘ礦夫ノ稱、大工ノ大
 工ト別ツタメニ大工ヲ番匠トノミイヒ
 テ大工トイフコナシ

だうしん 乞食坊主ヲイフ、道心ノ義
 だなもの 怠惰者ヲ稱ス眞光寺邊ニテだをべ
 るトイフハだを兵衛トイヘルナルベシ惰
 夫ノ湯桶ヨミカ又撓々ノ義ニテ物ニ撓ミ
 テ強メヌヲイフ語カ

だいないぢい 働カズシテ口利ク人ヲイフ、本
 ハ西三川ノ金山盛ナリシ頃山麓ヲ掘ルヲ
 遠ク隔テ、其土ノ崩ルヤ否ヤヲ見張リシ
 役ナリ此人常ニ大事ナイ、トイヒシ故
 ニ遂ニ此ノ諺ヲナセリトイフ

たうびやく 愚痴者ノ稱、當百ノ音、當百ハ八
 十即チ八厘ニシテ百ニ足ラズトイフ意味
 ヨリオコレリ
 たませ 又たまし、幽靈、亡魂ヲイフ魂ノ轉
 ナルベシ

たか、ゆび 中指ヲイフ、高々指トイヘル
 ナルベシ
 だしご 又だしあひご、飲食會出シ講トイヘ

ルベシだしおひこハ出合請
たぢぢぢぢ 旅行ノ祝宴、立振舞トイヘルナ

ルベシ振舞ハ饗應ノ意

ちんく 上流人ノ母ヲ呼ブ稱、父ヲ呼ブ爺

ルノ訛リカ乳汁ヨリ出デシ語カ

ちんく 仲ノ善キニイフ、知音ノトイヘ

ルナルベシ書言字考ニ珍々トアレドアテ

字ナルベシ

ちっこ 矮小者ヲイフ、贅居ノ義ナリトイヘ

リ小コイモイヘバ小カイノ義

つくなし 無氣力、ヤクニタ、ズ、俚集ニ奥

州、鹿角ニテ臆病ヲイフだじやくこくト

ハちれるヲイフ、駿河ニテ不働人ヲイフ

又づゝらしモイフ越后ニテ氣ノキカヌフ

ト見エタリつくかヲづゝらしモイヒセ

イフトイヘバ術かしノ訛リテ氣ノキカヌ

節句働ト云フコト或ル所ニテハづゝ

者の節句働キトイヘル由ナレバカタク
試ミニカクイヘルノミ

つらみ 怠惰ヲイフ、やみハ癖ヲ云ヒテ

爲スルコトニ用ヒル語、づらハずるニテ

るいノ急カ緩意ヲするトイフト俚集

ニ見エタリ又筑前ニテハ痴鈍ヲイヒ狡猾

ヲイフハ稀ナリ備中ニテ鈍キヲイフト是

亦一轉ナリニ云クヅロハヅロウニテ杜

漏ノ唇音ナラン檢束ナキコト學藝誌林外

來語原考ニ見エタリ

てなが 東濱ニテ田地ノ世話ハヲ稱ス、コハ

膳部ヲ專所ヨリ神饌ヲ調理所ヨリ傳送ス

ル人ヲ手長トイフヨリ所有主ト小作トノ

間ニ立チテ米穀ヲ傳送スルヨリ出デシ語

ナルベシ俚集ニ伊勢貞丈ノ説ヲヒキテ手

長ハ臺所ヨリ膳ヲ持チキテ陪膳人ニ渡ス

取次ノ役人ヲイフ是ヲ役送リトイフ是本

語ナリト見エタリ

てんぼうこき 虚言者ヲ稱ス俚集ニてんぼう

上州ニテ虚言ヲイフでんぼう二字其濁音

てんぼうこき 狼戾者ヲイフ、ててびようハ

山鳩ヲイフ即チ其ナク聲ナリ山鳩ハ小素

狼戾ナルユエニ母ノ遺言ニ川ヘトイヘバ

山ニ葬ルナラントテ川ニトイヒシニ遺言

バカリハ守ラチバナラヌトテ川堤ニ葬リ

シユエニ將ニ雨フラントスルハニ山鳩ハ

母屍ノ流レンコトヲカナシミテ鳴クトイヘ

ル俗語ヨリ出デシ詞ナラン

てびやうらむ 空手ヲイフ、てびらん、てぶら、

モイフ手振ノ轉訛ナルベシ和菜ニ俗ニ徒

也ヲイフ俚集ニ俗ニ物ヲモ持タテ行クヲ

手振トイフ又手ぶらモイフ廻國雜記カキ

るな坂といへる所を越侍るとてある同行

にいひかほつかはしける誹諧歌杖をばに

重しといふ山こゑと難月坂を手ブりに

ぞゆくとアルニテ知ルベシ

どて 女ノ肥満シタルヲイフ、ドテヲ衣着タ

ル状ニ似タルヨリイヘルカ

虚言ニイフ武藏忍アタリノ俗言ナリト見

エタリ

てんぼうこき 又てんぼうこき、癩痢病者ノ稱、

癩痢カシノ轉ナルベシ俚集ニカナナホシ

テ引イテ曰ク、癩痢トイフ病ハ起リ侍ル

ルニ手カキアガキ侍ル者也東人ハ其癩痢

ヲてんぼうこきトイヘルトカヤ然レバてんか

うかく、腕てんぼうこき杯イフコトハ吾妻言葉

ニテヤ侍ラン彼ノ病スル人ノ手カクヨリ

イヒ出デタルコトナルベシトアリ

てらたこ 石カゴヲイフ、石投、擲石、江戸ニ

テ手玉東國ニテ石ナシゴ又ナツコ信州輕

井澤邊ニテはんねいばカ出羽ニテだま

前ニテあゝつご伊勢ニテせの中國及薩

摩ニテ石カゴトイフ擲石和名以之奈介俗

云石奈古介ト古ト通ズ按スルニ一ハ兒

女基石十有余ヲ取リテ之ヲ撒ク一ヲ空ニ

擲ツテ未ダ墜チヌニ撒ケル石二三箇ヲ與

ヘ同クナラ擲ミ合スルヲ拾盡スヲ勝トス

(三才圖會略)トアリ工投ノ音便カ

上流人ガ下流ノ男子ヲ呼ブ其子ニ對シテ其父ヲ呼ビテ敬稱ヲ省ケルモノ前ノトヤン、トヤン杯モ皆コノトヤントヤンヤンナドノ略稱トハ爺ノ轉、稗史ニ參々ト見エタリ長崎ニテモヤントイフトゾトヤンノ急呼ナリ然レバ參々ノ音ニテ支那ノ俗語ノ移リシニヤ

どんく 又どん、癡兒ノ轉訛カ男兒ノ美稱

どんたくり 放蕩者、鈍太郎ノ轉訛カ但集ニ醒睡笑ニ客太郎ノ條ニアリ傍仮字ドシタラウトアリ其頃ハ慳吝者ヲドシタラウト云ヒシニヤト見エタリコノ轉リナルベシ

どろ 人ヲ詈リテイフ詞、ドスハ本癩病ヲ詈ル語ナリ其ドスハ癩ニテ變色シテ皮膚ノ黒色ナルヨリ出デシ語カ、ドス黒イノ語アレバナリ又黒色ヲ帶ビタル血ヲドス黒イ血トイフハ癩者ノ血色ニ似タル黒色ノ血トイフ義ニテ癩者ヲ木トシテ出來タル語ニハ非シカ然レバドスハ只癩ヲイヘル稱呼ニテ邦俗人ヲ詈ルニドス、エツタ、ガ

ツタキト連呼スルヲ思ヘバドスハ、モト屠兒ノ字音ノ轉訛ナルベシ(或ハ屠者又ハ屠衆ニテモアルベシ)屠兒ハ倭名鈔ニ惠止利今昔物語ニ餅取トアル即其義ナリ今穢名トイフハコノエトリノ誤ナリ、カツタイハ本、乞兒ノ稱ナリ和名鈔ニ加多井、靈異記ニ乞匈加多井トアリテ側居ノ義ナリ道ノ側ニ居テ旅人ノ哀ヲ乞フヲ云ヘルヲ遂ニ癩人ヲモ加多井ト云フニ至レルハ癩人モハニ捨テラレハニ絶タレテセシヨリ轉リ後ニハ屠兒モ亦道路ニ物乞ヒシヨリ終ニ癩者、乞兒屠兒ヲ渾稱シタドス、カタキナド云ヘルニ至リシナルベシ古モノヲ詈リテカタキト云ヒシヲハ土左日記ニ此堀取は日名はからぬカタキカカヤリ宇治拾遺ニ心かしのカタキとは已かやうなる物をいふぞかしナド尙ホ多カリ但集ニドスハ癩ナリ上總又ハ岩代ノ諺トアリ

としばい 年長ヲイフ年倍スレバ父トシ事フ

ト云フ排行ニ於テ長者ノナリ(但集)

なんばた 今礦夫ノ稱、南畑ナリ始メ鑽頭夫ガ信州南畑ヨリ來リシガ故遂ニ礦夫ヲナンバタモノト云ヒシニオコル

なつしよ 所化又寺男ヲイフ、納所ノ字音ナルベシ

ないら 骨軟ニシテ直立スルヲ能ハザルモノ言海ニイフ、内爛カ、内勞カ、馬ノ病、猫ノ病佐渡ニテ骨ノ關節充分ナラデ體ノ萎カシタル病者ヲ指シテ云フモコレヨリ轉リシ語カ又萎カカ俚集ニ馬病、假字語尺未詳俗ニ内羅ヲ用ウト見ユ

なんかんもの わちものヲ難艱者ト云フニヤ然レド淨世物語ニ遊女ノ條ニ南華トカヤ名ツケシト見ユレバなんかんハ南華ノ訛ニテ莊子寓言今ウソツキト云フナナルベシ種々轉リテ常ニ變リタルモノヲモ云ヘリ、なんくわ(南華)南花トモカク、アハウネヲイフ 色道大鑑(南華戲(タハケ)タ

ル者ヲイフ昔ハ鈍ナル者ノ異名ニハ云ハズ常ト變リタル人ヲ云ヘリ其心ハ南華ハ莊子ナリ莊子ノ寓言ノ儒ニ變リタルニ因テ云ヒタル名ナルヲ今誤リテ鈍ナル方ニ是ヲヨス、なんくわねん北越後ニテ組暴ナルヲイフト見ユ、以上三語共ニ語原ハ同ク南華ニテ意モ音モ移ロヒタルナルベシ難艱ノ字面牽強ニ近シ

にようさん 又によう、僧侶ヲイフ如法々々ノ轉訛ナルベシ恐クハ普通語、のりさん凡イフ、のりさんハ日、月、神佛ヲ稱スル由俚集ニ見ユ又越前ニテ父ヲイフ凡見エタリ

ねしやう 女子ノ稱、女性ナリ

ねこ 密賣婦、こも女郎凡イフ、寢子、孤女

ねじめ 心ノ締リヲ云フ、生花ノ根締ヨリ出デタル語

ねぶち 又ねぶち、根太ノ、瘍ニ似タル輕キ腫物、血湯

ばいさん ばいさん、ばやん、ばア、祖母ノ稱
貶稱ニハこのばいアリ是亦祖ナラヌ老人
ヲ稱セリ

ばんじやう 水工ヲイフ番匠ナリ、古へ飛彈
大和ナドノ諸國ヨリ京都ニ勤番シタル大
工ノ稱、水工、小工、番長杯ノ別アリ轉リ
テ今ハ木工ノ泛稱、一年ノ間工人ヲ分番
シテ仕へ奉ルカラニ番匠ノ名ハオコレリ

ばんご 鍛冶ノ雇工、番ハ番頭ナドノ番ニテ
守リ居リテ用ヲ辨スルニオコル名カ肆店
ノ番頭モ本ハ番子ノ頭ニテ他ハ皆番子ト
云ヒシ遺稱ナルベシ俚集ニ大阪ニテ番太
郎ヲ番子トイフトアルハ別ナリ番太郎ハ
物賣ヒノ事ナリ

ばうぐ 坊主ノ坊ヲ重子タル小兒詞ヨリ
出デシナルベシ

ばいじやう 愚者ヲイフ百ヲ正數トシテノ語

ルモハハ股語ニテ只弱キ意カ、或ハひは
ト弱キ意カ俚集ニひはづ怯弱又脆懶
ト見ユ

ひだりちよっかひ 又ちよっかひ、左利ノ稱、
手違ノ轉訛カ普通ニ右手ヲ使フベキニ左
ヲ使フハ手ノ違ヘバナリ俚集ニモ手ハチ
ヨツカイト見ユ

ひんづ 不運ヲイフ、火水ノ義

びいさん 又びやん、びこ、ひい、姫様ノ轉、
女兒ノ美稱、所ニ因リテハピンヒ養雜の
記ニ美人ノ轉語トイヘリ

びんかう 髪頭カ前額又ハ頭部ヲイフ、頭ヲ
カウト云フハ首ノカウナリ

ひつろ 破産ヲイフ、俚集ニ答メニ逼塞ノ
名目アリ閉門ノ類ナリ又中國邊ニテハ貧
窮ニテ戸ヲ閉テタルヲ逼塞トイふ紙ニ書
付ケテ門ニ粘置クナリト見ユ

ふんごう 容易ニ面ヲ膨ラス者ヲ稱ス、是ハ
氣嫌アシク澁面作ルヲふまへ顔又ふすふ

ふつかけ 讒誣ヲ云フ、ふつハ打ツト通フ接
頭語、かけハ一ヲ二、無ヲ有トカケテ云フ
義

へぎや 檜物師ヲイフ、檜物屋云フ、へぎ
ハ杉檜ノ材ヲ薄クヘギワリタル板ヲヘギ
イタト云フベキニテ折ナリ折敷ヲヘギト
イフモ同義恐クハ普通語

へもんち 拗テタル業スル人ヲイフ、ハ文字
カトイヘル説アレドもんちガ合フトカ合
ハストカ云ヘル語モアレバもんちハ門地
ニテ門閥ヨリ轉ジタルナルベシ、ハハハ
ノ字ニテモヘゴノヘニテモアルベシ、門

となきす 鼻音ヲ帶ル者ノ稱

ばんだい 後家入聲ノ稱、番代ト云ヘルナル
ベシ番モ代ト同ジ義ニテ先夫ノ代リト云
ヘル意ナルベシ

となきやうじ 鼻染ヲ云フ、鼻小路ト云ヘルナ
ルベシ

となきのき 他國ヨリ無事歸宅ノ祝宴、脛巾
脱ノ饗ナリ

とちん ちんバノ隱語、凡ソチンバノ道ヲ
行クニハ彼方ヘヨツタリ此方ヘヨツタリ
スルヲ四人ヲ四人ト云ヘバ彼方ヘ四人此
方ヘ四人都合八人ノ義ナリトイフ

とらづ 方向、方途

ひこずり 懸垂ノ人ヲイフ、シミダレ
ひとづ 又ひいはづ、ひやづ、虛弱者ヲ稱ス
飯字モひわすカひはすカ又ひはづカ詳ナ
ラズ稜威ノ言別ニ疴弱ナルヲイフ物語書
ニ瘦ヒテ弱々シキヲヒハツヒヒハヤカカ
云ヘル同語ナリト云ヘリひよわしノ語ア

ふナド云ヘル語ヨリ出ツ、こきハウラコ
キ、ヌスミロキ、ダヲコキナドノコキニ
テ一輝接尾語ナリ源氏物語横柱ニ恠じう
若々しきかからひのやうにふすべかほに
て物し賜ひけるか又全帯木ニ心病しき
物としにへん逢ひ侍りしふすぶるに
やとをこのましくナド多カリ其狀ヲ云
フニハブスコクト動詞ニ使用セリ

ふつかけ 讒誣ヲ云フ、ふつハ打ツト通フ接
頭語、かけハ一ヲ二、無ヲ有トカケテ云フ
義

へぎや 檜物師ヲイフ、檜物屋云フ、へぎ
ハ杉檜ノ材ヲ薄クヘギワリタル板ヲヘギ
イタト云フベキニテ折ナリ折敷ヲヘギト
イフモ同義恐クハ普通語

へもんち 拗テタル業スル人ヲイフ、ハ文字
カトイヘル説アレドもんちガ合フトカ合
ハストカ云ヘル語モアレバもんちハ門地
ニテ門閥ヨリ轉ジタルナルベシ、ハハハ
ノ字ニテモヘゴノヘニテモアルベシ、門

地ヲ高ブリテ衆ニ違ヘルヨリ出デシカ
 べにさしゆび 無名指ヲイフ、臙脂(紅)ヲ點ス
 ルニ用ヒル指ナルヲイフ
 べり 又おんべり、諛言ヲイフ
 ぼこ 又ぶこ、小兒ヲイフ、處ニ因リテハ青
 年ニ至ル迄男女共わかト稱シテ名イハヌ
 モ多カリ赤子ナルベシ
 ほんごう 事實ヲイフ、俚集ニ此僧家本等事
 也又演義文杯ニ見エタリ此ハモチマヘア
 タリマヘノコナリ今ノ俗語モ是ヨリ出タ
 ルカト見エタリ
 まみや 眉ヲイフ、目見やカ目見ノ字ハ万葉
 集ニ見エタリ目ヲ開キテ物ヲ見ル目付ヲ
 云ヘリ或ハ眸ヲヨメリ移リテ眉ヲ云ヘル
 ナルベシやハ添字、類聚往來ニ皆ヲマミ
 アイトヨメリ
 まぶ 情夫婦
 むしこ 無宿也、鑛山ノ水ヲ上ゲシ役夫是追

放流刑ノ一種ナリ証據不充分ノ破落漢ヲ
 處分スルニ無宿ヲ名トシテ相當ノ年限中
 制裁ヲ加ヘシモノ名義ハ恒ノ職ニ就カシ
 ムト云ヒテ鑛山ニテ勞動ニ服セシメシナ
 リ古事類苑法律部鑛山役夫ノ條、鑛山役
 夫ハ無籍、又ハ入墨、敵ノ刑ニ處セラレタ
 ル者ニシテ歸スル所ナキカ又ハ再犯ノ虞
 アル者ヲ佐渡鑛山ニ遣ハシテ使役スルナ
 リ而シテ鑛山役夫カ其地ニ於テ犯罪アル
 時ハ鑛穴ニ禁メ置キテ出ツル事ヲユルサ
 ズ之ヲ敷内追込トイフ、天明集成系繪錄
 四十八安永七年四月、御勘定奉行へ、近
 來無宿共多、自然ト惡事モ致候ニ付此度
 無罪之無宿共、先四五人佐州ニ差遣、
 才替人足ニ遣候筈候間、右遣方之義云々
 天保集成系繪錄百、天明八年十一月、三
 奉行エ手元ニ有之品、並途中之小盜等致
 シ具外盜之科ニ而敵、又ハ入墨之上敵、
 或ハ入墨ニ申付候モノ引渡遣スベキ方
 無之無宿ハ門前拂ニ成候所、御仕置相
 濟候上ハ則無罪之無宿ニ候間、門前拂ニ

不レ致直ニ溜預申付置、佐州へ水替人足ニ
 差遣可レ申候云々 坏アルニテ其狀ヲ知ル
 べシ
 めくろぶつじ 儉約ノ佛事ヲイフ、物惜ミス
 ルハノ所持金ヲ日腐金トイフヨリ出デシ
 語、金ヲ惜ミテ費ヤサヌナリ
 めんぼ 眼力鈍キモノ、稱、目閉坊ノ轉訛
 ナルベシ小兒ノ遊戲ニ在ルめどもちばうノ
 狀ヨリイデシ語
 めんぢ 又めんどち、捉迷藏ヲイフ、目閉(メ
 トヂ)ト云ヘルナルベシ
 むしほう 摘ミ喰ヲ好ム人ヲイフ、賤坊ノ上
 略カ
 むしほう びんがり、たけのこモイフ斜視
 眼ノ稱、粗暴ナドヲヤプト云ヒ又怒ルヲ
 モヤゾトイフ眇ハ怒ル眼色ナルヨリヤブ
 ニラミト云ヒヤブ(蔽)トイフヨリタケノ
 コト云フナリひんがらハひか目ノ訛ナル
 ベシヒハソコヒナドノヒニテ目疾ヲイフ

やまいん 無賴漢ヲイフ坑夫ノ古稱、山犬又
 ハ病犬ノ義狂暴ナルニタトフ
 やねんき 骨牌遊ヲイフ骨牌ヲ排列スル狀ノ
 木羽屋葺ノ木羽ヲ並ブルニ似タルユエナ
 ラン
 やば 粗暴ヲイフ野暴カ
 ゆりなだんけんけい 圍爐裏ノハタ辨慶ノ意即チ
 辨慶ヲイフ
 よこひき 偏頗ヲイフ、得手ヒイキノ義ナル
 ベシ
 よせい 餘裕ヲイフ、餘勢力除財カ又古書ニ
 ハ餘情ト書キタレバ或ハ餘剩ナルベシ
 よて よてかつてモイヘバ得手ノ轉ナルベ
 シ
 らつぷ 能樂帥又能樂、亂舞ノ字面ナリ本ハ
 樂舞ノ亂舞ヨリ出ツ建武年中行事十一月
 丑日五節舞姫帳臺試ノ條ニ帳臺におはし
 ますの程亂舞ありト見エタリ俚集ニ亂舞
 (ラツプ)或曰ラツプハ樂舞也ト云ヘリ亂

舞ノ樂ノ卒章ナリ第一、五節舞ノ後ニ殿上人杯ヲ今儀ノ如キ短歌ヲ作りテ諸ヒ舞フコト第二能、ノ間ニ心ヒテテ舞フモハ樂ノ音ヲラキトイフガ古風ナレハ樂舞ナルベシ

怨言ヲイフ、怨言ト云ヘルナルベシ

又をこ、下男ノ稱、男衆ノ字面

又をこ、下女ノ稱、女衆ノ字面

ナルベシ

(丙) 動物 門

魚ノ名、藻魚ノ一種

ありんじよ 蟻ヲイフ、ありむしノ轉訛

ありから 小海老ノ一種、われからノ轉訛ナルベシ、あまの刈る藻に栖む蟲のワレカ

今ノ歌ニ詠メルモノナラン

あまの 一名わかさぎ、淡水魚ノ名、但集

わかさぎ若狭ノ方言わかさぎヲイフ文學諸篇公魚ヲ女わかさぎ字未考常陸ノ川ニ生スル小魚ヲわかさぎトテ時々献上ニテモ販ク甘許ツ、諺刺ニシタルモノナリ物類稱呼わかさぎ駿河ニテ雀ノ魚、伯耆ニテしらす常陸ニテ櫻魚若狭ニテあまの今按ニわかさぎあまのまき同州櫻川ニテ櫻魚トアリ是江戸ハわかさぎナリ

あまの 藻魚ノ一種アイナメノ轉カ又油ノ多キ魚トテ脂目トイヘルカ目ハ鉢目アイナメナドノ目ニテ魚ヲイフ名

なんだ 魚ノ名、海魚ナリ

あまのし 黃頭蛇ヲイフ、青蛇(アヲラロチ)ノ轉略

いごを 糸魚ナリ一名御大名云フハ脊ニ鎧立テタルノ意、針魚用イフ春期田中ニ棲ム魚ナリ

いんころ 犬ノ兒ヲイフ、是ハるぬころノ轉

和名抄ニ狗音句惠奴犬子也トアリ但集ニ犬ヲるぬるぬのこ用イフるぬハ殖狗ノ義るぬのこハ殖ノ子ノ義ナルベシ又るぬのこ用イフるハ助語ナリトアリ江戸ニテハいぬツころト云フトゾ

いそな 岩魚、山川ノ魚ナリ

Sasag 砂蠶ヲイフ、岩蟲ト云ヘルナルベシ

うたのこ 須介黨ノ子ヲイフ

おんころ 又おむころめあ、じよんころばい、

日高魚ヲイフ、相川ニテハおぐるばい又おんころばいトイフ

おびきさん 鯨、海豚、胡蝶杯ヲ尊稱シテイフエビスハ福神トシテ愛敬スルカミナル

かごめ 鷗ヲイフ、カモメノ轉訛(越後、土佐

全シ)

がざもり 寄居蟲ヲイフガウナ又ヤドカリナリ

かたせ 須介黨ノ首ノナキヲ背割リテ鹽漬ニシ乾シタルモノ片脊ノ意ナルベシ

かたべ 縞鯛ナリ

がせ 海栗(ウニ)ヲイフ、然レド倭名抄其他

ノ古書ニ據レバウニトガゼトハ別物ナリ

ウニハ棘甲麻尾海膽尾石楯尾海栗尾云ヒ

テ俗ニイフ針千本ナリ古書ニ又靈螺子ト

モカケリ是レ腸ヲ取リテ醬ヲ作ルモノガ

ゼハ漢語抄ニ甲麻加世ト云ヘルモノ狩谷

掖齋云岩代ニテ海盤車ヲ加世ト云ヒ黃膏

ヲ採リテ醬トナス其味略海膽ト同シ漢語

抄ノ加世蓋即是ナラン仙臺海膽ヲ加世ト

ナス恐クハ非ナラント佐渡ニテモ仙臺ト

同ジク誤リヲ傳ヘタルナラン

まぐらう 魚ノ名藻魚ノ一種

ぐつだひ 沖ノ鯛ナリ

ぐめがひ 蟻(ヨメガサヲ)ヲイフ

くぼ 蜘蛛ヲイフ、クモノ轉

くもだこ 飯蛸ヲイフ形ノ蜘蛛ニ似タルヨリ

云ヒ出デシナラン和漢三才ニ鮪ニ似テ最

モ小キヲ蜘蛛鮪ト名ク加州越州ニ産ス

云ハバ蜘蛛鮪ハ飯蛸ノ一種最小ナルモノ

カ尚ホ能ク其道ノ人ニキクニ飯蛸ト蜘蛛

蛸トハ全ク同種異物ナリトイフ

けん 雞ノ肉冠ヲイフ

けろ 雞ヲイフ、其鳴ク聲ヨリ出タル古

語ナリ催馬樂ニ雞ハかけろト云キぬルア

り

げな 海鱈ノ類ナリ

けらつぎ 啄木鳥ヲイフ、是ハてらつぎ

ノ訛言倭名抄ニ啄木一名鷲天良豆々岐

トアル是ナリ今俗ニきつぎトイフ東雅

ニ東嶽ノ俗ケラツ、キトイフケラハ俗ニ

ムシケラノケラニテ蟲ヲ總ベ言フ名此

鳥木蠹ヲ啄ミヌルヨリノ名テラツ、キハ

反リテコノ轉トアリ

こつてい 牡牛ヲイフ、特牛ことひノ訛こと

ひハ殊負ナリ其体大ニシテ特ニ多クノ荷

ヲ負フヲイフことひハ古語ナリ

こなご 玉筋魚ヲイフ、和漢三才ニ玉筋魚

俗云以加奈古、又名、加末須古トアレド

カマスゴハ爰ニイフ春ニ魚ニ如ク小

ニシテ白色ナリ春未ニ魚ニアレバ自ラ

別物ナリ但其今按ニ一種大サ三四寸背青

腹白用ニ潮水煎之脂多浮ニ干釜中一扱取

爲ニ灯油ト云ヘルモノ爰ノことかナリ

其名ノヨル所ヲ知ラズ小魚子ノ音便コウ

ナゴ俗ニ小女子ト書ク

こうたら へソナゴ、ナリ

さかな 又小兒詞ニせし、魚ヲ云さかハ酒

魚酒ノ下物ヨリ出デシ語ナハ菜ニテモ魚

ニテモ何ニテモ食膳ニ供スルヲ稱スル名

竹林ニ在リテハたけいんと云ヒ庖厨ニ在

り

名抄小麻子(漢語抄云細螺之太々美)貌

似ニ甲麻ニ而細小トアリ揚氏漢語抄云海麻

部比トアリ同類ノ貝螺ナルユエニ(シタ

ゞミ) 綴稱セシヲツブト轉訛セシナルベ

シ但シツビ、ツボ、ツブ皆同語ノ轉ニテ凡

テツボコキ物ヲ云ヘル詞催馬樂ニ女陰ヲ

部比和名抄ニ粒ヲ以奈都昆、常ニ盡ヲ都

類トイフニテ知ルベシ、シタゞミ古事記

日本紀ノ神武天皇ノ御製ニ見ユ万葉集ニ

能登歌歌机之島之小螺ト見ユタルモ是ナ

リ和漢三才所君子相思子和名之太々美俗

云酢貝トアリ世ニ酢貝トテ酢ニ入ルレバ

同旋スルモノ是ノ貝ノ蓋ナリトイフ

してねみ 土鼠ナリ

じやう 蝸ヲイフ、和漢三才ニ本綱ヲ引キテ

蝸ヲ蝸トイフ音屈トアリ屈ノ一音ヲシヤ

ウ尾見ユレバ蝸ヲモシヤウト云ヒシトア

ルベシ

すけたう 須介黨、只魚ノ小ニシテ色ヤ、黒

鳥賊ノコト

しじう アイナメ、但集奥州ニテねうを又し

んじよト云ヒ全國南部ニテハわぶらめ佐

渡ニテしじうトイフ云ヤアイナメヲ愛之

メトイフ義ニテ寢魚又寢所トイフナルベ

シト云ヘレバ佐渡ノしじうモ其轉語ナル

ベシ但佐渡ニテハアブラメトシジウトハ

別ノ魚ナリ

じんた 小鯨ヲイフ、田樂ニスルニ適スルヲ

イフナランじんたハ糞汰トカクヌカミソ

ナリ又五年味噌ヲモイフ味噌鯨ヲじんた

かつト云ヘバ昔時小鯨ヲ味噌漬トセシ

時ノ遺名カ尙ホ考フベシ

したたみ 又つぶ、細螺ヲイフ古語ナリ、和

キモノ、稱、和菜云大口魚ノ一種下品ノモノナリト大口魚、口大魚ハ朝鮮ニテノ命名ト安齋隨筆ニ見エタリ

せい、石蠅(カメノテ)ライフ古語ノ存セルモノナリ但シ倭名抄ニハ龍蹄子(勢)トアレド和名抄異本類聚名義抄伊呂波字類抄撮撰集共ニ世伊トアリ本草和名亦世衣ニ作レド万葉集ニハ石花海ヲ世能宇美ト訓ミイブセクモノ戲書ニ馬聲(イ)蜂音(フ)石花(セ)蜘蛛(クモ)トアリテ別物ナルカ將一物ナルカヲ審ニセテ支那文字ノ由来ヨリスレバ石花ト石蠅トハ全然別物ナルヲ和名抄ニ混同セシヨリ諸書紛然一定セヌトナレリシモ實ハ石華ハ世、石蠅ハ世伊ニテ別物ナリケンモ知ル可カラズ尙ホ委シキコハ箋註ニユヅリテ今ハ言ハズ

附考當國古村名イ華ヲ今ハ重箱讀ミニイシグエト唱フレド本ハ世ト讀ムベク壇ヲラレタル字面ニテ所謂ル古事ノ瀬

河浦モセカノ浦ニテソレガ後世ニテ分レテ石華浦(セノウラ)鹿浦(カノウラ)トナリシニハ非シカ鹿浦ノ毒流ノコトモ由アリゲナレバ試ミニ云ヘリ

せび、蟬ヲイフ、海府地方カホク、鯛ヲイフ(ヒグラシ)鳴ク聲ニヨレリ

せんべい、アカエノ一種ナリ、煎餅ノ如ク薄キユエニ名ヅクカ

せうやく、又どうやく、ほうら、牝馬ヲイフ

だんく、ぶくろ、又かへるこ、だんふくろ、おたんふくろ、蛙兒ヲイフ、御化まじやくしノ轉略ナルベシ俚集ニ科斗ヲイフ或云オタマ杓子ハオ多賀杓子ノ轉訛ナルベシ江戶ニテ蛙兒ノ未ダ魚ノ形ナルヲ小兒輩おたまじやくしト云ヘリオ多賀杓子ハ尤草紙まからもの品をおたかしやくし(犬子集)煮る豆とすくひとぐるや大しやくしトイフ句ニ御多賀宮の御馬か袖ト見エタリトアリ又用捨箱ニ此古製百余年前迄ハ江州犬上郡多賀社より守りに出す

杓子のみに残りたりきとおぼしく尤艸紙ニ曲り物品の段太工のかねや藏のかぎ、檜物やの仕事、鍋のつゝおたがじやくしと並べ出、又玉海集の俳諧にもゆがみありにも壽命長れといふ句に付け手づよさはお多賀杓子荒けつり杯見わたりトアリ然レバオタンブクロハオタマブクロノ音便オタマブクロハ科斗袋ノ義ニテ其卵巢ノ袋ノ如キ狀ナルヲ云ヘルヨリ移リテ蛙兒ノ魚形ナルヲ云ヘルコトナリト御タマノ化ヲ小兒詞ニタ、袋ト云ヒシヨリノ轉訛ナルベシ

だんぶり、又ざんぶり、ざんぼ、蜻蛉ヲイフ、和菜云江談抄云井ハ異國ノ作り字ナリ、延喜ノ御時渤海國醜狀ニアリ其後和訓ヲざんぶりトツケタリト見エタリ寶選錄井ハ以レ石擊レ水之聲ト見エタリ今ノ氏姓ニ因ニ作ルハ此義ヲトルナルベシ津輕邊ニテハ蜻蛉ヲざんぶりと云ヒ信濃ニテハざんぶトイフ杜詩ノ点水蜻蛉歎々飛ノ意

ナルベシト云ヘリトアリ然ラバ此國ニテ水ニ物ヲ投グル音ヲざんぶとんぶと云ヒ蜻蛉ヲモざんぶりと稱スル即チ此ざんぶりの轉訛ナランだんぶりとイフモどんぶトイフモ皆水ニ点ズル音響ヨリトキコエタリ

だごみ、鱈ノ白兒ヲイフ、邦俗だ、らヲ混稱スルユエニだらみカだごみカ判然セズだらナラハだらノ、垂ル杯イフ副詞ニ肉ノ義ナル身ノ合シテだらみト云ヘルニテ其状態ヨリイヘルナルベシだごナラバ考ヘナシ類聚往來ニ鮑味噌餅鼠港味鎌鋒トツハケタル滋味ハ由アリゲナレモ其物ヲ詳ニセズ雪腸ノゴトシ

ちんだい、黒鯛ノ小ナルモノマタ小鯛ヲカクイフ地方アリチヌガイノ音便ナリチヌガイハ菊澤鯛ナリコレ泉州茅渚海ヨリ出ヅルニ因リテ名ク其チヌガイハ實ハ佐渡ノ黒鯛ノ事ナリ其狀鯛ニ似テ黒シ故ニ黒鯛トイフ且狀鯛ニ似テ海産ナレバ海鯛ト

モイフ 鯉ノチ鮒ナリコノチンダイハ之ヲ
説リシナラン

つばくら 燕子ヲイフ、ツバクラメノ下略ナ
メリ

ていしくむし 又かたつんぶり、正しくかた
つぶりとイフ蝸牛ナリ是ハでとむしノ轉

訛、京都ニテでとむし江戸ニテまい
つぶり伊豫ニテでぶし、でつぼろ、伊勢

津ニテでぶ桑名ニテではの松坂ニテで
んし、むし九州ニテではの能登ニテで

んからむし相模ニテでんぼらくらトイフ
（俚集）越后ニテだらう又ハかきつぶり

でんがくらま 蹄ニ病アル馬ヲ云ヒ移リテハ
駕馬ヲモ罵リテイフ味附附クトイフ暗語

ナルムシ

てんじくむし 又このさんらうま、てんじくさん

の おばさん、紅娘

のせいばり 蚊ノ姥ヲイフ

とちがらねみ 鱧ノ小形ナルモノナリ其形
ハツカサズミ 鱧ノ小形ナルモノナリ其形

とつくりがつを 徳利ノ如ク圓キユエノ名鮒ノ兒ニ似タル
モノ

とんび 鳶ヲイフ音便語

とぎ 魚骨ノ咽喉ニ哽ヌルモノ俗ニ魚骨ノ

タチシ時ノ唱歌トテほのくど明石ノ浦

の明霧ノ鳥かくれゆくふねをしそおもふ

トイフ小野篁ノ野ノ初文字ノほとふねノ

ね文字ヲ省キテ三度口吟スレバ即チ脱ク

ト云ヘリ即チほねヲ脱ク意ナラン

とんちばり 狸ナリ、漁夫ハ狸トイフコトヲ嫌

フ故ニ『山の兄三』『山の者』ナドモイフ

とこと 又こゝ、鳥ノ小兒詞其音ヲ重テイ

ヘルモノ

なんかんうま 荒馬ヲイフ南華馬ナルベシ、俚

集ニ北越後ニテ粗暴者ヲなんくわねんと

イフト見ユ南華ヨリ移リタル詞ナルベシ

馬ノミナラバ難驛モイフ可レド人ニモ云

ヘバ尙ホ南華ナルベシ人倫部かんかんも

のノ條ヲ併セ見ルベシ

なちもの 魚ノ腸ノ漬物、魚漬物漬ヲチト轉

ゼルナルベシ

なわた 魚腸ヲイフ、肥料ナリ即チ魚腸ナリ

なめが 蛞蝓ヲイフ、ナメクヂノ 訛

には 海月ヲイフ、詞泉ニにらぎ、動物ノ名

大サ一二寸形いぼだひニ似テ青白ク頸ニ

一ノ針アリト云ヘルモノ海月ノ一種ニテ

名ノヨル所同ジキカ詳ナラズ

のびろ 咽黒、魚ノ名、其油ハ疵藥ニナル

とばち 鱒ノ小ナルモノ

とくむし 又ぎんむし、銀箔ニ似タル色ナル

ヨリ云ヘルナルベシ、衣魚ヲイフシミナ

リ和菜ニ一名蟬(シン)新撰字鏡ニ此字ヲ

訓スレバ其音ヲ訓トセルナルベシ

ばくたう 魚ノ名、藻魚ノ一種

ばんじやう 秋光魚ヲイフ、伊勢ニテまんじ

ゆしやけヲさんまいばなト云フト云ヘバ

サンマト云フヨリまんじゆト云ヒシガ訛

リシカ未詳

とちめ 藻魚ノ一種メバルトイフ、目ノ大ナ

ルヨリ鉢目ト云ヘルカ、はちめニ四十八

類アリトイフ其内セカイ、ツラナゴ、ムク

ヂ、ツ、ジ、メバリ、マハチメ、ドカウ、オ

コゼ、クロ、アカラ、

ひいろ 蠶蛾ヲイフ(或ル一地方)和名抄蛾

比々流(ヒ、ル)箋註、靈異記訓釋同訓谷

川氏曰火箴之戰今俗蠶蝶ヲイフ土佐ニひ

る阿波ニひうりト見ユレハ爰ノモコノ

ひるノ轉ナリ又箋註今俗猶ひいるト呼

ブ信濃上野陸奥ニひる近江ニひゆ、伊勢

ニひいろトイフ皆比々流ノ訛轉トアリ

ひいか 鰯ヲイフ、幹鳥賊ナリ

ひんな 蝸螺、俚集ニ佐渡ニテにかヲ云フト

見エタリ即チ是ナリ、和名鈔云河見子
(美奈) (俗用ニ蛇字ニ非也音拳、連蛇ハ虫屈
貌也) トアリびんな美奈ノ轉訛ナリ昔ノ
蜷川ノ保ハ今皆川村トナレリ

あぐらひ イナダヲ云フ、俚集ニふくらぎ、

はまぢ、魚名、海鱧ノ小ナルモノヲ云フ

あぐ 河豚ヲイフ、箋註倭名鈔候鮪(布久、
云布久倍) 按ニ脹訓ニ布久留ニ是魚怒則腹

脹故名ニ布久一腹脹如レ飽、故或名ニ布久辨

京及江戸ノ俗訛呼ニ布具ト見エタリ普通
語

ぶらん 生魚ヲイフ、無鱗魚ト云ヘルナルベ
シ、無鱗ノ字面書言字考節用集ニモ見ユ

ふよこ 雞雛ヲイフひよこノ轉

へんのこと 又べいのこと、鳴ク聲ニヨリテ名ツ
ク

べと 又べとかじか、ごりんべと、杜父魚、雅
名石伏ヲイフ、倭名抄ニ鮓ヲ訓メリ形ハ

ゼニ似テ大ナリ清流ノ石間ニ居リ、腹ニ

圓キ鱧アリテ石ニ吸ヒツキテ水面ニ浮バ
ズ
べか 雨虎
へり 蛭ヲ云フひもの訛、又正シクひる云
フ
ぼこ 嬰兒ヲイフ、小兒ニ比シテぼこト云フ
ナルベシボコサンヒイフ
ほんかんかけたか 又ほんぞんぞり、杜鵑ノ方
言、其鳴聲ヨリ稱セリ古人ハ之ヲほと
ぎすトキ、ナシタリト見エタリ
ぼり 牛ノ異名、小兒詞、是ハもろノ轉語ナ
リ和訓栞云兒女牛ヲ稱シテ牟ト云フ説文
ニ牟ハ牛ノ鳴象其聲氣從口出也ト見エ韓
愈ノ詩ニモ推肥牛呼レ牟ト見エタリ
まんだら 鯉ヲイフ名義ハ眞名鱧ナルベシ眞
名ハマナカツヲマナ鹿、マナ鶴ナドノ眞
名ニテ眞之轉
むしろ 鰻鼠ヲイフ、和名抄ニハ一一一名助

鼠宇古路毛知トアレド新撰字鏡ニハ蝮蛇
ヲ並ニ牟久呂毛知トアレバむしろハ其下
略ナルベシ

むいな 其子ヲとんちばう、貉ヲイフ、むじ
ナノ音便

めうじ 牝牛ヲイフ、めうしノ訛、靈異記ニ

横ヲヨメリ

めちやう 磯魚ナリ

めめぢ みにやイフ蚯蚓ナリ

もんごう 西濱ニテ中鱧ヲイフ俚集ニもんご
ハ魚ヲ取ル具ニ在リ竹筒ヲヨメリト見エ

タル籬ハ玉籬ニ竹筒也洗レ水取レ魚之具モ

ンドリ、ヤナ、イヤリ今按ズルニ中鱧ヲ捕

漁スルニモノモンドリヲ用ヒシヲニテモ

アリテ云ヘルカ密ナラズ

やまへ 山魚、山川ノ魚ナリ

よたけ 猫ノ嘔吐ヲイフ

よたか 梟ヲイフ、和名抄ニ惟鷗 興多賀(書

畫

伏使行鳴以爲怪者也トアレバよたかト

ふくろよトつくト別物ノ如クナレモ其引

書ヲ通考スルニよたかハ梟、鷗、木免鷓鴣

ナドノ總稱ナルガ如シ

わあく 犬ヲイフ、小兒詞 鳴聲ノ頭音ヲ

カサチタルモノ

をッば 尾ヲイフ

(丁) 植物 門

あてび 檜ノ一種

あんらく 楓樟(マロメロ)ヲイフ、俚集本草

啓蒙中ろのいら、おだのろ、まらうの(南

部) ほらひ(仙臺) ほらひ(同上)

本草ノ楓樟ナリト見ユ其味惡クテ食用ニ

堪ヘヌエ何時迄モ人ニ食ヘル、フナク

安樂ノ菓ナリト云ヘルナルベシ

あかほし 俚集ニ佐渡ノ方言ナリ、あかば

うすヒイフ小麥ノ芒ナキモノヲイフ(火

燒麥) ト見エタリ

あめび 通草ヲイフ
 あめのかこ 竹ノ籜ヲイフ、給ヲ包ミタル故ニ途ニ通稱トナル倭名抄籜ハ笋乃宇波加波ニ笋上ノ大皮ナリトアレバ正シクハ竹のこのうはかはトイフベシ、又籜(竹乃加波)竹皮ナリトアリ然レバ竹のかはトハ言フ可ラザルニ似タリ
 あらもご 和菜云倭名抄ニ稻ヲ訓メリ粗元ノ義ナリこのさき見ユ米裂ノ義今イフ粉米ナリト云ヘリ
 おんばこ 車前草
 いばらしやうき 茨ノ若生ヲイフ、いばらしやうきニイフ茨ト薔薇トノ重語ナルベシ
 うますいか 又へびのたいわう、羊蹄ヲイフ
 かんば 山櫻ノ一種、樺ノ音便ナラン
 かうかのき 合歡ノ音讀ノ訛ナリ
 かうくるび 胡桃ヲイフ
 かしまび 玉蜀黍、菓子黍トヘルナルベシ

がんないばら 蓼莪ヲイフ、一名ヲ書言字考節用集ニタマバラルアレバ丸之いばらト云ヘルカ
 がま 白珊瑚、一名海柳ルイフ
 がますいび 又がますび、莢蒾
 かまなな 又かげはら、莖ヲ云フ其莖ノ花蒂ノ所鈎ノ如ク曲レルユエニ
 かぢむぢり 毛連菜ヲイフ
 かたうり 菜瓜ヲイフ、堅瓜ト云ヘルナルベシ
 きなんぼう 又きかつぼう、細木ヲイフ、木ノ棒ノ音轉
 くさき 又どうのき、海州常山、又臭桐
 くりのは 澁柿ノ一種、栗之江村ノ特産ナリ
 シユエニ云ヒ出テタリトイフ、脊台瀧脇邊ニテハクニニイ柿トイフ即チ栗之江柿ノ轉

くわひん 榲桲ヲイフ、普通ニイフ瓜梨ノ字而カ佐渡志ニ云フ二種共家園ニ植ユレモ相混ジテ詳ナラズト書言字考節用集ニ榲桲ハ榲櫨ノ屬トアリ能ク似ヨリタル物ナレモ和漢三才ノイフ所ナドニ因リテ考フルニ二物ノ名タガヒニ顛倒セルニ似タリ未ダ密ナラズ
 榲櫨ヤマナシトアレド榲子ヲヤマナシト云ヘルト異物ナリ又茅原氏ノ言ニ榲桲ハ爰ノクワリン榲櫨ハアンラクナルベキヲ百ニ顛倒シテ呼ビナラヘリト誠ニ然ルモノ、如シ(かんらくノ條參考)
 げんぎ 割木ノ切屑
 こまば コンバノ轉、落葉ヲイフ
 こまぢ 又ばぢち黄花草ヲイフ
 さがりのち 懸釣ヲイフ、つらいらご覆盆子ヲイフ、いごハ雅言ナリ
 まんばらり 木ヲ根切リシタルキノ如キ形ニナリタル菌ヲ云フ、是ハ倒ニ切レバ三番

粟ノ烏帽子形ナルユエニ云ヘルナルベシ
 さき 大角豆ヲイフ、又小豆ニ類スル紅豆ヲイフ
 しだ 芝ヲ齒朶ヨリ移レルカ
 しよろ 棕櫚
 しんご 燕麥ヲイフ、自然子ナルベシ、蔞カズシテ生スル意
 すいび 又すび、菓蕒ヲイフ、味酸キ故ニ酸蕒ノ訛ナラン
 すいか 又すいご、酸模(スイバ)ヲイフ
 せいだいも 又じやがたらいも、馬鈴薯ヲイフ
 だらり 大柿ノ一種、眞光寺村ノ特産ナリシヨリ眞光寺ダラリルイフ 大キイチフテモ大キイ眞光寺ダラリニツムイタラ夜ガ明ケタノ俗語アルモノナリ、皮ヲムキテ乾柿トシテ食フモノ長サ三寸廣サ二寸許アリ牛心柿ナリトイフ

だんじんも 長芋ヲイフ、薯蕷ノ形大根ニ似タルニエノ名又越後イモモイフ
 ちんくも 又すゞめのはかま、酸將水草ヲイフ
 ちんすいばな オトギリササ 斷續ヲイフ
 ちんぼんく タシボ 又ばばちや、蒲公英
 ちり 紫蘇ヲイフ、即チ其轉
 ちんめう 甜瓜ヲイフ、又茄干ノ小ナルモシカイフ、總テ小キヲモイフ、小兒ヲ言フ
 ちしほり 苔砂草ヲイフ、地縛リト云ヘルナルベシ
 つらみん 但集ニ佐渡ニテはトコ草の花を云フトアリ
 つぶろ 但集ニ佐渡ニテ半夏ヲイフトアリ
 つんぼうばな ヒルガホ 鼓子花ヲ云フ
 であ 九葉柳ヲイフ

どりあし 舛麻ヲイフ但シトリノアシノ名書言字考ニ見エタリ一名ウタカダグサトアリ
 どくまくり オクダミ 羊麻草ヲイフ、毒ヲ除クニ効アルヨリ云ヘルナルベシ
 どりやう 薪ノ一種戸中ナリ産地
 どりつてんばな 養雜記ニ狸麥ヲイフト今モ然リ又合歡ノ花ヲモ稱フ其形ノ心太ツクルイゴニ似タルヨリ云フラントコロテンハ心太ヲイフ
 なんばん タツシラン 蕃椒ヲイフ、其舶來ノ原産地南蠻ト云ヘルナルベシ
 にんにく 蒜ヲイフ
 めいじ 藁ノ拔穂ヲイフ、拔子ト云ヘルナルベシぬいごニテ作レル繩ヲぬいご繩凡みこ繩凡イフみこ和菜云稻穂ノカラヲ云ヘリ實ガヲノ轉ナルベシ又にご凡イフト見エタリ
 ねぶか 葱ヲイフ、根深ノ意ヨリ轉シテ葱ノ

總名、但其苗ヲバキナヘトイフ
 とだかき サルスベリ 又はだかのき、百日紅ヲイフ其樹ノ外觀皮ナキガ如クナレバ云ヘルナルベシ
 ばいた 薪ヲ云フ、楮タルベシ、倍ハ金木ヲ云ヒタハ丸タ板ケタコロタ杯ノタニテ木ヲ云ヘル語トキコエタリ但集ニ遠江ニテ細キ薪ヲイフばいたヲ持てむをられた米澤ニテ薪ニテ打レタナゾト見エタリ、金木ハ延喜式ヲ稜詞ニ見エ又孝徳紀ノ歌ニかかきつけトアルハ楮着ナリ楮ハ小木也文選ニ筵ヲカナギト訓ミテ注ニ小木枝トアリ、因ニイフ煮雜の記ニ芹ヲバイタトイフトアル薪草體ノ似タルヨリ誤レルナラン
 とねるかや 萱ノ立枯ヲ春刈取リタルモノナリ澤根河内ニテ
 ひやすめ 火休メナルベシ蓄火櫛ヲイフ
 びや 枇杷ヲイフ、樂器ノ琵琶ヲモ、シカイ

ひやうび 犬樞ヲイフ
 ひんか イヌツゲ 犬黃楊ヲイフ、但集ニ佐渡ニテイヌツゲヲイフ又ビンカ、ズトイフトアリ黃楊ハ櫛ニ作ルユエニ鬚ヲ搔ケドモ似テ非ナル犬黃楊ハ櫛ニモ作ラヌユエニ鬚搔カズナルベシ
 ぶす 草烏頭ヲイフ、トリカブト、又カブト花凡イフ、山野ニ在リ採リテ藥舖ニウル、附子ニ似タルヨリ名ツクナラン
 ふきのぢいさん フキノタラシ 踏躑躅ヲイフ、類聚往來ニモ踏ヲフキトヨマセタリ
 ほね 和菜云近江ニテ柴ノ細キヲ云ヘリ、北國ニハ凡テ柴ノヲニ云ヘリトアリ秀枝カ榮カノ義ナルベシ但集ニ草木ノ莢ヲ俗ニホエトイフホエハハヤスト同言ナリトアリ粗朶ノコト也

八ハ土壤ヲ平ニシ穀實ヲ聚ムル所以ナリ
無齒杷也ト注セリ

おろけ 風呂桶ヲイフ、即チ風呂桶ノ急語ナ
ルベシ

おかまさん 又へつつい、籠

おあし 六足カ、緒足ナラバカナをぬし、田
植ニ田ヲ平スニ用フル具

おぼろみの 篋ノ一種、大字大須ヨリ製出セ
シモノ

かんこ 漁舟ノ小ナルモノ、あんこうノ轉カ
あとかトハ通ズル例名カリあんこうハ網
子ノ舟ノ意、小まんこノ約ナラン

かたねぼう 柄ヲイフ、肩揚棒ノ轉語ナルベ
シ

かんじき かじきナリ、仲正ノ歌ニかじきは
くトヨメリ標ナリ、雪中ノ滑利ヲフセグ
具 今案ニカンジキハ寒時器カ又冬期嚴
寒ナルヲカンジト云へバカンジトハ氷ヲ

云へル語ニテ氷ヒヲエテ器ノ義ニテ名ヅ
ケシカ又案ニソリ、カンジキ、ナンバ、
皆別物ナリ諸書混同シテ其黑白ヲ辨ビズ
櫂(カジキ)ハ山行ニ乗ル所、滑利ヲ防グ
具金屬ニテ齒ヲ製シテ鞋ノ下ニハク、櫂
(ソリ)ハ泥行ニ乗ル所、沈没ヲ防グ具雪
中亦又之ヲ利用シテ沈没ヲ防グ櫂ノ一種
ニナレバアリ單行ノ沈没ヲ防グかんばノ
條ヲ見ヨ然ルニ仲正ノ歌ニテハ沈没ヲ防
グ具ヲカジキト訓メリアママレルナルベ
シ京師ノ人何ゾ櫂櫂ノ實物ヲ知ランヤ

かきん 便所ノ尻拭ヲイフ、花巾ナルベシ、
是ハ内浦ノ方言最モ穢キ所ニ最モ美シキ
名ヲ付スルナリ又おとしヒイフ拭フト共
ニ壺中ニ落ス義ナルベシ

かなばち 櫂鉢ナリ、石ニテ作レルヲバ石カ
ナバチトイフ詞泉ニ越後ノ方言トアリ櫂
鉢ヲ金屬ニテ作りシキノ遺稱ナルベシ
かけもん 又かけち、掛軸ヲイフ、掛物ノ音
便

磁石ヲ人ニヨリテカクイフ

急須ノ急轉語

大秤也斤量ノ轉語

又ぐらば、具繩ト云ヘルナルベシ、細
キ麻繩ヲイフ、モト鳥賊釣具ニ用フル繩
ヲ具繩ト云ヒシヨリ一般ニ用スルニ至
レルナラン紙繩ニ用フルヲイカノグトノ
ミモイヘリグナモグモグナハノ畧語ナリ

土方ノ用フル鋤ヲイフ

御免下駄、前齒ヲ斜メニ殺グモ
ノ在昔百姓町人ハ政府役人ノ前ニテ下駄
ヲ穿ツトヲ禁セラレシトアリ御雇人トナ
レバ始メテ之ヲ許シタルニ因リテ稱セシ
モノナリトゾ

和菜ニ畿内ニテ石ノ小ナルヲ云フト

アレド佐渡ニテハ材木ヲ横切タルヲ云へ
リ石ニハ石コロトイフ

猫犬ノ食器、昔ハ人ノヲモ云ヒタリ、

しめつけ 藁グツノ深鞋

しやうなめ 胡麻石ノ荒砥ナリ、白シヤウナ

メ、黒シヤウナメノ別アリ内浦ノ方言

しよぐゑ 又只しよぐ卓ノ音ナリ、ツクエニ

對ヘテシヨクエトイフ

じよごんぼ 又こずばかぎ、竹杷ナリ、コノハ

ガキ尉ト姥ガキノ訛、高砂ノ能ナル尉ト

姥ノ出ル時ニ尉カ持テル杷ナルユエニ云

ヘル詞高砂ノ翁嫗ヲモ爰ニテハしよごんぼ

ハト云ヘリ

じふせんばし 楊枝ヲイフ、小箸ナリ十字箸ニ

テ本饅頭ヲ挾ム爲ニ付ケシ箸ニ起レルカ

饅頭ヲ十字トイフ東鑑ニ見エタリ

じやうご 漏斗又ハ女飲家ヲイフ、上戸ノ字

面ナルベシ上戸ノ大飲ナルハ普通語、漏

斗ハ多飲限リナキヨリ又稱ス

しんべいさつり 新平草履カ、草履ノ鼻ニ覆ア

リテ短鞋ノ如キモノ

すぢ 天蚕絲ヲイフ、釣絲ノ先キニ用フルモ

ずんぐり 獨樂ヲイフ、寸切ノ義ナルベシ

せんば 又こいばし、稻扱ヲイフ、せんばハ

千把ニテ一日千把扱ノ略稱、こいばしハ

扱著ニテ古ヘ著ニテ扱キシ片ノ遺名ナリ

せなかうち 物ヲ負フ下着、脊中當ノ轉語ナ

ルベシ、相川ニテハせなをかてトイフ

ららち 又せりかぢ、空口、空籠ナルベシ

女子ノ背負ヒテ土砂ナドヲ負荷スル用ニ

供スルモノ其口空ニ向ヘバ云ヘルベシ

たがき 灰吹ヲイフ、疽吐ノ急轉ナルベシ

だづみやうし 職工ノ器械及家具ヲイフ、だ

うぐハ道具ニテ、モト僧家ヨリ出デシ語

移リテハ家具又ハ武器ヲイヒ特ニ鎗ヲ稱

スル習用ナレリトイフ兵しハ兵式ノ下器

ナルベシ、俚集ニ世話盡ニ道具兵式、首

斬道具ト見ユトアリ即チハ武器

たじ 中古田舎ノ婚入杯ニ持セタル唐櫃ノ

粗ナル椀ノ物ヲイフ筆筒ノ音ナルベシ、

今衣襟ノ具ヲ入ルト云ヘリ、酒壺ヲ入ル

器ヲモ稱セリ今飲食物入ル、小キ棚ヲ稱

スルモノノ轉ナメリ

たが 縮ヌル義、和菜云京ニかつらかけ紀州

ニわ江戸ニ化ガトイフト見エタリ

ちうじ 自在釣ノ中間ニ位シテ上下ヲ調和

スル機ヲイフ、中使ノ義ナリ、在昔村ノ

名主即チ村長ヲ中使ト云ヒシコアリ宮ト

民トノ間即チ上下ノ間ニ位シテ官民上下

ノ間ヲ調和スル役ナルヨリ自在釣ノ中間

ニ位シテ上下ノ程合ヲ調和スル木ヲ云フ

トトハナリシナラン(後ニハ中侍モカキ

名主組頭杯ノ下ニ付屬シテ村内ヲ奔走ス

ル小使ヲイフトトハナリシモ古意ニハア

ラズ)

ちんぎ 秤ノ二種、普通語

ちんぎが 茶釜ヲイフ、カクイフ地方モアリ

つづれ 釣瓶ヲイフ、即チ其轉訛

つづろ 瓢ヲイフ、又ハ普通ノ瓢箪ナラデ圓

形若クハ長圓形ナルヲイフ、地方ニ依リ

テハ瓢箪ヲモイフ其形ヨリイデタル語、

圓(ツヅラ)ナリ

つがひ 藁敷莖ヲ次ギ合セテ藁杯ヲ束ヌル

モノ續合ノ約語

つづら 小兒ヲ入ル、籠ヲイフ、藁ニテ編ミ

テ作ル其形ニ因リテ圓ノ轉カ又藁籠ノ轉

ナルベシ、乳坐ナリト云ヘルハ如何

つまんぼう 杖ヲイフ、杖ノ棒ノ音便

てがらみの 手柄藁、手ニテカラミタル様ニ

編ミシニテナルベシ

てばい 豆木ナド打ツ木、振格ノ小ナルモノ

手格ナルベシ、よればいヲ見ヨ

てんじ 漁舟ノ稍大ナルモノ、艇舳ノ字面カ

艇舳ハ何レモ小舟ナリ

となた 戸棚、小木地方

提燈 提燈ノイフ、即チ其音便語
 提燈ノ 提燈ノ附キタル煙草入、銃卵ノ
 轉意、銃卵ハ銃丸ニテソレヲ入ル、革製
 ノ袋ヲ云ヘルヨリウツリシ語
 提燈 又ハ提燈、ぼろ、縋縋ヲ云フ
 提燈 雪中積雪ノトヲ行キテ陷ラヌ用ニ
 供スルモノ難場ノ義カ、木若クハ竹ニテ
 圍圍ヲ作り藁繩ヲ縦横ニ渡シタルモノ櫓
 ノ一種
 提燈 小兒ノ戯レニ細キ木ヲ一尺許ノ杭ノ
 形ニシテ兩々相對シテ地ニ打チテ杭ノ作
 用ニ因リテ拔キ取ラレタルヲ負ケトスル
 戲、二木ノ義カ二本ノ木ニテ勝負ヲ決ス
 レバナリ、或地方ニテハめつぎモイフ、
 めつぎハ女男木ニテ二木ヲイフナラン、
 提燈木トモ云ヘリ、地ヨリ生シテ拔キ難
 キ意カ
 提燈 又ハ提燈、嶺山ニ用ヒシ器具、柔術道
 場ノ敷物

提燈 荒砥ノ代リニ自然石ヲ用フルヲイ
 フ、胡麻石ナリ、歌見ノ方言
 提燈 小船ヲイフ、駛セキカ
 提燈 弓張提燈ヲイフ、馬上ノ字面ナリ
 骨董集ニ享保十七年の印本万金産葉袋巻
 之一提燈ノ類を云も條に「馬ちやうちん
 (鯨の弓まか)と見わたるにて按ふに
 今ノ弓張提燈といふものは馬上提燈とい
 ふが本名にて元は武家方に始まりしもの
 なるべし享保以前ニ此の提燈所見かした
 見エタルニテ知リヌベシ
 提燈 早道トカク、ねぢ縫ニシタル袋ナ
 リ、俚集ニ諸侯ノ賤シキ役人ニ在リ又金
 錢ヲ懐中スル袋ニ在リト見エタリ
 提燈 洗濯鹽ヲはんざらモはんざりモ云
 フはんざらハ半挿ノ誤用、匣(ハンざら)
 ハ柄アリテ半其内ヲ挟ムモノナリ、ハン
 ギリハ桶ノ半ヲ切リタル如キ形ナルヨリ
 云フカ

提燈 鮎ヲ漁ル籠ノ一種
 提燈 馬ト提燈ヲイフ、ふらりんハ下ル
 フライラ形容ノ詞、馬提燈ノふらりト下
 垂セルヨリ名ケシナルベシ普通ニゾラ提
 燈トイフ
 提燈 文箱ナリ、フミハコノミヲ省ケルハ
 合語ノ一格ナリ、フミヅクエヲフヅクエ
 フミハサミヲフバサミサドイフノ類
 提燈 瓢箪、瓶ノ義、詞泉瓠、植物、蔓
 草ノ名、夕顔ノ一種實ハ圓クシテ平タク
 肉ヲカンベウトス匏トアリ
 提燈 布巾ノ音ナリト云ヘド拭絹ノ義ナ
 ルベシ又鉢盂巾ヲはゆさんトイフノ轉ゼ
 ルニヤ
 提燈 靱ヲ曝ツ木、形棍棒ニ似テ細ク長
 シ振格ナルベシ格普通ノ音ハボウナレモ
 バイトイフ音モアル字ナリ、玉篇ニ格ハ
 打レ穀具ナリト見エ、三才圖會略連枷(カサ)
 ノ注ニ枷ハ加ナリ柄ノ頭ニ加ヘテ穂ヲ搦
 穀ヲ出スナリ方言云々關ヨリ西ニハ格

提燈 ト云フトアルニテ知ラルベシ提燈ノ手輕
 ナルモノナリ
 提燈 ふうトモ湯ヲイフ小兒詞
 提燈 ヒキギ也、粉摺白ニ用フル』ノ如
 キ形ノモノ
 提燈 總ベテノ籠ノ具ヲイフ、紅粉ベニノ轉
 語
 提燈 庖丁ヲイフ
 提燈 田樂提燈ヲイフ、雪洞(ホシギリ)
 短葉ノ類ヨリ轉リシナルベシ
 提燈 網ノ名、金丸邊ニテ鮎ヲ取ル小網
 ナリ、詞泉ニ前挽、已ガ手本ニ向ケテヒク
 モノトアリ即チ其意ノ名、大鉦ヲモ稱セ
 リ
 提燈 又みよし、おもて、船頭ヲイフ
 提燈 飯櫃ヲイフ、飯注ト云ヘルナルベ
 めしつぎ 飯櫃ハ盛リ入ル、ヲイフ必シモ水液ノ
 ミニカキラズ

めかひ 竹箕ヲイフ、竹ニテ作り目ノ荒キ匙ナルエニ云フカカヒトハ総ヘテ物ヲスク具ヲ云ヘル總名ナリ中ノ凹ミタルヲイフ具匙類ナド皆然リ

めてたいめん 目出度木綿ノ字面、死者ノ葬儀ニ用フル薄キ木綿ナリ、布ハメデタイヌノ尾イフ不吉ノ反對ノ稱、古ヘ葬事ヲ吉事ト云ヒシト意也ヘリ

やたか 湖水ノ漁具、柴漬ナリ、魚槽トカクハ如何、梁高ノ義ニテ梁ヲヤグラニ組ミテ高ク作レル意カ

やうじ 小箸ヲイフ、普通ニ割齒(ヤウジ)ヲ云ヘド小箸ヲモイフ元、楊枝ニテ作レルヨリ出デシ語ナルベシ

ゆづり 兩、又ハ藜實子杯ニテ編ミタル食籠ヲイフ其狀苞苴ニ似テ兩ニテ作レルユエニ藜苞苴ノ轉語ナルベシ

わらんぢよ ワラグツノ音便、ワランヅトナリ再轉シテワランヂ、ワラヂトイフ其訛

ナリ
わッば 又ちげ、檜物辨當ヲイフちげハ小筒ナルベシ普通ノ飯櫃ヨリハ小キ筒ノ義筒トハ櫃碗等ノ總名ナリ、わッばハ櫻子破子(ワリゴ)ノ轉カ又ハ辨當ハ一物ニテ膳碗ノ用ヲ兼ヌルヨリ碗盤カ盤ハ今ノ膳ヲイフ膳碗ノコヲワンパントイフ語今ニ殘レリ

(巳) 服食門

あきあち 鹽鮭ヲ云フ、詞の泉、鮭の蝦夷語トアリ

あなれ アラレモ云フ、飯ヲモ又飯ノ如ク細ク切りテ乾シテ熬リタル餅ヲモ云フ

あほ 餅ノ小兒詞、京都女詞ニ餅ヲおも、又ハあんも云フ其轉ナリ、餠餅ヨリイデシ詞ナルベシ

あて 腹當ヲ云フ

あやめたんご 葛蒲團子、竹串ヲ四又ニ割リテ

かの 濁酒ヲイフ謎語ナリ、密造酒ナルユエニ其名ヲイフヲ憚リテかのトイフ、江戸時代ニハ鮑、海鼠ハ官營ニシテ民間ニ販賣及食用ヲ禁シタレバ其頃ハ右二品ヲモかのト云ヒシナリ

かうせん 大麥又ハ糯米杯ヲ煎リテ粉ニヒキタルモノ香煎ナルベシ

きらぎ 豆腐ノカラヲ云フ、キラズシテ用フルニ足ル也花鏡ニ雪花菜ト見エタリおからモイフ庭訓往來ニ雪林菜ト見エテ抄ニ豆腐ノ糟ナリトアリ

かきもち カケモチヲイフ、柿餅ノコニアラズ飲餅ナリ

かぶし カブスニ用フル物、椎茸、松魚節ノ類、是ハ動詞ノ名詞トナリタルモノ、カブルノ他動性カブスノ居体言ナリ

こしきんぎょ コシキ纏、即チ襠褌(ムツギ)ヲイフ襠褌ハ史記ノ註ニ闊サ八寸長サ八尺用テ約ニ小兒於背ニ而負行上保ハ小兒ノ被也

又毎ニ小キ團子ヲ四ツツ、貫キタルモノ其狀あやめノ花ニ似タリト佐渡ノあやめ團子ハ一本ツ、トセシモノナメリ

SU イキヌヲ云フ

いもじ云フ、女禪ナリユマキ、ユモジノ轉、但集二布ノ注ニ女の湯卷ナリ物類稱呼二布女ノ身ニ近ク腰ヲ塞ク具也

京ニテきやふ畿内及美濃近江ニテゆぐ西國ニテゆもの上総ニテみまね江戸ニテ下帶、ゆもじ陸奥ニテこしき津輕ニテよまさト云フトアリコノウチ佐渡ニテ下帶ハ男禪ノ一稱ナレモ腰卷ハ尙女禪ノ一稱ニ用ヒラル、アリ

おかす 又おかす、さい、御數々ト云ヘルベシさいハ菜ナリ、植物ノ菜ヲ限ルニ非ズ

おつげ 又おしる、おツちエ、燕石雜誌云飯ニ付ケテ食フノ義ナリト

かい 粥ヲ云フ

ト見エテ強ハ負兒ノ帶、保ハムツギナルヲ邦俗泥ジテムツギトセリ、俚集和菜等ニムツギハ纏綿ノ意ナルベシ日本紀ニ纏綿、網繆ヲムツギト訓メリムハ身ツハ助語マルハ卷ノ義ナルベシ凡テ物ノ質ヲミトイフムツギハ即チ身纏衣ノ義ナルベシトアリ然ルニ越佐方言集ニしめし(濕巾)ニ填テタルハ非ナリ然シ古ヨリコノ誤リハアリト見エテ塵添埃囊抄ニ襪襪トハ小兒ノ便利ヲ受クベキ物歟常ニハサコソ思ヒナラハシタレ但本意ハ不然云々是小兒ヲ包ミ負ヒ歩クベキ物也便宜ナレバ不淨ノ物ヲモ拭ヒ取リナドスルニコソトアリ

古キ衣類ヲ裂キタルヲ緯ニシテ織リタルモノ、裂織ト云ヘルナルベシキオノ約コナリ

雜炊トイフハ非ナリ雜食ナリ貞丈雜記ニト膳名ノ記ニ女ノ詞ニさぶらむヲおみさうト云申見エタリ、是ハみさうづ

ノ略ナリトアレド雜食ノ義ニテ飯名ハザフスキナルベシ食心音シナレド拗音ニスキト云フコアリ中食ノコヲ古ヘ問食云ヒシヲ硯水齋尺書ケバナリ水モ寂モ本音ナナルヲスキト訓メバ食モシカ云ナルベシ倍テ其雜食米ノ外ニ雜物ヲ雜ヘタル食トナリ今ハ只味噌ヲ加ヘタル粥ヲイフコトナルモ正月七日ノ七種粥ヨリノ遺名ナルベシ今佐渡ニテモザフスキモオミツル云フハ京都ノ音ナルベシ轉リテさぶらむトイフ

カサメシ 交飯ヲしたおきのしトイフハ一椀ノ下ニ置ク飯ノ義(べつたうノ條參考セヨ)

シツボクノ轉、シツボクハ卓袱ノ唐音トイフ唐風ノ食事ニ用フル卓ノ名、四脚ニシテ高サ三尺許周ニ布帛ヲ垂ルヲイフ其飲食ヲ一料理トイフヨリ轉リテ蕎麥ニ松茸椎茸蒲鉾肉ナド加ヘテ煮タルモノ再轉シテ蕎麥餅杯ノ汁ニ牛肉鳥肉杯

加ヘテ煮タルヲカケテ食フヲイフしめし 書言字考節用集ニ濕巾(シメシ)ト見ユレバ普通ニモ云フナルベシ大小便ヲ濕シ除ク具ナリ水杯ノ散リタルヲ拭フヲシメストイフ語モアレバ濕巾ノ字而能ク當レリ

雜煮餅ノコ也、吸吻餅トイヘルナリ

かまぶく、蒲鉾ヲイフ、魚肉ヲ糖リテ作ルユエニすりものトイヘルナルベシ

又しよろッぽん、庭訓往來ニ載蘿荷ト見エテ抄ニ大根ヲ織ク切リタルナリ、俗誤リテ(かろッぽん)ト云トイヘリ、センラフノ音轉、類聚往來ニハセンロフト傍訓セリ

蕎麥素麵ナドノ童詞、禁裡女房内々記ニぞろッぽん、又ぞろッぽんともいふトアリ其物ノ狀ヨリ呼ベル語ナルベシ

蕎麥切ノ太キモノヲ味噌汁ニテ煮タルモノ其形ノ餡汁ニ似タルヨリノ稱ナルベシ

又すまし、味噌ヲ煮テ漉シテ澄シタルモノ、書言字考ニ清醬(シラ)清汁(シラ)トアレド清汁ハ清酒ヲ云ヘルニヤ是清酒名ノ中ニ挾マリタリ俚集ニ垂一料理物語一ハ味噌一升ニ水三升五合入レ煎ジテ三升程ニナリタル時袋ニ入レタレ申候也古寫本節用集醬タレミン漿同ジ下學集有之ト見エタリ

出シト云ヘルベシ、香味ヲ煮出ス義ノ動詞ノ居体言

女ノ頭飾ニ掛ル絹切、短綫カ

小倉ニテ惡衣ヲイフ、次衣(コギ)コノ轉カ陳衣ニテ古衣ヨリ起レルカ、繼子ツギコノ訛ナルベシ

布帛ノ切ヲイフ、繼ノ義ナルベシ

ぼんらんニ同ジ、即チ其轉語ナルベシ

羽織をいふ(河原田近方)貞丈雜記ニ胸服
 云は今の羽織の事胸中にばかり着るや
 うにたけの短きゆゑ胸服といふなり、道
 服ともかけざるは誤り、道服とは別
 也道服は腰より下にひだはりて僧の衣に
 似たるものなり、公家大納言以上の内
 々に着せらるるもの也云々トアリサレバ
 河原田邊ノ羽織ヲイフガ近クシテ相川邊
 ノとんちんヲイフハ轉訛ナルモ胸服ノ字
 義ニハヨク合ヘリ

大薯蕷、オホトロ、糲聚往來ニ見
 エタリ佐渡ニテモトロ、汁用單ニトロ、
 用イフ薯蕷ヲ解カシテトロ、セシムル
 ヨリノ名、盪汁ノ義庭訓往來ニ薯蕷腐ト
 見エテ抄ニ山ノ芋ナリとろ、汁ノコナリ
 とろ、汁ヲ青洲汁共イフトアリ
 袖ナキモノ荷摩ト云ヘルナルベシ、
 荷ヲ負フニ着レバナリ
 入麵、索麵ヲ味噌汁ニ入レテ煮タ
 ルモノ煮麵ノ音便ナルベシ

有袖便具ヲイフ、寢纏ト云ヘルナル
 寢纏
 寢衣ヲイフ、寢着物ト云ヘルナル
 綿入ヲイフ、布子ノ轉
 義ノ名、實ノ入ラズシテ汁ノミ
 ナルヲイフ、走ラカシノ義ナルベシ、ハ
 シラカシ汁俚集義の名邇言便囊抄衣食門
 走汁、阿蘭陀丸ニ番船登小舟さしたる事
 も候はずといふ句に浦は濱名のハシラカ
 シ汁ニ座敷能居舞囃用イフハハシガ、
 リナシトイフ謎ナリ
 襦袢ヲイフ、膚衣ノ義ナルベシ
 又ベア、衣服ノ小兒詞、美服ヲ赤ベヤ
 アトイフ又ばい用ベア、用イフ燕石雜
 志ニ衣裳ヲベイトイフハ美々ノ義カトア
 リ

濁酒ヲイフ、八貫ナリ近世ノ謎
 語ナリ家用酒稅壹石以内一ヶ年八貫即

チ八十錢ナリシ片ノ遺稱

とんちん 又はんちや、半纏ヲイフ、半着ノ
 字面ナルベシ

とんちん 又はだそい、はだそい、女褌ヲイフ
 肌衣ト云ヘルナルベシ

ばとん 通例ノムギ飯ニ非ズ、麥飯ニ羹汁
 ヲカケテ喰フノ稱、通例ノ麥飯ヲムギ
 メシトノミ云ヒテバクハントハ言ハズ其
 間ニ自區別アリ

ばつば 煙草ノ小兒詞、飲ム時ニ發スル音ヨ
 リ出ツ

ふとふと 餅ヲ煤デ、黃豆粉ニ黒砂糖ヲ和
 シタルヲ付ケタルモノ其狀雪吹ノ衣服ナ
 ドニ附着セルニ似タリ其名ノ據ル所ヲ知
 ルベシ

へぎめし 一鍋ノ中ニテ白飯ト交飯ト二様ニ
 炊ク法アリ、米ヲ下ニ置キ交物ヲ上ニ置
 キテ炊キ終リタル後上方ヲ割キ取リ

下方ノ白飯ヲヘギメシト云フナリ

べつたう 蕎麥かきヲべつたうトイフハ其意
 ヨクハ解ラテド用捨箱ニ別當ハ守傳ク義
 ナリ、ソレヨリ轉リテ俗語ノ別當ハ我儘
 ニ扱ヒ恣ニ物杯喰フ事ヲイヘリ童子ノ嘗
 神杯ニ菓子杯ヲ具ヘテソヲ取オロシテ喰
 フ別當トイフ是ナリ今モイフ底ノ別
 當モ此俗語ニ近シ守傳ク義トアリ又大辭
 書ニ別當ハ神官ノ一名、喰フコト別當
 トイフハ是ヨリ起レリ神官ガ神供ヲオロ
 シテ食フ故ニ杯アルヲ合セ考フレバ唯食
 フコトイフヨリ轉リシナルベシ但シ俗ニ
 能ク物ノオチツクヲべつたりトイフガ
 ソバカキバカリベツたりシタル食物ナケ
 レバベツたりノ音便ベツたりトナリシカ
 又古ハ米飯ヲ重トシ常食ニハ重ニ雜穀ヲ
 紛ニシテ喰ヒシガ特ニ蕎麥粉ハ多ク用ヒ
 タリ、是ノ粉ヲ交ヘタルヲ粉飯トイヒシ
 ヲ一ニ頭巾用云ヒシハ常ニ梳ノ下部ニハ
 米ニ菜木根杯交ヘタル飯ヲ主婦ニテ半分

計盛リ其上部ハ各自勝手ニ粉飯ヲ盛りテ喰ヒシ故ニ粉飯ヲ頭巾トイフハ下置飯ニ冠ラセル義又菜大根坏交ヘタル飯ヲ下置飯ト云ヘルモ一椀ノ下ニ置クベキ義ナラシメ其下置飯ノ上ニ蕎麥粉ヲ搔キタル粥ヲ冠セルコト粉飯ノ如クニスルコトアリ之ヲ別當トハ云ヒシナルベシ別當ハ禮宜神主ヨリハ上位ニ在リシナリ、スツタ者(僧侶ト粉)ハ粉飯デモ上ニ居ルノ謬アルモコノユエニテ蕎麥搔粥ヲ別當ト云ヘルモ下置飯ノ上ニ居ル義ナルベシト川上喚瀆ノ云ヘル面白キ説ナリ

ほろひ 雜菜羹汁ヲ用ヒズシテ飯ノミ喰フヲイフ方喰ノ重箱訓ナルベシ、然ラバはろひナリ

ほろひ 此國ニテ米ヲ菩薩トイフハ韓國ヨリ傳ハリシ語ナルベシ和菜云俗ニ菜穀ヲ菩薩ト云ヘリ遠江天龍川ノ上ニテハ專ラ稱ス雞林類事ニ白米曰ニ漢菩薩粟曰ニ田

菩薩ト見エタリ、白ヲ漢トイフハモトヨリノ韓國ノ方言ナリト云ヘリトアリ

ほんちん ポンチン昔貴人ノ下製ニ半臂(ハッビ)アリ唐ノ製ニテハ袖ナク邦製ニモ袖ハ四分ノ一足ラズホカナクテ殆ンド今ノボンチンノ狀ナセリ然ルニ此半臂ヲ唐ニテ背子ル背心トイフヲ唐音ニテ呼ベバホイウウ、ホイシン、ノニツトナレリ然レバ唐ノ方言ナルボンチンモ其背子若クハ背心ノ唐音ヨリ訛リシ語ナルベシ今半袖ノ衣ヲハッビトイフモ右ノ半臂ヨリ出デタルハ是説ヨリドロコナキニシモアラジ又ほんちんとモイフ

まへかけ 前垂ヲイフ朱紋ヲアカマヘダント周禮ニ見エタリ

まごし 又まごし、男禪ヲイフ廻はし結ぶト云ヘルナルベシ

まごし 粽チマキヲイフ、笹ニテマキタルヲサ、マキ薄ニテ卷キタルヲス、キマキ杯

イフ茅ニテ卷キタルヲチマキト云ヘバ総名ヲマキト云ヘル反ツテ本語ナルベシ但シマキハ禁裡女房内々記ニセキ、チマキノコトアリテ宮中女房ノ語トセリ

めつこめし 物ノカタノツ、ニナルヲイフ半煮エテ半煮エヌ飯ヲめつこ飯トイフ片目ナルヲモのつこトイフ本ハ目ヨリ移リタル詞カ目ハ目一箇ナリ

もさけ 口取物ヲイフ、盛交ノ義ナルベシ

もつこふんごし 越中御ヲイフ、但シ普通ニモイヘルナルベシ歴世服装考卷六袴ノ部ニもつこふんごし明良洪範ニ伊藤三白といふ老醫細川三齋公ノ軍物語ノ序にいふ死候へば骸は肉落るをり就中戰死ハ血も多ク出下病死トは異にて結び付けしものたまるべきやうかし下帯とて、落ち申すものなりそれ故功者ある心掛の者は下帯の結のど前の方とに緒を付し首へかけしつこふんごしと申して用ひ候是れ死後も脱

落ちぬ用心なりと被申候とわら製は異なれども今の名は是より出づ云々ト見エタリ序デニ同書ニ見エタル異名ヲ記シ出デヌベシタフサギ、スマシモノ、チヒサキモノ、膚ノ帶、下帯、手綱上方ニテフドシ關東ニテフンドシ上總邊ニテタフサギ長崎又日光邊ニテベコ奥州ヘコシ常陸ハ

もじり 半筒袖衣ヲイフ、斜ニスルヲもしるトイフ俗語アレバ其袖ノ□ノ如キ斜ナルヨリ云ヒシ語ナルベシ緞子ニハアラズ

やたらさうり 一名シヤウノミトイフ醬油ノ粕又ハソレニ大根葱杯ヲ切りテ加ヘタルモノ、稱

やぶつ 夜具ヲイフ、夜物ト云ヘルナルベシ古ヘハ之ヲ夜ノ物ト云ヘリ

やせごま 又やせごまトイフ、糝糕ヲイフ俚集ニ信濃ニテ二月十五日釋尊ニ供スル餅

ノ名也米ノ粉ニ豆ヲ入レテ火吹竹ノ丸サニ長キ形チナリ口ニハヤセウマヲ野少末ト稱フ瘦馬ノ義ナリトアリ此調ノハ豆ヲスレズ青赤ノ繪具ニテ色ドレリ

ゆて 浴湯用ノ手拭ナリ

ゆみろ 柚味噌、味噌汁ニ米粉ヲカキタルヲゆみろ汁トイフハゆみろトハ異ナリ、柚餅子ヨリ轉リシ語カ柚餅子ハ味噌米粉麴粉砂糖ヲ雜セテ柚汁ヲ加ヘタル物ナレバナリ味噌ト米粉ト雜ヘタル様ノ能ク似タレバナリゆがい用イフ

ゆでみろ 米菜大根混交ノ粥ニ味噌ヲ加ヘシモノ、稱、即チ味噌粥ニ粉ヲ搔キシモノ

ゆみそヨリノ轉ナルベシ

よこし 味噌ニテ和ヘタルモノヲイフ、物ニ味噌ノ付着キタル其狀物ニ汚点ノツキタルニ似タルヨリ云ヘルカ俗語ニ人參葉ノよこし除リヨラもあくわらうもあじトアリ鹽物ヲイフ

庚 雜 門

あつちこつち 彼チ此チナリ、反對ニナルヲイフ、わべこべ、彼方此方ニテ其意アチコチニ同ジ

あか 危険ヲ感ズルニイフ、面色ノ赤クナルヨリイフカ

あけ 又あけくのはし、結局ヲイフ、連歌ノ擧句ヨリ出デシナルベシ

あをのけ 又デンボウガヘリ、ノケサマヲイフ、俚集ニ古節用偃仙傳抄ニ棚ノ上ノ花ハ下ヲ受ケテ前ヘカ、リタルヤウニタツル下ノ花ハ上ヲあをのくヤウニ立候也凡見ユ

いっさういっさう 埒ガ明カヌヲイフ一向再向ナルベシ一向トイフヨリ同ジ調子ノ再向ト重キタルモノ

いかさま 其物ヲシイ形ヲ見セルコト、ニセモノ、いかさまの品

いざねぢち 田ノヒノヲイフ、小倉ノ方言、早

リニテ觀レ目ノ附キシヲイフナルベシ早損ヲヤケルトモ云ヘバ熱ヲイキレルトイフヨリ起リシ語ナルベシ(川上氏說)

いびつナリ、又云二箇圓一飯櫃ノ形ヨリ出デシ詞ナルベシ飯びつハ郷談正音ニ

飯桶ト見エ又乙字ヲヨメリ易ノ京房傳ニ乙ハ屈ナリト見ユト今枉レルヲユビツト

イフ是ナリ又飯櫃ノ本形ハ〇ノ如キ故ニ細長ク丸キ物ヲいびつ形トイフ略シ

テいびつ形トイフト貞丈云ヘリ然レバゆびつハアヤマリナリ

いひ 又いひかひ、甲乙互ニ往來シテ働クヲ

イフ結又結交ノ義ナルベシゆひハ結ヒノ義相連ル意カ堀河百首ニ殘る田は十代に

すきじ明日は唯ゆひもやとばで早苗とてんでんドアリテ其注ニユヒハ賃ヲ取りテ人

ノ用ヲキクモノ也タトヘバ筆耕ヲ取リテカクヲバ詩ニモ庸書ト云ヘリ庸字ヲユヒトヨム當世ノ日庸トヤトハレアリクモ此類ナリトアレド佐渡ニハ日庸ヲバ別ニ

ダウドト云ヘバ此意ニ非ズ爲平千首ニ十代にもたらぬ庭田の早苗草ゆひの手まはる程だにもふし又甲陽軍鑑ニ此里にゆひする人やあかるらん三ふしたつまで早苗とらぬはナドアリテ例シモ早苗トルニミ訓ミタレド足代弘訓ガ陸奥出羽ニテハ互ニ爲ル事ヲゆひトイフ互ニ按摩スルヲゆひわんまトイフ類ナリト云ヘル如ク萬事ニ附ケテ双方相結ビテ互ニ物スルヲイフ語ナルベシ御互ニトイフベキニいひたがひ用フル以テ曉ルベシ

いひ 仔細ヲイフ、言フノ延言イハクナルベシ

うらぼん 孟蘭盆ノ義ナルヲ知ラズシテ俗ニ七月十五六両日ヲ表盆ト云ヒソレニ向ヘテ十七日以後ニ休業スルヲ裡盆ト云ヘリ

うツかりひよん フヌケタル狀ヲイフ、ウツカリ、又ボンヤリ、ウツカリハ浮ビタル狀ヲ云ヒ、ヒヨンハボンノ轉訛、ボンツタ、ボンヤリ杯ノボンナリ忙、呆杯ノ音轉ナ

おほしきおほしき 天運次第トイフ如キ意、又其日ノ夷杯モイフ、幸福ヲ天ニ任スル義ナルベシ夷ハ俗ノ幸福ノ神ナレバナリ

おほまれ 安心スルヲイフ、コレハおほハおほラナリ中雲風土記國引坐大神段ニ八東水

御立而普惠登 詔故云ニ意字トアリテ意惠ハ本原翁云事ニ勞シテ苦シキヲ休フ時ノ聲ナリ云々後ニ轉リテ意字トナルトアリテ物ノ苦ヲ爲シ訖ヘテ意字ト聲ヲ發シテ休息フハ安心セル徵ナレバ遂ニ安心ノ事ニ用フル語トナルナリやれハ歎息辭ニテヤレデカイタナドノヤレナリ、ヤレト呼ビカケテ勞苦ヲモハスコエ

おんご くとご 節ノ一種、音頭ノ義ナルベシ普通ノ歌謠ノ發聲ヲモイフおんご歌謠ヒテ躍々一種の踊あり、越後じんくノ一變セシモノ

ノ精算スル祝ヒ也

がらばり 詔ル言(小倉) がつた がつたハ音ニテかつたハ腐ノ意カ、粗ナル家財雜具ノ稱、がらつた道具 がつらたう 空洞ノ意カ(カラドウ)伽藍堂ノ義カ(ガランダウ)空ニシテ廣キ貌ニイフ語

きつめ 木屑ヲイフ きちやうめん 規律正シキヲイフ、几帳面ノ義ナルベシ、俚集ニ倭菜ニ細工ニ物ノ稜ヲ削ルヲ几帳面ト云ヘリ愚按元祿二年外宮遷宮記御櫛三葉、以ニ銀銅ニ飾レ之臺香有ニ几帳ニ而柱 本末押ニ金薄ニ俗ニハ物ノ辻ツマ合セ正シクスルヤウノ事ヲ云ヘリトアリ几帳ノ面ノ狀ノ正格ナルヨリ言ヒイデシ語ナルベシ

けなひ 平素ノ意ニ用フ、褻之衣ニテ元ハ褻衣ヨリ出デタル詞ナルベシ移リテハ

おんじゆ 物ヲ整理スルニ云ヒ、又他人ヲ戒ムルニモイフ、温習ニテ前ニ習ヒテ復習シテ整理スルヨリ起レルカ

おん金 給金ヲイフ、主恩ノアル給金ノ意ナルベシ

おんの米 日當ノ米ヲイフ、全上おもとく 趣向ヲイフ、思ふヲ延べタル語ナルベシ

がうぢう 大字民總會議ヲイフ、郷中寄合ノ略語ナルベシ

かきり 辨當持參即自身ノ食ニテ人ノ勞働ニ服スルヲイフ、かきハ賃錢ヲ拂フ錢ノミ拂ヒキリニテ食事サセヌ義

かいやく 整理又ハ散亂シタル物ヲ片付クルヲイフ、介錯ノ字面ナルベシ、介錯ハ一ニ介添モ云ヒテ加冠、杯ノ時ノ後見人ヲイフヨリ轉リシナラン、後見シテ其事ヲ整理セシムルヨリ

かきやくふるまひ 皆濟ニテ年中大字内ノ公費

酒、一、膳、杯イフ此ノけのり普通ニハけのりトイフカ、俚集ニ褻ナリ平服ヲイフガ如シ三五記大貳三位高遠ノ公任卿ノ重病ヲ問ヒ玉イシ處ニ翌日にケナリにて早且に行向テ所勞の訪を介して侍りけるとかや袋舂紙竹田大夫國行云々古會部入道ノ秋風ゾ吹ク白河關ト讀マレタル處ヲ如何デカハケナリニテハスギン云々、コノケナリハ褻姿カ又藝ノまゝノ意ノナリカ

げんのう 大石ヲ割ル具、玄翁法師ノ殺生石ヲ割リシ故事ニヨルト云ヘリ

けろりきつと 物ニ感ゼヌ体、けろりかんてノナルベシけるくと同調子ノ再向ト前子タルモノ

くさくもの 隠閑、カクシ物、密造酒ヲモイフ又略シテこさうモ云フモイフ静ニスルヲコッソリトイフ俗語ノ轉訛

こひはつたい 懲り果テタ、懲り果テタノ轉訛

ナルベシ

こつたいまかせ 怒ニ乘ス、業態任セナルベシ
さくく 度々ヲイフ、再々ナルベシ

さつ 剛情ヲイフ、強性ノ意ニテ性ノ字ナル
ベシ

あかしな 又さかしま、倒逆ヲイフ、神代紀
ニ倒ヲさかしまト訓ミ常ニハ逆ヲ訓メリ

しみはるまナリさかさハ用イフト和菜ニ
見ユさかしハ其轉語譏、逆ヲさかしラ
トイフモ語原ハ同ジカルベシ

あつ 一部落ヲイフ、山川ノ形勢ニヨリ一
部落ト成リ而シテ川ノ兩岸ニ人家アルヲ
以テイフカ

あんばう 有丈殘亡ノ義ナルベシ、殘亡キヲ
サンバウトイフコ普通ニアリ

あんなん 和菜ニ俗ニ墓所ヲイフ、佛家ノ三
味ヨリ出テタリ、口語ニ何さんさいトイ
フモ亦同ジ、出羽ノ方言ニ其儘おけトイ
フヲさんさいニシラフト云ヘリトアリ、

あんなん 和菜ニ俗ニ墓所ヲイフ、佛家ノ三
味ヨリ出テタリ、口語ニ何さんさいトイ
フモ亦同ジ、出羽ノ方言ニ其儘おけトイ
フヲさんさいニシラフト云ヘリトアリ、

佐渡ニテモ道樂三昧、讀書ニ昧ナド云ヘ
リ

しひばち 食ヲ強フルヲイフ、強ヒ飯ノ轉ナ
ルベシ

じやう 宜シキヲイフ飯令ヘハソレニテ宜
シヲソレデじやうだノ類、上カ定カ定ナ
ラバ飯名ぢやうナリ

しやうゆう 好物ナルヲイフ、歩行醬油(アル
キズキ)

しよっぱいぬにあふ 苦シキ日ニ逢フヲイフ、
海中ニ溺レヌル片ハ潮水ヲ吞ミテ苦シキ
ヨリオコリシ語ナルベシ

しんがい 主人ニ物ヲ隠シテ私シスルヲ、私
ガ有ノ轉語カ

しりくらへくわんのん 跡ニ構ハヌ、用捨箱ニ
シラケル

後暗ハ觀音トシテ昔の諺ハ藥師前、地藏
の後といふ事あり是は暗き夜ノ事カ、藥
師の縁日は八日其前ハ七日迄地藏の縁日
は廿四日其後は廿五日より多ク、云々觀

音の縁日の後は暗いを轉して解すべし是
も古き諺かる可れど譬の事ときこむて耳
たつゆゑにや古き物の本に見ゆず、たま
に東海道名所記(万治元年作)二の巻に

茶屋に女あり茶を後むきてにて侍り、お
姿を見れば如意輪觀音程美しうおはしま
すが後向き給ふこそ心得ねといへば樂阿
彌がいふやう是ハ謂れあり三十三身の外
に、昔より尻くらひ觀音とてこれありと
いふごありこの頃は尻喰ひと思ひ僻めし
きとべしとありよしやあしやは知らず

せんしうらく 終結ヲイフ、高砂ノ能ノ切リ
ニ千秋樂ノ舞アリ宴會ノ終リニ其曲ヲ奏
メルヲ例トセルヨリノ起リナルベシ

るいつ 其物ヲイフ其奴ノ轉ナルベシ、對稱
代名詞ヨリノ轉

みる 好物ナルヲイフ、泣みそ(ナキズキ)

るのへだた 其間ノ轉訛

たいさう 困難ヲイフ、元、物ノ多キ廣キ杯ニ

るのへだた 其間ノ轉訛

たいさう 困難ヲイフ、元、物ノ多キ廣キ杯ニ

るのへだた 其間ノ轉訛

たいさう 困難ヲイフ、元、物ノ多キ廣キ杯ニ

るのへだた 其間ノ轉訛

たいさう 困難ヲイフ、元、物ノ多キ廣キ杯ニ

るのへだた 其間ノ轉訛

イフ語、大相ノ字ハ大層ノ字ハイフたい
さう廣い、たいさう多い杯ノタイサウ也
賢ハたいさう困難トイフベキ困難ヲ省ケ
ルモノ

だらさ 皺ダラケヲイフダラハダラケニテ
トロケノ轉、ユルムヲ、タユムヲ、縮リガ
ナクナルヲナルヲ轉ジテ物ノモ、グサニ
縮リナクナリタルヲ云ヒグサハモ、グサ
ノグサニ同ジ

だめ 無益ヲイフ、園基ノ語ノ徒目ヨリ出デ
タリ

ちやうしき 必、又、キマリ、定式ノ字面ナル
ベシ

ちやうさや 祭禮ノ節、神輿ヲ昇クモノ、ハ
ヤシ詞、重祭やノ轉ナルベシ

ちやうさ 揃ハヌ貌、俚集ニ器ノ不具ナルヲ
イフ、増補ニちやうはぐ、又かたちぐ云
ヘリ、佐渡ニテかたちんばトイフ是也、大
辭書ニ齟齬スルトアリ

ちやうさ 揃ハヌ貌、俚集ニ器ノ不具ナルヲ
イフ、増補ニちやうはぐ、又かたちぐ云
ヘリ、佐渡ニテかたちんばトイフ是也、大
辭書ニ齟齬スルトアリ

ちやうさ 揃ハヌ貌、俚集ニ器ノ不具ナルヲ
イフ、増補ニちやうはぐ、又かたちぐ云
ヘリ、佐渡ニテかたちんばトイフ是也、大
辭書ニ齟齬スルトアリ

ちやうさ 揃ハヌ貌、俚集ニ器ノ不具ナルヲ
イフ、増補ニちやうはぐ、又かたちぐ云
ヘリ、佐渡ニテかたちんばトイフ是也、大
辭書ニ齟齬スルトアリ

ちやうさ 揃ハヌ貌、俚集ニ器ノ不具ナルヲ
イフ、増補ニちやうはぐ、又かたちぐ云
ヘリ、佐渡ニテかたちんばトイフ是也、大
辭書ニ齟齬スルトアリ

ちやうさ 揃ハヌ貌、俚集ニ器ノ不具ナルヲ
イフ、増補ニちやうはぐ、又かたちぐ云
ヘリ、佐渡ニテかたちんばトイフ是也、大
辭書ニ齟齬スルトアリ

ちやうさ 揃ハヌ貌、俚集ニ器ノ不具ナルヲ
イフ、増補ニちやうはぐ、又かたちぐ云
ヘリ、佐渡ニテかたちんばトイフ是也、大
辭書ニ齟齬スルトアリ

ちやうさ 揃ハヌ貌、俚集ニ器ノ不具ナルヲ
イフ、増補ニちやうはぐ、又かたちぐ云
ヘリ、佐渡ニテかたちんばトイフ是也、大
辭書ニ齟齬スルトアリ

ちやうさ 揃ハヌ貌、俚集ニ器ノ不具ナルヲ
イフ、増補ニちやうはぐ、又かたちぐ云
ヘリ、佐渡ニテかたちんばトイフ是也、大
辭書ニ齟齬スルトアリ

つな 引クトイフ謎語、譬へハ商賈ノ時十圓ノ内一圓引クヲ一圓網トイフノ類ナリ
 つばくらわたし 燕渡也、凡ソ生兒三十三日目ニ舅家ヨリ夫家へ連レ歸ルヲ祝シテイフ
 てつこもり 飯杯、高盛ノ轉語ナリ、貞丈云飯ヲ高盛スルヲ規式ノ時ハ土器ニ盛ルナリ土器ニハ高盛セザレバ飯少キ故ナリ今時祝ノ時祝ニ高盛スレド深クテ物多ク入レバ高盛ニ及バザルナリ、たかもりノ音便ニテたかもりナリ再轉シテてからもりトナリタルガツマリテツこもりトナレリ言毎ニ飯ヲ碗ノ縁ヨリ高クモリアグルヲたかもりトアリ
 てきぎげん 新シキ財産家ヲイフ、出来分限ノ字面ナルベシ
 てつかまつか 小倉ニテ赤キヲイフ、鐵火眞赤ノ轉ナルベシ、鐵火ハ鐵ヲ眞赤ニアカメタルナリ
 とんぼり 又とんとつ、輕卒ヲイフソ、ツカ

シキ
 どんぼろつ 泳グヲイフ、蜻蜓打ツナリ泳グ片ノ足ニテ水打ツ音ヨリ出ヅ動物門、たんぶりの條ヲ見ヨ
 どんべんぐらり 優柔不斷ヲイフ、ノンベングテリノ轉、ノンベシハ延ノ轉訛グラリハグラ、即チ怠ル意又無爲ニシテ時日ヲ過ス
 どんぼがへり 仰向キニナルヲイフ、翻筋斗ノ蜻蜓ノ飛ビテ俄ニ返ルガ如ク身ヲ翻ス一ナドヨリ轉リシ語ナルベシ語ハ普通ナレ用テ法タガヘリ
 どんげ 竹木刺ヲイフ、竹木ノ削タル端、又其端ノ肌ニ立チタルモノをげノ訛言か又鏡毛ノ義カ然ラバアヤマリニハアラジ
 なりじやうけ 又ありじよげ、小倉ニテナゲヤリヲイフ、相川ニテモ
 なりへ 斜ヲイフ、詞泉ニ傾斜、斜ナルヲ、ス、トアリテナゾヘト濁レリ

にやが 又にいやが、餌賑ヲイフ、にぎやかの略
 ねろへ 又ねそげ(相川)寢登ノ急呼ニシテ其登ハそびれるノ義をびれるトハ機ニ逸レテ寝ゲズ爲コシレルヲイフ小兒杯ノ熱睡ヲ害セラレテ俄ニ目サマシタレド未ダ正氣ニナラヌホド
 のら 遊ビニ耽リテ常居ナキヲイフ、日本紀ニ野字又郊野ノ字ヲ訓メリ万葉集ニハ草ノ字ヲモヨメリハ助辭ナリ物ニのらやぶナド見エタリのらぬ、のらね、のらむすこナドのらも同ジ
 のらちんちん ひちんちん 元はいかぐら元イフ、小兒ノ火又ハ灰ヲ弄ブヲイフ、火東西又ハ灰東西ナルベシ東西々々ハ遊藝ノ始メニ喧嘩ヲ製スル詞ナリ人形東西杯イフ是ナリ
 ばつちんちん 酒ヲ禁ズルヲ酒ばつちんちん杯イフハ法度ノ義ナルベシ

ひよつかしげ 又ひよんかしげ、怪シゲ、又可笑、ひんをかしげノ訛カひんハひんだますナドノひんニテ接頭語俚集ひよんを事ノ注ニ同文通者俗ニ物ノ不好事と凡てヒヨシナ事といふ凶子ノ華音ヒヨシといふよりいひ傳へて常語とわれりト見ユ
 ひちんちん ひちんハ例ノ接頭語こりざいハこざいかく(小才覺)ノ轉略未熟ナルニ物知リ顔ニフルマウ、サカシラ、ちよこハチヨコ、ノ畧小キモノガ走ル体ナドヲイフ副詞
 お 共同ノ苦役ヲイフ、賦ノ字音ナルベシ、近村一里内ノ所へ飛脚ニ行クヲ近歩、舟ヲ出スヲ舟歩、旅人又ハ勞動者ノ宿泊食料ヲ給スルヲ口歩トイフ何レモ順番ニ之ヲ行フ(現今海府諸村ノ風俗)
 へちまのかご 和菜云糸瓜ヲイフ、へちまものトイフナルベシ、或ハ蠻名ニヤ俗諺拘忌ヲ厭フニへちまの皮トイフ又俗ニ用ヒテ垢ヲ去レリ古キ狂歌ニ心にはへちまの皮ヲ

たやすきよき世の垢とわらはんがたの
長崎へちまト稱スルハ極メテ長大ナリナ
ガヘチマ庄イフ信濃ニトウリトイフ系瓜
ノ略ナリ或説ニトウリトイフヨリヘチマ
トハいろはノヘトちトノ間ナリト云ヘリ

まめ 小倉ニテ虱ノ小兒詞

むす 共有山林ヲイフ、共山ノ義、其ヲム
タト訓メルハ万葉集ニ浪ノ共、君ノ共、
祝詞ニ天地ノ共、杯アリ何レモ共ニトイ
フ意ナリ其むたノヲ連聲ノ便ニ因リテ
省ケルニヤ又大山ヲ日本紀ニ深山ヲ諸書
ニみまト訓メル其轉ニテモアランカ其
有山ハモクハ深山ノヤウナリ又鷹狩ニ鳥
ヲ取ラテ空シク還ルヲむまむトイヘ
リト和菜ニアルハ空山踏ニテ鳥ノ空シキ
山ヲ踏ム義ニテ別ナルベシ
やりかんぼう ナゲヤリヲイフ、槍ノ一種ニ投
鎗トテ短クテ敵ニ投ケ遣リテ中ツル物ア
リソレト投遣ト語ノ通フヨリ槍漢坊ノ意

カ投槍ヲ使フ人
やんばい ヨイ氣味ヲイフ、良キ鹽梅ノ轉約
語ヨキノ音便ヨイトナリヨト約リ次ノ語
ノアト連合シテ再ビヤト約リテヤンバイ
ノ語ハ出來シナリ
やぶち 家内ヲイフ、家内ノ轉語ナルベシ
ゆきしなかへりしな、又ゆきしまかへりしま往
時還時ヲイフ、コノシナハ万葉十四ニ思
ムトアル同語ニテ考ニハ朝ノ義ト云ヘリ
アシタノアノ省カレル也守部ハ時トイフ
一ノ古語ナリト云ヘリ其略ニ云ク今ゆき
しかかへりしなト云フニ同ジ土佐ニテハ
今尚ホゆきしなト云フニ同ジトイフ云々其
ハ朝モ明時(マサキ)ノ義ナルヲ又此朝ヲ明時
(マサキ)ト云ヘルニテ思太ハ時ノ意ナルヲ知
思太ヲ約メテ佐トイフ故ニゆきしまかへり
ルベシ其まモ此ノ思太ニ全ジ本ト那ト通
フ例ハ頂ヲ万葉三ニ伊奈太吉爾(イナ太
キニ)又波名薄ヲ波那薄(ハナ)云ヘル類ナリ

おとこてん 高みノ見物ト云フヤウナル意、
又ワケモナイ、造作ナキ意、おでこ人
形ヨリ出テタル詞機械ニヨリヲワケモナ
ク種々ノ戯ヲ演スルニ譬ヘタリ、嬉遊笑
覽ニでこにおヲ添ヘタル也筑籬ヲ伏テ明
ル度ニ其中ノ手遊サマノニカハル傀儡
ナリ兩國廣小路ナルおでこ芝居ハモト
是ナリト申エタリてんハ拍子ノ如ク無意
ニソヘタルナルベシ

第四章 用言ノ部 (動詞形容詞)

あづる アワツル、稼クニモイフ、即チア
ワツルノ中畧
あはゆる アマユル、我儘ナルヲイフ、甘ユ
ル義、ユルハ其狀ヲ形容セル詞、親ミナ
ル、意ナリ

あめる 深酔ヲイフ、物ノ甘クナルアマト通
ヒ泥酔シテ取締ナクグニヤノスルヨリ
云フカ又ハ飽ト同語ニテ飽ノ如クグニヤ
ノシテ取締ナキヲ云フカ
あせつる アワツルナリ、人ニマケジト競ヒ

チ心ヲ遣リ氣ヲモムヲアセルトイフ、其
アセルノ訛

あまえる アマユルナリ、甘サルニテ、サルハ
セラルノ俗調、被爲甘ニテアバユルノ他
動ナルベシ

あくたれる 和菜アクタレモノノ注ニ倭名鈔
ニ淋ヲヨメリ灰汁垂ノ義、今モワルサニ
飽キタル者ヲ指シテあくたれトイフハ是
ナルベシトアリ、然レドアクハ惡ニテタ
レハ爲ルヲイフ一種ノ俗言ト見エタリ、
無職ヲ爲ルヲイフ

あはける 亂暴スルヲイフ、荒ノ活用ケル詞
ナルベシ

あなる 打ツヲ云フ、アフルノ訛、アフルハ蹴
ルニテ風ノウチツケルヲイフ其轉訛

あざめる 青色ニ變ズル顔色ナドノ菜色ア
ルヲイフ

あざめがけ アブノメガケタヤウダ坏

イフ重ナル人ガ被ケテ張合ナクサビシイ
 扇ノ目ガ脱ケタル如シト云ヘル義ニテ扇
 眼ノ脱去シタルヨリノ語カ又此ノ目ヲ拔
 クトカ、小兒杯ノ戲ニ此ノ目ヲ拔キ取ル
 ヲアリ、前後左右ノ辨別ヲ失フナリ
 あらうしい ウルサキヲイフ、わ苦シイニテ
 わハ感動詞ナルベシ、ウルサキハ苦シキ
 ヨリノ語ナラン
 あぢけない 又アドケナイ、小兒ラシキヲイ
 フ、あぢけなしノ轉語ナルベシ和菜云伎
 人ノ相手ヲアドトイフ宗鏡錄ニ如ニ樓伽
 經偈云一心爲三工伎兒、意如和伎者一ト見
 エタリ今モおどウツト云ヘリ、新撰字鏡
 ニ誼議以言辨力也彼此之心相知貌阿止
 又阿良會不、又相論須ト註セリ拾玉集ニ
 さぞといけど誠にさぞさあどうちてや
 るやといふ人にもあし、小兒杯ノ智慮
 ナクテ事ヲ爲スヲおどかいトイフモ同義
 ナルベシ、言海云アド相人ノ畧ガ能ノ狂

言ノ脇餅、和伎者、アドウツ和伎者ヲナ
 ス云ケアドケナシ和伎氣ナシノ意カ思慮
 ナシ爲ス幼シトアル是ナリ、アドケナ
 イモイフ
 いかける 人ヲ欺キテ物ヲ取ルヲイフ、いハ
 發語かけるハふつかけ、ひつかける杯ノ
 かけるニテ人ヲ欺クヲイフ
 いまれる 熱シタル蒸氣ヲ總ベテいきトイフ
 ヨリ轉リ活ケル詞ナリ、其いさハモト人
 畜ノ氣息ヲイフヨリ轉リシモノナラン、
 但シ他國ニテモ使用セリ
 いこせ いこす、又よこすモイフ、遣ラセ
 セ、おこすト訓ム其轉語ナリ即チいこせ
 ハツガハセ、いこすハつかはすノ意ニ用
 フ
 ぐろく 寤睡シニテ睡リタル片モ纒ノ物音
 杯ニテ聴ク目覺ムル即チ小兒ノ睡眠中物
 音ニ驚ク狀ニ似テビクツキ又ツ、カシク
 スルヨリ出シ語ナルベシ

いさる 物ヲ曲ゲ又曲ルコ、履キタル下駄ヲ
 傾倒シ又字面ヲ曲ルナドニ用フ生花ヨリ
 出デシ語カ花生クルハ花ヲ曲クルユエニ
 いさる 肩ヲ去ラヌヲイフ、吾敷有ニテ仮
 名ハるしかるカ又石ノ如ク動カ又意ニテ
 石ヲ活用ラカセル語カ
 いぢる 又いぢる、る尾いちらふ尾イフ、手ニ
 テ弄ブヲイフ、俚集ニ物ニ手ヲ觸レ搖弄
 プロイフ轉リテハ人ヲ愚ミ惱マヌヲイフ
 いぢる 責メル又セビルヲイフ、全上ノ轉ナ
 ルコ俚集ノ説ノ如シ轉リテいぢる尾イ
 フ、世事百談ニイフ意地ノ音ヲ活用カセ
 テ云ヘルナリ然レバいぢる尾いちめる尾
 云ヘリ
 いぢめる 言海大辭書全ジ意地ハ大鏡ニ心い
 ぢニテオハセシ殿ニテトアリ以上ノ説ヲ
 合セ考フルニいぢめるノ方ガ本ニテいぢ
 る(責ムル意)トナリ其いぢるハ弱者ヲ動
 搖シテ調弄スルヨリ動カシ弄ブ意ノいぢ
 る尾ナリシナルベシ語原ハ同ジカルベシ

いぢめる 言海云畏縮(イヂ)ケルノ義ナルベ
 シト然レド是モ前ノいぢると同ジク意地
 ニテいぢめられて畏縮スルヨリノ語ト見
 エタリ
 いぼむ 灸ノ跡、又腫物ノ腫レアガルコトイ
 フ、俚集ニいぼゆ灸瘡ヲイフ燒字ヲ用フ
 飯字未考又いぼ。尾イフ云々いぼゆノ
 ハ發聲ほゆハホヤクノ約リナルベシホハ
 火ナリ因リテ暫クイボユノ假字トスト見
 エタリ又案ニ疣ノ活キシニハアラジカ、
 灸所ノ腫レ上ル狀ノ疣ニ似タルヨリ疣ヲ
 活カシテいぼむト云ヒテ灸ノ腫ルヲイ
 フガ本ニテ他ノ腫物ニモウツレルナルベ
 シ
 いかい 又イカウ、澤山ヲイフ、古語ニ物ノ
 多キヲ嚴トイフ即チいかし穂、ナドノ類、
 大ニシテ多キヲイフ其音便ナリ
 いたくしい 痛々シキナリ
 いみしない 胸裡狹隘ニシテ物ニチビツクヲ

イフ忌ハシキ意ニテ忌シナイカ又甚ジイ
ノ轉語カ或ハ甚ウナイノ訛リカ
イハナシ 否モ諾モナシナラン、古語ニ承
諾ヲウトイフ今モウンルツンルナドイフ
ウンハ諾ナリ否唯(イヤヲ)ナシニテモ
同意唯ハ應聲又諾ナリト注セリ
イツてん 全シ、等シ、時トシテ似タル意ニ
通ハス、一点ノ字而カ
ウツク 又ウツク、輕佻又浮カル、ヲイ
フおごつくノ轉語、動クト同語ノ轉ナル
ベシラウツク、ウツク、ウツク、ウツク、
ウツク、ウツク、皆同シ俚集ニ動モ厥
モ撼モウゴクナリトアルヲ孟子公孫丑ト
ニ今夫厥者是氣也トアル厥ヲウツクト
傍点セルニテ知ルベシ動クヲウツクトイ
フハ源重之集ニさしかにの味のはたてり
をこく哉風を命と思ふるべし又和菜云
ウゴメク蠢ヲイフ源氏ニウゴメク見ユ
タリ動ク意ナリをこつクハ著聞集ニ殘の
謹かりかりてヲコツキけりトアリ和菜
云今昔物語ニモをこつきたる者ト見ユ今
モイフ詞ナリナドアルニテ知リヌベシ
ウツク 和菜云失字ノ意ニイフハ俗語ナリ行
クヲ云ヒ又死ヲモイフ罵リテラセヤガ
レルイフ、俚集云行事ヲウセルト云俗語
ハ遠州ノ常リニ云ヘリ死ヲイフモ失ノ義
ナリ神代紀喪亡ヲウセタリト訓ミ伊勢物
語ニ親王ウセ玉ヒテト見ユタリ
ウツク 魔ハル、ヲイフ、呻吟ヲウナル又
ヲナルトイフ語ノ受身即チ被呻吟ナリ俚
集ニコノ語見ユレド解釋ヲカクをさされ
ルイフ
ウツク 身體ノ弱クナルヲ、又土地ノ水ヲ含ミ
タルヲニイフ身體ノ弱クナル方ハ倦ミ勞
ルハノ義土地ノ水ヲ含ムハ腫物ノ膿ムヨ
リ移リシ語ナルベシ
ウツク マゴツクヲイフ、愚ノ轉カ古語ニ

トボケタルヲおとし又おれ物おれ
ノ語アルモ皆同意トキコエタリ、神代紀
癡豚ヲウツクト訓ミ和名鈔ニ細魚ハウツ
トト見ユタルモ其魚ノ愚ナルヨリ負ヘ
ル名、又徒然草ニ一ろりとトイフヲア
ルモ白癡ヲカク訓セタルモノニテウツ
ハ痴愚ノ義ナリ古事記ニモ宇流釣ト見ユ
タル皆同意ノ語ノ轉ナリ
ウツク 燻ルヲイフ、即チユテルノ轉語、ユ
テモノ和菜云倭名抄ニ茄ヲ訓メリ湯ヨリ
出テ意也内則ノ注ニモ淪ハ肉菜湯中薄熟
出之ト見ユタリ、新撰字鏡ニ燻ヲウツク
ト訓セリ以テ菜入ニ湯湯ニ曰燻ト注セリ今
ノ俗ウデモノトイフモ宇ト由トハ横池セ
リ今ノシタシ物景レナリ
ウツク 思ヒヤリテ氣ノウツクヲイフ、ウ
ツクイウツク又ウツクガシユルイフ、ウ
ツクハ連事カ
ウツク 胡亂ナルヲイフ、和菜云胡散臭
ナルベシ胡亂ヨリ轉リシ語ナラン、ウツ
クハ胡亂ノ唐音ナリ、俚集ニ疑ヒ怪ムベ
キヲイフトアリ
ウツク 語フヲイフ、エリ元ニウツクト
イフモ同シ人ノ着物ノ襟モトノ袖方括ヲ
見テ其人ニマツハリウツク
ウツク 偉ハナルヲイフ、奇シノ轉語、勝レ
タリノ義
ウツク 眼中ニ物ノ入りタル如キ感覺ヲイ
フ假字ハエツクイナルベシ喉ニ物ノサハル
ヲエグイ、エゴイ、トイフエグイハ訛ナル
ベシ、俚集ニ急ゴイ味也和名抄ニ茄子味
甘酸云々俗語云惠久之、又蕪芋エゴイモ
ノエゴモ同シ
ウツク 怒ヲ云ヒ移リテ叱ヲイフ、即チ怒ノ
轉語ナルベシ、俚集ニ火ノ熾ルヨリノ言
ナルベシトアリ
ウツク 又はたゞ又けけるルイフ、小兒ノ言

胡亂ナルヲイフ、和菜云胡散臭

小兒ノ言

職スルヲイフ者ヨリ移リテ自腹ヲ切ツテ
人ヲ饗スルオゴレトイフヨリ轉リシ語。
饗供ニ酒杯出レバソノメキサワグヨリ出テ
シ語ナルベシ、養雜の記ニ醉狂、開靜ヲ
スベテおごるトイフトアルハスコシチガ
ヘリ

おごるゝ 又おごさめる、アインガツキ
ルヲイフ御座ガ醒メル義席ガ白ラゲテト
イフ語ニ同ジ

おごむ 怖テ止ムナリ、怖ヲ活用カセシニ
テ假名ニモオチヨムナルベシ

おごへす 押ヘツケル又壓スルナリ、押シ減
スノ急語ナルベシ

おぼゆる 驚ク、即オビユルヲイフ、即チ其説
音おびゆハ新撰字鏡ニ愕然ハ驚愕ナリ於
比由、又於止呂久惶急ハ驚失意ナリ於比
由又阿和豆トアリ協ヲ於比也須ト訓メル
モ自他ノ區別コソアレ其意ハ同ジ和菜ニ
素ハ大冷ヨリ出テタル語ナルベシトアレ

ト字鏡ニ忙怕ヲ於比由又於豆トアレハ怕
冷ノチノ省カレシナルベシ、又覺ノ意ナ
ル記臆ヲモオボエルトイフ

おんべりく 唯ベリクハヘツラフ(二宮河
原田一般)諛言ニハ謙辞多ケレバヘリハ
ヘリクダリノヘリノ濁レルナルベシ、お
んハ御アルベシ又おごるハイフ手ノ
腮ヲ撫ツル時ハ喜ブヲ以テ形容シタルナ
ラン

おかない オツカナイ此ハ奥所無イ義ニテ
前程ノ際涯ナキヲイフ凡テ物ノクマムト
シク奥ノ知レヌ所ニハ鬼魅杯ノ隠ラフラ
ント疑ヒテ恐怖ル、ヨリノ語ナリ其證ハ
冠辞考ニ万葉十二、思出て術無時は天雲
の奥香も知らず戀つゝををるトアリテ全
十三、立ちらくのたづきも知らず居らく
の於久嶋しらにトイフニ同ク思ヒホレテ
茫然タルヲ天雲ノ深クテ何處モ分カヌ
ニ譬ヘタリ借其於久可トイフ語ハ全五ニ

常知らぬ國の奥所ヲ百重山越てすぎゆき
全十七ニ大海の於久可も知らずゆく吾を
杯ヨミテ此歌ハ卷廿ニ暗の夜の行くさき
知らずト讀ミシニ似タル意ナリトアル是
レナリ

おごかい 又オソンゲエ、怖氣ノ活用セル語
ナルベシ但集ニ出羽ニテ身体ノダルキヲ
オソガイ、オソロシ、コハシヲ駿河ヨリ武
藏近國オツカナイ飛彈及尾州近國又ハヒ
總ニテハオソガイト云フト見エタリ轉ジ
テオソガイヤイフ

おごい 悪シキヲイフ、古語拾遺ニ御女命ノ
事ヲ今俗強女謂ニ之於須志ト見エ源氏
ニ杞まましト見エ又古事記ニ因ニ大后之
惡一オズキエアリテ皆同意也轉リテハお
ごましヲねをまし源氏ニ見エ又其おす
ヲモ源氏ニすこしおぞかるベキ事おれ
ば又めのとほたい、苦しと思ひて物づ
みせずはやりかにおぞき人にて杯アリ和

菜云わのしト云串ヲ尾張ヨリ仙臺ニおぞ
イトイフ又駿河ヨリ武藏上野邊ハ物事ニ
賢キ事ニ云ヒナセリトアリ佐渡ノモ兩用
ニ使ヒ又人ニ限ラズ物ノ相惡ナルヲモ云
ヘリ

おほきい 太キ、大ナル、長キ、肥エタ
ルヲモ總ベテ場合ニ因リテオホキイト
イフ大キシトイフ形容詞ヨリノ轉リナル
ベシ

おぼたい オモタイモ重キ狀ヲイフ、即チ面
白イノ轉訛

おやげない 可憐ナルヲイフ、但集ニ上總ニ
テ心ニナサケナイヤウノヲ云フ、或説
ニ親氣無ヨリ出デタル語ナリト云ヘリ、
越後ニテハ悲シイトニ云フおやげない上
州ニテ可憐トイフトアリ是ナリ親ナキ
モノ、可憐ナルヨリ移リシナラン

かきりあふ 挑ムヲイフ、掛リ合フナルベシ
かきまふ 飼フヲ云ヒ又庇隠スルヲモイフ圍
ヲ古語ニかきみトイフ其ミヲ延ベテマイ

マント云フソレナリ圍ハかこふ云ヒテ物底ヲイフ

かじける 手足ノ凍ユルヲイフ、悴ヲカジケトイフ語ノ轉ナルベシ新撰字鏡ニ粹頼注容貌瘦豆加留又可志加牟トアルモ同語ノ轉、頼ハ玉篇ニ病也又通作瘁、カシケル、ヤセル、悴ハ憂也カシケルオトロフ杯見ユレバ病ツカレテ手足モ動カヌ状ヨリウツリシ語ナラン

かじる くじる、挟ヲイフ

かざる 腫物ノ乾キ癒ユルヲイフ、蓋^{カサ}痴^{カサ}ヲ活用セシ語ナメリ

かたねる 擔フヲイフ、肩ヲ活用セシ語

かたがる 傾クヲイフ、カタブキアルノキア約リチカトナルフノ省カレタル語ナルベシ、カラ濁ルハブノ濁点ノミ次ノ語ニ移シノコセル例又他動詞ニかたねるトモイフ

かつける 託ケル又打付ケルナリ、即チ託ケルノ轉語ナラン

かつめる 又かつれる、物ノ不足ヲ感ズル即チ飢渴ナドニモ用フ渴飢^{カケル}カカ思ヘドカツハ搔キトイフ發聲ノ急促音搔餓ナルベシカカ^カ 椎菌、松魚節、焼鮓魚杯ヲ蔬菜ニ交ヘ煮テ味ヲ付タルヲかぶるノ他動詞、かぶるハ香觸ナルベシトイフ、かぶすニ用ヒル原料ヲかぶしトイフ

かぶらつく 喰ヒ付ク、かぶるハ嚙^{カム}ノ延語、かぶりつくハ嚙付クナリ

かふるい 輕キヲイフ其語ノ轉訛、カア^カア^カイ^カイ^カトイフ

かどゆい 又カッポイ、俚集ニかどゆい羞明を美濃尾張ニテカ、ユイト云フ和菜ニまばゆい、面はゆき、しほはゆき杯云ヘリ、目はゆき、鹽はゆきニテ早キ義ナルベシトアレド鹽はゆきモ佐渡ニテまじは

ッばい、しほッばい、杯云ヒ齒ノカエキ襟ナルヲ齒かゆしト云ヘバ元ハ皆同語ニテ其狀ヲイフ一種ノ形容詞ナルベシ、かどぼいハ輝ッばいナラン又白ッばい、黒ッばい、赤ッばい杯モ云ヒテ赤キヤウ黒キヤウ白キヤウナルヲ云ヘリみまはゆしトイフ源平盛衰記ニ見エタル是モ同ジ語ナルベシ、汝が言ひだ、耳はゆしトアリ然レバかどゆいハかどゆいノ略ナリ

かたぐるしい 一方ニ偏シテ固執シテ動カヌヲイフ固苦シイト云ヘルナルベシ

かんだるい 爲ス事、思フ事、意ノ如クナラズ齒がゆきヲイフ元ハ手枕頬杖杯ノ腕(カヒナ)ノタニサヨリ起レル語ナメリ好忠集ニ吾妹子が今朝朝に引かされてせきさへあまトカヒダユキ哉、狭衣物語つくく、と見奉らせ給ふにカヒナダユキク知らせ給はぬにこそ宇治拾遺カヒナダユクもあらず又伊勢集屏風、夜一夜物思ひたる女のつら杖つきたる處「終夜物思ふ

時のつら杖はカヒナダナルサぞ知られざりけるトアルヲ夫木集ニハつら杖ヲ手枕トアリ此等ニテ其意ヲ知ルベシ轉リテ身体ノ弛キトナリ再轉シテ物事ノタユキニイフ語トハナリヌラン

かいらやうがない 他ノ物ヲ惡シクイフ、腐リヲ付ケルトイフニ同ジ、相川ニテハかよわしトイフ意ニ用フ、改良ノ性質ナシトイフ意ニテ改性が無イカ

きしやばる 義者ナルナルベシ、威張ヲイフ、又利口ブルヲイフ

きべる 物ヲ火ニ投ズルヲイフ、くべるニ同ジくべるハくぶノ俗調、焼、火ニ入レテ燒クナリ

大膽ナルヲイフ氣が大キイナル
ヘシ佐渡ニテノ太イハ長、大、肥ナドニ通
用セリ

不精ナルヲイフ、段無イ義ニテ分
明ナラヌヨリ轉レルナリ、キダハ切目ノ
キツトシテ段ヲ寫セルヲイフ、凡テ物新
シキ時ハ切目正シク分明ナルヲ古ヒ汚ル
ニ從ヒ切目ノ不分明ニナリユクヨリ汚
穢ヲモたかしたハ稱セシナラン和菜ニ
神代紀ニ汗穢ヲ訓ミ直措抄ニ無段義ト云
ヘリ分明ナラヌ意ナリ續紀宣命ニ岐多奈
久惡奴、又穢奴ト見エタリトアルニテ彌
明ナリ

絹臭ヨリ轉レルナラン、生物ノ
臭ヲ生臭ト稱スルト同意ノ語ナレバナリ
巴ニ前ニハ火牛臭カ思ヒシカ然ルニ
ハアラザリキ言海ニハ木ノ臭ノ轉トアレ
ド俗ニ木ヲ燒クヲバきかきといハ言ハ
ズ又關東ニテ之ヲかんこくさい云ヘル
ハ紙衣臭ニテ紙製衣ノ燒タル臭ヲイフト

キコユレバ其非ナルヲ知ルベシ
くじこねる 無理ヲイフ公事ニテ四角バリヲ
諍論スルヲ云ヒこねるハ捏又ル義ニテ元
ハ粉、泥杯ヲコネ廻ス義ヨリ移リテ難題
ナドヲ言ヒカクルこねナリ

死ヲイフ、嘗リ言成ハイフ腐張ノ
意カ今案ニハるハ活用ナルベシ
ぐづつく ぐづと、ぐづと、安リニ小言ヲイフ
コマカシキヲぐざぐざトイフ語ノ轉カ
くらぎける 打ヲイフ、大辭書云食ハス俚語
ナグル近松繫馬 下々ノ夫婦カケ向ヒガ
格氣イサカヒハ先ツ叩キ合フ、食ハシ合
フ、トアリキ云ヘル是ナリ、クラハスノ
音便クラツストナリ、ソレヲナグリツケ
ル杯ノツケルガ下ニソハリタル語
くむむ 包ムヲイフ、俚集但馬ニテ包ムヲイ
フト

約束ヲ變ズル、定メシヲ變ズル杯
ニイフ俚集ニ轉例スルヲゲレルト云ヘル

繰ルヨリ出デタル詞ナリ

内々ニテ濟ス、雙方ノ争点
ヲ放棄シテ仲裁人ニ一任シテ事ヲ圓滑ニ
濟ス、中ノ如何ニ依ラズ蓋ノ儘デ内ノ
物ヲ見ズシテ濟ス義ナルベシ黒ハ事理ヲ
明白ニセザル義ナルベシ

又クジツボイ、公事々々ト重
トリテ例ノシクシキ活ニ活ケル語ナリ、
ボイハ其狀ヲイフ一語ノ形容詞、公事ハ
元、朝廷ノ儀式ノナリシヲ轉リテ訴訟
ノ代名詞ノ如クナリ訴訟ニハクジツボイ
ク、クジツボク云ハナラヌヨリイデ
キシ語ナメリ

退クヲイフ、ヤツハ尻ヲ云ヒカル
ハ退クヲイフ古語ノマカルノカルニテ尻
ノ方ニ退ルヲイフ語
げびる 下ノ音ヲ活用ス、ビルハ雅言ノぶら
鄙ブル荒ブル杯ノブルニ同ジク其狀ヲ表
ハス一語ノ形容詞

イソガシキヲイフ、氣忙ニテハ
ハ發聲ナルベシ

仰山ヲシキヲイフ、撰集抄ニ見
エ俄ニ驚ク事ニイフ、消魂ノ義ナリト和
菜ニ見エタリ

ケチノ、シイニテ劣ス意ノけち
ガ重ナリテ例ノシクシキ活ニナリシモノ
ケチハ消力闕カ下劣、卑賤、鄙吝、々畜杯
ノ意ヲイフ卑語、相川ニテハ如上ノ意ニ
使ハズ腹立ツボイトイフガ如キ語ナリ

著シキヲイフ、ケ現シキカケハ
ケ長シク悲クキ杯ノケ、シキハ形容詞ナ
リ又驗顯シキカゲンハ靈驗ノ驗ヨリ移リ
ラシルシアル、顯シキハ顯著ナル義
けなるい 羨慕ノ意ニイヘリけなるハ勝ルヲ
イフ詞也「起て見むと思ひし程に消白に
けり露よりけりける朝顔の花、俚集ニ上方
ニテウラヤミミル意江戸ニテ氣ノワルイ

トイフ意、狂言記ニ傍輩共もイカウけらるう思ひまする

こころもゆる 又こころがにわる、業ガ燃ルナリ腹ノ立ツヲイフ、他國ニテハ之レヲもゆトハ云ハデ糞ユトイフ、木曾道中膝栗毛ニ舎弟々々といふは業の煮わたこんだあのへトアル是ナリ又業が沸、凡云へリ、業火ノ燃ユルヨリ煮エル沸クナド云ヘルナリ又こふさらし、こふじん、こふはらごふたわねナドイフモミナコレナリ

こころる 老練ヲイフ、考經ル義ナリ考ハ六年一考トテ官人ノ上進スル法ナレバ考ヲ經レバ自然ニ老練トナレバナリ然ラバかろノカナナルベシ、但集ニ却テ經ルノ語アリ却ハ年ヲイフ梵語ナレバソレカ、ソレナレバカナ、コフヘルナリ

こころへる 言葉ヲ飾ル

こがす 言フヲこがすトイフ(悪口ニ)こくノ他動詞ナリこくハ盜こく、虚言こく、伊達

こく、杯ノ行爲ヲイフ一種ノ方言
こじる 又こじばる、強キル、又執拗ヲイフ、掘シル、掘シ張ルノ義ナルベシ、但集ニ常ニこじしトイフハもじし意ナリ云々、もじるハ拗るナレバ音自然ニ通フメリ
こじらふ 病ノ治療ヲ怠リテ不治病ニ陥ラシムルヲイフ、こじるノ他動的ニテ同義ノ語ナルベシ

こなき 又こなきつける、侮蔑スルヲイフ、こがすハ耕ヲモイフハ熟ヲコナストイフ義、コチルノ他動的ナルベシ人ヲ調弄スルヲコチカヘス凡云ヘバナリ、但集ニ人ヲ面折スルヲコナス云フ穢コナスト見え又駿河ニテ悪言ヲ言フト是モ通ゼリ
こたへる 耐フルヲイフ、但集ニ對ハ當ル意ナリ容忍ヲイフモ同ジク當ル也、コハ所ニシテ所堪フルナリ其當ル處ニ堪フルヲイフメリ、雅言ニハ見えヌ語ナレモコタフルモイフベシ、持コタヘルトアリ

こつをばす 大笑スルナリ、骨ハ骨格ニテ形ヲ云ヒ笑ヒテ形ヲクツヌ義ナルベシ

こびれる 戻ルナリ、人並ナラヌナリ、コビルハ大辭書ニ媚ノ近体又少シ拗ツテ洒落レル、こびて手紙ヲ書クトアリ是ヨリ移リシ語、媚諂ノ極ハ他ニコビレタル能スルヨリ轉セシナメリ

ころめく 又ころめる、轉倒(コロブ)ノ又ノ活用ナルベシ、和菜云コロブ展轉ヲイフコロバスハ爲轉ナリ、此ハ倭字ナリ應仁記ニ見エタリトアリ

こまき 但集ニ利、こまかあるヲ云(炭俵二年のくれ互ニコスキ錢遣ひ、下野ニテ狡猾ナコト、又コスキノ注ニ狡猾わかかしこき者の所行をいふトアリコレニテ略サトリヌベシ

こつばかい 又コツバカタイ、クヌグッタイ、ニコンクツタイ、コンバコイ、コンツバシ皆同ジ身ニコンダラル、如キ威ヲ起ヌ、

但集コソバユシノ注ニ瘡也コソバタイモ同ジ演義文ニ怕痒凡イフ和菜コソバシ痒キノ輕キヲイフモトコソバユシニテコソグリヲ身ニ受ル味ヲイフ
ことい 恐キ又賢キヲイフ、賢キヲイフガ本ニテ強イナルベシ強キ者ハ恐ロシキ故ニ恐ルベキニモ云ヘルナラン
こいとしげもない 惡ラシキナリ、小愛氣モ無ナメリ

こまきどり 惡シク推量スルナリ前ヲ潜リテ邪推スルヲイフメリ

さげむ 譏ルナリ卑シムナリ又試ミルナリ但集ニ倭字通例書ニヨソへ準ノ注ニ又サゲムト訓ス愚按ニ測量スル意ナリ七十ニ番職入盡歌合ニ押直も匠もいさや墨金ハサゲスム月の傾にけり又轉ジテ意内ニハヲツモルヲイフ又轉訛シテ侮ルノノヤウニオモヘルモノアリト見エタリ
さげる 持ツヲイフ、提ゲルノ略給ナルベシ

さがる 食物ノ味ノ損スルヲ、俚集ニ物ノ損
一ツタルヲイフ烹サガリナド倭字通例書サ
ガリイヲ敗魚惣按ニ上ヨリ下ルヲ云フハ
吊字ヲ用フ妥綏綏川レモサガリナリ、魚
ニ綏旗ニ綏、トカク(大意)ト云ヘリ然レ
パ下リノ義ナルベシ

さばける 開瀾、氣りさばける、又さばけた
人ナド髪及物ノ散亂スルヲモイフ、捌ヲ
サバクト讀ムハ開ク意ナリ、綱サバキ、繩
サバキナドモ瀟ク意ナリ又傍披ヲサバク
トイフモ詭訛ナドニ彼ヲ誘ヒ導キテ披ク
ナリ以上ハ皆他動ノ場合ナレドソヲ自動
ニ使ヒタルガ爰ノさばくるナリ即チ開ケ
タル意ニ適ヘリ

さびく 餌ニテ魚ヲ誘フ、サハ誘ノサ、ヒク
ハ引クナルベシ、誘ヒ引ヨスル意

さしやる 離間スルナリ、さしやらハ小ヲイ
フ語、小石ヲサマラ石尾サマレ石尾云ヒ
小浪ヲサマラ波又サマレ浪、細萩ヲサマ
ララギ、小花錦ヲサマラガタナド云ヘル

サハハ皆小キ義、私語サ、メゴト附耳
小言ヲサマヤキト云ヘルモサ、ハ小ナル
意ナリサレバ小言ヲ挾ミテ人ノ間ヲ離間
スルヲ僧ノ竹籬サマラ)スルコト日セテ
起リシ語カ又田樂法師ノ態ヲスリ舞ヒア
リキテ人ノ中ヲ離間セル如キ惡行ニテモ
アリテ起リシ語カ未ダ考ヘ得ズ又態ハ竹
ノ先ヲ割リタルモノニテ敵ト云ヒテ木ニ
テ虎ノ形ヲ作り背ニ刻ミアル樂器ヲ擦ル
ニ用ヒルモノナレバ背ヲ撫ツルトカ腰ヲ
押ストカノ隱語ニモヤアラン

さべる 又しやべと、さへづるノ畧語ナルベ
シ、燕雀等ノ囀聲ニ喩ヘシナメリ、俚集
ニ夏山雜談ニ下賤ノ人ノ詞老キヲ囀ルト
イフ、紫式部日記ニ怪ノ賤男ハサヘツ
リト見エ又源氏ニモ海人ノサヘツリトア
リ万葉集ニ大宮ノ内まできこゆとびさす
とあごことのふる海人のサヘツリト見エ
タリ、煮雜ノ記ニ物いふとをしやべりこ
とこいふトアリ

さへみる 繩ヲ直スヲイフ、再見スルノ轉語
カ

さぶらぶ 歌舞遊宴スルヲ、騒サワグヲさやぐ
モイフ、其轉語ナルベシ

さぶける 浚ヲイフ即其轉訛ナルベシ

さぶらぶ(さぶ) 又さぶらぶはし、往事ヲ語ル爲
終ヘシ事ヲ再ヒ爲直ス再見直シナルベシ

さぶらぶ 又サアブイ、ナアミイ、サビイ、共ニ
寒キヲイフ即其訛言

しほろ 退クヲイフ、和菜云退行ノ俗語ナリ
後去義ナルベシ

しなぐ 又しやぐ、打ツヲ云フ、雨ナドノ打
ツケルヲモシヤギツケルナドイフ擊劔具
ノ竹刀(シナイ)ハシナギノ音便ニテシナ
ギ、シナグトイフガ本語、竹刀ハシナヤカ
ナルヨリノ名、シナイ打トテ手掌ヲ反シ
テ打合フモ同シ語、シヤグハシナグノ轉
語ナルベシ

しめる 又しめかす、容貌ヲ飾ルヲイフ、シ

サレノ活語、猿樂沿革考云大鏡ニ道頼大
納言ノ「ヲイフニいどよく又されをかし
くおはせしトアリ尙さればみ、されく
つかへる杯イフ事物ドモニコ、ラ見エテ
元ハ猿樂ヨリ出ツ云々さるトイフ「ヲサ
ヘゾさればみ、されくつかへるトヤウニ
さい用ヒテ下學集ニ左禮ハ戲義也ト云
ヘルモ皆猿樂ノ由ニ叶ヘリされ、され、ト
イフ詞令モ尙訛リ傳ヘテしやれト云ヘリ
漢文字ノ洒落ヲアテ其音ノ轉リテしやれ
トナレリト混ヘ思ハソ人モアレドコハ本
ヨステ、未ヲ説クニテ實ニハされ即チし
やれナルニ幸ニ洒落ノ音ノシヤラクト訓
マレテ義モカク、通ハバコソアレ云々
後ニハされしやれ再ビ訛リテちやり、ち
や、杯云ヒ人ヲ茶ニスルらやかす杯云フ
俗語モ今ハ詰リ嘲ル方サマノ詞ニノミ用
フノレド言ノ義ヲイヒモテ行ケバしやれ
ものトイフハ即チちやりちやると同シ意
ナルヲヤト云ヘルゲニ然リ

しめる 閉ツルヲイフ、縮ル義ナリ

しみる 氷ルライフ、名詞ノシミヲ活用カセシモノ

しやづる 小倉ニテ、ムカシ奪フコ

しやぢける 小兒ノアバエ騒グライフ、大辭書ニしやぢはるヲ鯨張ノ義トセリ、しやぢけるモ鯨ノ鯨ヲセカセル如クしやぢけるニテ誘フ意のハ其活キナルベシ

しやらける 猫ノ戯ル、ライフ、シヤレル(戯ル、意)ノ轉語ナルベシ

しやがといなる 忽チ食ヒ盡スト、邪ガ灰管メルカ、大蛇カ蠅ヲ嘗メルナラン此國ニテハ今字ナレド蛇ヲヘビト云ヘハ通常ノモノトシシヤト云ヘハ大ナルモノトセリわしい 又シワシ、和菜云鄙客ライフ鯨ヨリ出デタルニヤしわツこいニしわつけらしモイフナリ

しかつめらしい 然ッ可キラシキナリ、即チ其義

しやらぐさい 洒落臭イナルベシ、シヤレルノ轉語

しかくい 四角イナリ、四角ノ名詞ヲ圓イニ對シテ活用セシメシモノ

しやうしない 笑止ヲ活用カセシ語ナレト今ハ羞カシトイフ意味ニ使フ

しよつばい 又シヨツカライ、鹽ハユイノ轉カドワイノ條ヲ見ヨ

すたく 啼クライフ響リ詞、すたくハ万葉集ニ多集ヲ訓メリ虫ノ集リテ聒シキ意ニ云ヘリ巢抱ク義ニヤ、伊勢物ニ葎生ひて荒れたるやどのうれたさはかりにも鬼のメダクちりけり此他古書ニ多カル詞ナレド皆集ル義ナリ、ソハ長明集ニ草ノ葉にメダク螢ノほのくごたごりを渡るまゝのつぎはしトアルニテモ著キヲソレヨリ轉リテ此國ニテハ泣クヲスタクト云ヘルナルベシ 信濃ノ方言ニモ泣クヲ云ヘルナラン佐久間象山ノ歌ニ見エタリ

すなはる 紙リ食フライフ、素紙ノ轉訛ナルベシ素ハヌバヤイナドノミニテ發語ノ辭ナリ

すなる 意リ延バヌライフ、俚集ニ甲斐ニテ意ルコトノミアリズル、ズルイナドノ轉語ナルベシ、或ハズリヤルノ中略ナルベシ

する 又するける、全上ノ意

するい 怠慢ナルライフ、俚集ニ緩ライフ轉シテ緩意ヲ云フトアリ

すまひ 秤目外目杯ノ不足ナルライフ、俚集ニ進疾ナリ進利也、孟子ニ進銳ト見エタリ秤目外目ナドヲ少ク不足ニ量ルコトハ實ニ進疾銳敏ナル技術ニアラチハ出來ヌコトユエニ轉用セシナルベシ

せうへんする 買物ノ破約ライフ、故事新編ニ是ハ蛙トイフ者ハ逃ゲ去ル時必ズ小便スル故蛙即カハヅヲカハズ即買ハズニ取成シテ約束ヲ停メテ逃グルヲ小便スルトイフトアリ

せかせる 嘲弄スルナリ、嘲弄セラル、人ハ怒リテ迫キ込ムヨリ急カスル義カ嘲弄スル人ヲ元トシテノ詞

せらわらふ 嗤笑スルライフ、せららハサ、ラト通ヒ小ナルヲ云ヒ、せららわりハ微笑ヨリ出デタル詞カ

せたげる 催促ス、和字正濫鈔卷四、宛しむたぐ志江切世ナル故ニ俗ニせたぐト云ヘリ和字通例書シヘタグ虐ト見エ然レバ宛モ虐ノ義ニテ仮字ハシヘタグシヘノ約リセトイフベシ唯責ヲせむトイフ其轉語カ

せいどうがない 氣力ガナイ、勢徳カ

せつない セン方ナク苦シキニイフ、術無シト同シセンズベナク切迫セルコト、無術ハ山槐記、豫衰老病後難役勞無術、古事談此事者理非顯然候未斷之條無術事候也ナド猶アリ

るびく、嬰兒ヲ笑ハス、誘フ義ニテさびくト
通ラニヤ雲ニイフハ、導引ナリ人ヲソビク
トイフハ、傍引義ナルベシト、俚集ニ見エタ
レド、さびくニ通ヒテ誘フ意ナルコト前ニ云
ヘル如クナラシ

ぶめき、歌謡喧嘩スルヲイフ、万葉集ニ丈夫
は友の驢(ソメキ)にちやさもる心もあら
むと我を苦しきトアル其意ナリ、砂石集
ニ公私のそのきト見エ定家ノ歌ニ春苗代
秋のかりほしめめさまで苦し見ゆるし
づりなだまき

るや、又そむしたる、煽動スルナリ、誘
唆スルナリ、和泉征簡ヨリ出デタルニヤ
うつは物語ニそやなはふれ玉ひてト見エ
タル是ナルベシ

るうば(な)、馳走ナシ、馳メ氣モナシトイ
ラ意ノ馳ハユクナシノ義猶味ナシト云ハ
ンガ如シ

た(も)ろ(も)ろ、念ヲ推ヌナリ、怠狀取ルト云
ハルナリ、意狀ハ中古以來行ハレタル
ニ、ユルミガつとめノウラモテ閑ナリ

た(ま)ら(ま)ら、金ヲ借リテ返サヌト、返済ヲ立テル
トイフニ對シテ返済セヌヲ倒ストイフナ
ルベシ

た(ま)ら(ま)ら、撓ルヲイフ、た(ま)ら(ま)らノ訛言ナル
ベシ撓ハタワメルルタワメルルイフ字ナ
リ

た(ま)ら(ま)ら、メチャク、喜ナシニテ本モナク
ナル義ナルベシ貴イ物ニハ喜ガアリトイ
フ處カラ轉リテ甚シク傷ミ又損ジテ前ノ
俊レタ所ガ無クナツタルコト

た(ま)ら(ま)ら、又デエアナエ、差支ナシノ意、ダイ
ナシトハ異ナリ其義明ナラズ強ヒテ解セ
バ他意ナシニテ賛同ノ意ヲ表ハス語ノ轉
訛カ他意ナキニ因リテ差支ナキナレバ自
然ト同ジ意ニオツベシ

た(ま)ら(ま)ら、長縮スル、縮(チヨマル)ノ意
加ハリタル語、チヨナルルイフ
ち(び)る、小便ヲ洩ス、シビルノ轉語、俚集ニ

おやまも證文又念書ノ如キモノナリ、江
次第ニ儒者依テ參進ニ意狀一例ト見エ是
レ謝罪證ナリ保元物語ニ何事といふも
の玉ふ、こそ從はめと意狀をしける著聞
集ニ車より引かろとてさる事いほじと意
狀をせさせりト杯ハ念證ナリ怠狀取リテ
念ヲ推シタル時ノ遺語ナルベシ

た(ま)ら(ま)ら、又た(ま)ら(ま)ら、持ツタイフ、手揚ノ轉ナ
ルベシ、八幡ニテハテエンクモイフ、相
川附近ニテハた(ま)ら(ま)らト云ヘリ

た(ま)ら(ま)ら、又た(ま)ら(ま)ら、謀ル又企ツナリ、俚集
ニ東雅ニタクミトハ造ル杯イフ語ノ轉ナ
リトアルタクミハ工、巧、匠、ナドヲ云ヘ
リ工夫スルヲタクムトイフヨリ移リシ語
ナルベシ

た(ま)ら(ま)ら、捲レルナリ、手練ノ轉語カ
た(ま)ら(ま)ら、又た(ま)ら(ま)ら、人ヲ偽リ謀ルヲイフ
タ(ま)ら(ま)ら、只謀ナリ熱ルニ戰争杯ニ謀
ルトイフハホクハ敵ヲ欺キテ自分ノ計中

た(ま)ら(ま)ら、メチャク、喜ナシニテ本モナク
ナル義ナルベシ貴イ物ニハ喜ガアリトイ
フ處カラ轉リテ甚シク傷ミ又損ジテ前ノ
俊レタ所ガ無クナツタルコト

た(ま)ら(ま)ら、又デエアナエ、差支ナシノ意、ダイ
ナシトハ異ナリ其義明ナラズ強ヒテ解セ
バ他意ナシニテ賛同ノ意ヲ表ハス語ノ轉
訛カ他意ナキニ因リテ差支ナキナレバ自
然ト同ジ意ニオツベシ

た(ま)ら(ま)ら、長縮スル、縮(チヨマル)ノ意
加ハリタル語、チヨナルルイフ
ち(び)る、小便ヲ洩ス、シビルノ轉語、俚集ニ

た(ま)ら(ま)ら、金ヲ借リテ返サヌト、返済ヲ立テル
トイフニ對シテ返済セヌヲ倒ストイフナ
ルベシ

た(ま)ら(ま)ら、撓ルヲイフ、た(ま)ら(ま)らノ訛言ナル
ベシ撓ハタワメルルタワメルルイフ字ナ
リ

た(ま)ら(ま)ら、メチャク、喜ナシニテ本モナク
ナル義ナルベシ貴イ物ニハ喜ガアリトイ
フ處カラ轉リテ甚シク傷ミ又損ジテ前ノ
俊レタ所ガ無クナツタルコト

延寶節用集遺尿シビリクツ尿ハ小便ナリ
尿ニ作ルベシト見エタリ遺尿ハシビリユ
パリトイフベシ、シビリハ澁ト通フニヤ
ちんめりこい 又チンマルコイ、チンメラコイ
小ナルタイフ、俚集ニ加賀ニテ少シトイ
フコヲちめこしトイフトアレバちめこし
ノ音便カ小キヲちんめりトイフ詞ノ活用
セシナルベシ

ちんめり 全上

つがひにかさめ 取得ガナイ、檢束デキヌヨ
リ出デシ語、ツガヒハ葉ニテ作り稻麥杯
ヲ束ヌル具ソレニカ、ラヌハ役ニタ、ヌ
物ナルヨリ云ヘルナラン

つかまへる 又どつつかまへる、捉ヘルナ
リ、假名ハつかまへト波行ノ活用ナルヲ
俚集ニつかまゆト也行活用トシテ云ク
一カナナホシ 書名トラエルヲツカマエル
トハイヘドちまゆトイフハカタ言也ト
カヤ乍然マ字ハ付字ニテ苦シカルマジキ

カト覺エ警ヘバハツ腕ムヲニラマユルト
云ヒ崇ムルヲアカマユル杯イフハ多シ
トアリ仮字ハタガヘド其意ハホヨシ但
まハ付字トイフハ委シカラズつかむノ
ヲ延ベテホムトイフ且俗調ニハナリ無
意ノ付字ニハ非ズ

つばふ 和菜云躰店ノ俗語ナリ突旬ノ義
ナルベシ佐渡ニテ座スルヲイフ、俚集ニ
イフ犬子焦ヲクバヒマハル神ノ御前トイ
フ句ニ狗犬ヲ盆ノ灯爐ニアヤツリテ貞徳
つらかく 蛇ノ丸ク蟠リタルヲイフ、稚兒
ヲ容ル、籠ヲつぐらトイフ語ト同ジク聞
ノウツレルナリ

つごる 修補スルナリ、綴ルヨリウツリシ
語
つなぐ 又つなぐとい、津背臭カ、食物
ノ牛臭ヲイフ、日本紀ニ嗜ヲつなむトア
ルヨシアリゲナリ猶能ク考フベシ
つわる 菓物ノ熟スルヲイフ、和菜云瓜菓ノ
爛熟ヲイフ潰破ノ義ナルベシ

つましい ッマシノ俗調、約シノ意カ、儉約
ナルヲイフ

つらげない 厚顔ナルヲイフ、面へけさいニ
テつけさいハむむつけさい、あらつけな
いナドノつけさいニテ活用ナリ

てうしあげる 煽テルナリ(陽尊ノ意ヲ含メ
リ)裡面ニナブル意モアレバ調シ揚グル
ナルベシ

てうなる 頑トシテ應ゼヌ心、木挺又ハ木
槓ヲ訓メルテコナルベシ手木尾カケリ、
又鐵ニテ作レルヲ鐵挺トイフ此ノ物ハ頑
トシテ動カヌ物ヲモ動カス力アリテ如何
ナル物ニテモマケヌヨリ云ヒイデシ語ナ
ルベシ

てういふ 又れついで、此語相川及其附近ニ
ハナシ、新町以南小木邊ニ多シ、差圖ス
ルコ(差圖ヌ可ザルニ)イラヌ差圖ナリ
出口ノ轉略カ

てうくらし 河原田附近ニテ、シヨシカ
ラゲナルヲイフ、相川ニテハ仰山ヲシク

イフ意ニ使ヘリ、ペラノト輕卒ニ口舌
ヲ弄スルヲ云ヒシ語ノ轉ニテ喋々ラシイ
カラシイハ助辭

てうい 小倉ニテ太キ、でかいノ轉、俚集
ニ凡物ノ大ナルヲイフ、出来ヨリ轉ジタ
ル語也又促呼シテデツカイニイフ

てうない 相川ニテハ今ハ頭痛ノミニイヘリ
病ニテ不快ナルヲイフ又セツナイヲモ云
的ナイカ、俚集ニ加賀ニテキナイト云
ハ江戸ニテセツナイ又シユツナイトイフ
ナリ越後ニテモイフ松本ニテ草臥ルヲ
イフ上田ニテハシンノジダトイフ諏訪ニ
テハコシタイトイフトアリ、養雜の記ニ
心苦シキヲてうないトイフ江戸ニテセ
つさいトイフガ如シトアリ

てうしんい 花ヤカスギルヲイフ、テラ
シキノ轉語ナルベシ、テラシハ光
ルヲイフ副詞ナリ
てうがへる アフノケニ臥スルヲイフ、胴頭

ルナルベシ、海府ノ語
 ニテ道ヲ遮ギルコト見エタリ、どうせん
 ハ通せぬバツコハ跋扈ニテ佐渡ノハ其轉
 訛、權勢ヲ專ニシテ人々通行サセヌイ
 フ、又相川ニテどうせんばんばん
 どうかまへる、又どうまかへる、女ノ語、捕捉
 スルヲイフ、捕リ握マヘルナリとつまか
 へるバ、つがまへるノ訛語、どうまへる
 用イフ
 取リ支ヘ
 ルナリ取リ接頭語
 絶息ス、止ス入ルナルベシ
 退去ヲイフ、退クノ轉、奈行音ヲ多行
 濁音ニテイフハ男^{オノ}女^{メノ}尿^{ウラ}濃^ノ銀^ガ隔^カ海^ノ訛^{ナリ}ト云ヒタルハ非ナリ
 骨ヲ弄ブナリ
 魚ノ腐敗ニ近ツキタルヲイフ、ナル

レハ柔クナルヨリ嚴格ヲ失ヒテ腕ノ裏
 ・トイフト詔ハ通フナルベシ
 にしめつける、小倉ニテ苦シメルコト、煮染付ケ
 ルニテ鍋ニテ物ヲ煮染ムル状ノムゴラシ
 キヨリ出デタル詞カ
 強ヒテ仲間ニ入ルナリ、にちち
 ハ但集ニ追善清十郎奴伴諸さは姫にいか
 なる奴かどくらんといフ句ニ霞をめて
 やニチル千話文、色道大鑑、ニチルチチ
 ル同意五音相通ナリ、物ヲチチ心ナリ
 トアル、チチハ伊勢貞丈隨筆ニチチ
 ト云字強乞又強請ノ字ヲ用フベシト見エ
 タルニテ其大意ヲ知ルベシ
 嬌治ヲイフ、弱ノ音活カ(越佐方
 言集)じやけ男子ノ容貌ノ婦人ノ如クナ
 ルヲニヤケタリトイフハ若氣ノ音也本ハ
 男色ノ少人ヲ若氣ト稱セリシヨリ轉リシ
 ナルベシ、古事談ニ長季ハ宇治殿若氣也
 仍大童ニテ不^レ加^三音服^一ト見エタル若氣

ハ男色ノ事ナルヲ思フベシ(但集)トアル
 是ナリ
 相當ニ似合フ、似合ハシイ、但
 集ニ雅言ニニツカハシトイフ、土佐日記
 わらは歌云々いよがひさきものといへる
 にはいとにつがはしと見エタリ
 睡眠ヲイフ、麻行音ト波行濁音ト通
 フコト古語ノ常ナレバ雅言ニモ普通ニモ
 アリヌベシ合歡ヲチムノキヒチブノキヒ
 女郎花ヲヲミナメシヒヲミナベシヒ云ヘ
 ル例ナリ
 坐ル又ヒキクナル、踞坐スル、寝ま
 する寝ル臥スト奥羽ノ方言ニハアレド少シ
 佐渡トハ異ナリ、和菜云下學集ニ踞ヲヨ
 メルハ羽州ニテ居ヲ云ヘリ、舉白集ニ小
 田原詞ニモ云ヘリ東奥ニテハ寝ルヲモね
 まると云ヘリまるハ助語こそまるゆばり
 まるナド云ヘルガ如シ又江の島土産ニ横
 ニねまらツしやりませ又癪がどうとおこ
 ヲつてよつびとねまらせぬがヒ見エタリ

ねとをイフガ本ニテ坐ワルヲモ云ヒ又餅
 ナドノヒラタケタルヲモ云ヘルナルベシ
 越後一般ニモ此詞アリト物類呼、居る
 といふとを日向及北陸道又下野にてチマ
 ルといふ古歌に霜枯はあかしや庭のきり
 シ、それ同枕チマリてを鳴く又カナナホ
 マレといふは北國語也踞字チマルとよ
 む云々ト見エタリ是ハ佐渡ト用法同ジ
 息ヲツムルナリ、多クハ脱糞ノ際ナ
 ド但集ニニラメルノ約リナルベシ古今著
 聞集チメツ、見かへりニラミけりト見エ
 タリ
 又ニグサイ、煮臭シ、又寐臭、寐タ
 リト見ユ、金葉集ニ近江にかかりといふ
 乾飯山君は越わけり人とねぐさし乾
 飯トイフニヨリテ煮エ臭シト言掛ケタリ
 佐渡ニテ煮タル物ノ傷ミカケタルヲねぐ
 さしトイフハ煮エ臭シノ義
 綿密丁寧ナル根強イハ略カ、熱ノ音

ノ活用カクダトシ、シツコシ、大辭書チ
 ツシノ近体チツシハ熱ノ轉、シツツコイ、
 クダトシ、情ガコマヤカテアル、
 のける 仰向ク、仰ケ反ルナリ又ツツさり
 そるトイフハ同語ノ訛
 のツケにる 取合ハヌ

のさばる 我儘ナリ、のさハのさノのさ
 ニテ伸ノ義、のそノ同ジ、ばもハキバ
 ル、クダバル、杯ノバルニテ増長スル、
 和菜ニ無名鈔ニ歌ヲ評シテのさある所ト
 云ヘリ、のさノ、モイフのさハのさ義、意
 氣揚々ノ意ナリ、のさばるモイフメリトイ
 ヘリ、但集東海道名所記、島原の處、しど
 ろなる鼻歌ヲ謠ヒノサバリ行ク、又駿河
 にて剛慢をいふ
 のたる 業ヲ怠タルナリ、のたるハぬたるノ
 俗語ぬたる、のたるモ同ジ意元ハぬ
 てやすむナリヨリ移リシナルベシ其ぬ
 たハぬたうのぬたナルベシ、和菜ニ俗

ニ煩燥ヲイフハ喩ヒナリ、のたうの云フ
 ナリ肥前ノ佐賀ニ草臥タル事ヲ沼田ノ如
 シトイフのたうも俗語モ同意ナルベシ
 言海ニ猪草ヲ集メタル上ニ轉リ臥ス轉顛
 雅言集覽云東人ノぬたくり臥す杯云フ是
 ニ同ジヌタクル、ノタクル杯アルニテ知
 ルベシ

のめしこく 全上、蠶ノ意カトイフ説アリ蠶
 ハ木ヲ食フ虫ニテ所ニねてゐて暮スエ
 エニ云ヘルカのめしこきハ體ニセルニテ
 惰夫ナリ

はさばる 出過ゲルヲイフ、ベラベラツ
 クノ轉訛カ、ベラベラヲベラサラト云フ
 ハ重語ノ一格其ベラサラヲ音便ニベエサ
 ラト云ヒシナルベシ、ベラハベラクサイ
 ノベラ、ツクハ活語

とる 抛ツナリ、はふるノ音便、はふるハ
 和字正濫鈔卷五、盜はふる日本紀、俗ニ
 物ヲ捨ルヲハフルトイフモ源氏ニハフル
 アツレ、ハフルレ、アフルレト云ヘル皆

アトハト同韻ニテ通フナリ云々ト見エタ
 リ、又葬ヲ古語ニハフリト訓ミ放ヲモハ
 フリトイフ、皆モトハ同語ノ轉ナリ捨ツ
 ルハニ投捨ツルガ名キヨリ遂ニ投グル意
 ニモ用フラン

とかゆく 早ク進ム(事業)万葉四、秋の田の
 穂田の蒔婆加かより合はどそもか人の
 わをことなさん全十秋の田の吾か蒔婆可
 の過ぎぬれば雁がねさこゆ冬かたまけて
 全十六天あるやさよらの小野にもがやか
 り草刈婆可にうつらをたくもトアリテ玉
 の緒琴ニ刈婆可ハ田ヲ植ウルニモ刈ルニ
 モ其外ニモ一はか二はか杯イフヲアリ男
 女相交リテ其はかヲ別ケテ植モ刈モスル
 ナリかより合ムトハ其一はかノ内ノ者ハ
 寄合ヒ並ビテ物スルニユニカクツツケ云
 ヘリはかのフハ今モイフニテ譬ヘパー
 ツ田ヲ分ケテ一はか二はか三はかと立テ
 、一はかより植エ始メ始メテ二はか三
 はかと植終リ蒔終ル也ト云ヘリ中島廣足

イフ俗ニはかゆ、はかゆかぬ、はかど
 る、はかどらぬ、杯イフハ此語ヨリ出テタ
 リ、倍テ其はかノ意ハ計ナルベシ播摩風
 土記ニ波加村占國之時、天日槍命、先到
 處、伊和大神後到、於是大神佐之云非
 度(ハカラザリキ)先到之乎(マツイタレ
 ル)トテ故曰ニ波加村トアリテ此ハカハ
 計ル義ナレバナリ、但集ニ計也墓也又體
 はること定りたる處をハカといふと云ヘ
 り抄はかのゆくと見たり

はける 小兒ノ喧騒スルヲイフ、化ルヨリ出
 デシ語ナルベシ、海府ノ語

とたける 放散スル、開クヲはたくとイフ
 語、安治拾遺太平記杯ニ見エタル、ソレ
 ヨリ移リシ語、太平記十、大手をはたけ
 て追ける間トアリ他ニテハたヲニゴリテ
 ヨム也書言字考節用集ニ哆(哆レ口)嗜ト
 アリ玉篇ニ嗜ハ大ニ口ヲ開クナリ哆ハ微
 ニ張ル也ト注シテスコシ口ヲ張ルナリ然
 レバ是モ開ク義ナレバたヲ濁レリ

とたく 叩クライフ、是ハ拂塵ニテ室内器物ノ塵埃ヲ拂クヨリ起レル語、次ノ語ト似タレモ別ナリ是ハ四段活ニシテ清音ナリとだける 容器ヨリ物ヲ取出シ盡スライフ、言海云刷、搔キ落ス、コンゲオトス、和名抄馬刷干麻波太氣塵ヲ粉ヲトアルヨリ轉リテ物ノ有ル限リ出シ盡スコト也 騒ク又浮レル、早ルト云ヘルナルベシ

としやぐ 乾燥スルライフ、俚集ニ甲斐ニテ乾クコトアリ

ひぢむ 又ひるむ、怖ヂ止ムナリ痺ル、和名抄痠痺 醫心方痺 轉リテ痠エ撓ム、挫ケ縮ム意トナレリひぢむハひるむノ轉

ひぢる 捨ツルナリ、打破ル(ウチャル)ノ轉訛ナルベシ、打消ル義モアリ

ひつちる 引キらざる義

ひつたぐる 引手操ルナリ、人ノ手ニアル物

ヲ強奪スル意ナリ、手操ハ自分ノ方ニヒキヨスルナリ

ひつばかす 引キほかす義、ほかすハ落窪物語ニほはかし玉ふにやト見エテ放スナリ尙ほかるノ條ヲ見ヨ

ひんぼろめる 落ツルナリ

ひねる つのる、拈ルナリ

ひよる 評判スルナリ、調弄スル意ヲモ含メリ、評ヲ活用セシメタルナルベシ

ひだるい 又フダルイモ餓エタルライフ、乾意シノ義カ腹減リタリ、ひもじ、和菜ニ武備志ニ肚餓ヲ譯セリ腸ノ乾タル意ナルベシ

ひもじい 或ハ梵ニ餓鬼ヲヒレイタトイフ訛リト、ヒタルイヲひ文字ト云ヒテ更ニ活用サセタル女房詞ナラン枕草紙ニさびの上き物の品々ヒモジナル時くふ飯トアルニテモ知リヌベシ

ひどい 甚シキライフ、火疾ノ義、火急ト云ハンガ如シ手ひどし 苛杯モ云ヘリ、俚集ニ加賀ニテ無理ナドイフコトアリ是ハ非道ノ轉訛ナルベシ

ひざまひ 窮屈ナ思ヒヲナスコト、不住ひノ義ナルベシ

ぶつける 投ゲ中テナルナリ、打付クルノ訛言ナルベシ

ふてる 棄る又焼ケニナル、棄ヲ古語ニウラルトイフ其訛音

ふんばる 能ク働クコトニイフ、奮發ノ意、働クライフ、和菜ニ踏張ノ義、踏字ノ意ト云ヘリ

ふさる 生長スルライフ、フトイノ活語

ふさく 長キコト、大キナルコト、肥エタルコト等ニ用フ、長ノフトイ、聲ノフトイ、軀ノフトイ、ナド太イヨリオコレル語

ふたまじく 又へたもたつく(相川)小倉ニテ

遅緩ノコトヲイフト俚集ヘタバルノ注ニヘタバリツク杯云ヘタト坐シテ動かザル意ナリ、和菜スワル條ニ關東ニヘタバルトイフモアリ、愚案ニスワルトヘタバルト少シ異ナリ或ル狂歌ノ書ニかまゑひとよめる大道にさもいんさんにヘタバリて白癡拙者酔はいたさぬト云ヘルヘタバリツクノ轉ナルベシ、ヘタバルハ歩ノ遅クテ酔歩蹣跚云ヒツベキ狀ナルヨリ遅緩ナル意ニイヒウツセルナルベシ

べたない 汚穢ナルライフ、是語ヨクハ分ラキドキタナイハ段無イニテ物ノ稜角ヲ失ヒタルヲ云ヘバ穢無イノ轉訛ニヤ凡ソ衣服ノ穢アルハ美シクオキハキタナケレバナリ、又今物ノ端ヲヘタト云ヘバ端無イノ意ニヤ

べつちりこい 扁平ナルライフ、ヒラタキヲ雅言ノケク活ニ轉ジテヒラタケシトナリタルヲ俗調ニヒラタコイトナレルガ常ナ

ルヲ訛リテベツチャコイトナリ、ソレニ
口ノ助辭ノソハリテベツチャコロコイトナ
リタルカ再ビ轉リテベツチャリコイトナ
レル詞ナリ

へらへらイ ナマイキ又ヌラクラ主義ヲイフ
ヌラクラシテ主義ノ堅立セヌラベラボウ
トイフ其義ニテベラボウ臭イノ畧ナルベ
シ

ほろがる 又ほかる、ほころ、投グルヲイフ、

ほかるハホカスノ轉、ホカスハホカス
ノ略、ホカスハ落窪物語ニ着せ給ヘ云
々着奉れどほろかし給ふにやトアリ棄テ
又ハ放置スル意、借テ此詞ハ古語ニ放ヲ
はふりト訓メル是ナリ故ニ佐渡ニテモ今
ニハウルト云ヘル所モアリハウルハハフ
ルノ音便ナリ、和菜ニ放下ノ音ナルベシ
ト云ヘルハイカハほうかるハほかるノ音
便、ほころハ其轉語
ほしめる 街フナリ、欲セシムルノ略ナルベ

シ人ヲシテ羨マシムルナリ

ほろける 火ヲ撥キ起スヲイフ、解クト通フ
ナルベシ次ノほろノ轉

ほろく 紐杯ノ結ビヲ解ク普通語、大辭書
ニ分レ解ケル、結びがほろけてト見エタ
リ

ほろく 騒グヲイフ、祝ヲ古語ニほろくとイ

フ、神代紀天窟屋隠ノ時神祝々(ホサキ)ト
アリテ八百万神ノ歌舞シテ笑ヘル狀ヲ記
セシハソレヨリ出デシ語ナラン、借テ其
ホザクハ祝幸ノ義ニテ都テ祝幸ノ事スル
ニハ噓サワグヨリサワグヲホタクトハ云
ヒケン万葉ニ千年保支保支吉等與毛之惠
良々々爾トアルハ祝キ動モシ噓々ニト云
ヘルニテ大ニ笑ヒサワグ狀ナリ
ほろめく 又ほろめる又ひんほろめるハボロ
ハハラト通ジボロくハハラノ杯ハ土ノ
崩レ落チ木葉ノ亂レ散ル杯ヲ云ヘバモト

ハ其落チ散ル音ヲ形容セシ語ナルベシ、

又涙ノホロリト落チナドイフモ全語トキ
コユめく、めるナドハ形容ノ活辭

ほしめる 急所ヲツクナリ、星ヲ指スニテ
射的ヨリ出デタル語、但集ニ的中丸ヲ
星トイフト見エタリ

ほつてもない 決シテ、但集ニ堀つてもない

事物ヲホルハ掘ノ字ヨロシ淮南子伏苓掘

兎縮死ト見エタリ是ノ語ノ中ナルベシ

まぜなう 飯初ニ爲ス、間ニ合セテナス

マゼナウ 雑行ノ義カ、マゼハマゼカヘス杯

イフキノマゼナリ

まごころ まごころスルナリ、但集ニまごつ

ト語ノミアリテ解尺ナシ余モ未ダ考ヘ

ズ

まへる 價フヲイフ、元ノ儘ニスル義ニテ

儘ノ活用ケルカ

まんがらす 魔力指スナリ、事柄ノ中途ニ妨

害ノ入ルヲイフ

またい 驚愕ナルヲイフ、全イナルベシマト

ウルイフ、安齊隨筆マタウドノ注ニ全人

(マタキヒト)ナリ身ニ惡事セズ闕ケタル
事ナキユエ全人トイフナリトアリ語意同
ジ

またい 味ノ不美ナル技術ノ不良ナル、但集

ニ假字未考物ノ味ノ美カラヌヲイフ、又

物ノイタラヌヲマヅイトイフト見エタ

リ、今按ニ貧シト語通ヘルカ若クハ未シ

ノ轉ナルベシ歌詩杯ノ能ク出來ヌヲまだ

トイフ是ナリ

まんならぬ 圓キヲイフ、眞圓ノ俗調

みまげてる 見下ダ果タルナリ、人物ノ劣等

ナルニ驚ク意

みづたがる 酒ノ爛ヲスル、水氣ヲ取ル義

ナルベシ

みぢならぬ 落付カレヌ意ニ使フ、安心デキ

ヌ也食物ノ消化ヨリ出デタル語、心配ナ

ドスレハ食物消化セデ肉ニナラヌヲイフ

みぢない 見トモナイナリ、醜キヲイフ

むじむ 殖ルヲイフ

むぢく 又みぢく、指ニテ物ヲホグシ見ル、但集越後ニテ引裂ク

むる 漏ルナリ、もるノ轉

むく 剝クナリ、普通語

むさく 汚穢ノ意ニ云ヘリ、むつかしトイフ

ニ意通ヘリ又无差ノ音也トイヘリ、むさ

トむさくトイフモ是ナリト和菜ニ見ユ

蒸(ムス)ノ轉ナルベシ佐渡ニテむせむつ

ミコヲむさくアツシナド云ヒ又むさく

ろしい杯モ云ヘバ素ハ熱氣ノ蘊蒸シテ心

地思シキヨリウツレル語ナルベシ

めくじらだてる 又のにかごたてるハ目ニ角立

タルナレハ目皆(メガシリ)立タルノ訛ニ

テ外毗ヲ逆立テ、凝視スル貌ナルベシ

もうつけない 惘然ヲイフ、ムコツケナシノ轉

ラシハムゴラシニ同ジクムゴラシハムゴ

シニ同ジ慘(ムゴシ)ハ古言メグシノ轉

メグシハ万葉集十一二人モナキ古ニシ郷

ニ有ル人ヲ感クヤ君ガ戀ニ死ナセントア

ル者ニ云クメグクハ下卷ニ意具美吾念兒

等テフ歌アリ、ソハ末ノ卷ニモ多クテ上

ヨリ下ヲ心ニ苦シト思ヒ見ル目ニ苦シト

思フ事ニ云ルヲ愛ハ我が上ニ取リテ云ヘ

リ即チ今ノ人ノムゴクスルトイフ是ニテ

むごくトめぐるトハ普通ヒテ同意ナリ又

卷十七長歌ニ情具之眼具之もかしにトア

ルモ心苦シク思フモナク見テ苦シト思

フモナシノ意又九卷長歌ニ他妻ニ吾モ

交ラン吾妻ニ他モ言問ヘ云々今日ノミハ

目申モ勿見ソト云モ見苦シクモナキ意ナ

リトアル是ナリ俗言ニモムゴイヲメゴイ

トモイフ所アリ、膝栗毛ニ濃州垂非ニテ

ムゴイヲめごいと云ヘル如ク記セリ奥州

女中ノ詞ニモめごいこんだアトアリモゴ

レ木ノ長牛リヤモフヲイフナリ

やすなごでない 容易ノニアラズ、少シノ

ニアラズ、優ナ事ニ非ズノ義ナルベシ

やすない 腐レ、濕レ等ヲ厭フ語、キタナ

ラシイ、瘦兒ノ活用セル俗語カ、瘦セタ

ル兒ハキタナラシキ感ジノスレバリ

やすせもつせもない 又やりせもこりせもあ

い、遣ル瀬モ取ル瀬モナキ轉訛ナルベシ

爲ズシテモ濟ムニ無理ニ強ヒテスル如キ

場合ニイフ

やすこい ヤハラツコイ、和柔カキノ轉訛

やすこい 不似合、不揃、シツコキヲイフ、

松脂濃イト云ヘルナルベシ、唔吟我集ニ

寄松戀ヲ住吉の峯せふりにねはふして

やいこさ人は上つにさゆぐ

ゆさる 又ゆぶる、ゆする、動搖セシムル

ヲイフ、ゆするハ動搖ノ古言ゆぶるハ搖

(ユリ)振ゆさぶるハ動搖リ振ノ轉約カ

イモモゴツケナイモイモイフ皆同語ノ轉ナリ

もつたいもぢない 忽チ物ヲ破リ又ハ失フ

ニイフ、物ノ保存力ガ無イトイフ意ニテ

物體保持ガナイノ字面ナルベシ

もたたく 焼田ノキノ省カリタル語カ、ヤ

タコガシ杯云ヘリ農家ニテ粟削ニ穂ノ交

リタルヲ燒ク稱

もまふ 厭フ、懶シ等ノ意、又やもら病ノ延

言類フヲイフ、散木奇歌集、鳥狩する幸

男の弓弦うちたわてわたらぬ戀にヤマフ

頃哉、夫木集奥山のくまかくれなるはた

つもり知られぬ戀にやまふ頃哉杯アルハ

思ヒ煩フ意ナルヲ轉リテやもら云ヒテ

俗ニ物ヲスルニ躊躇猶豫スルヲイフト

ナレリ、散木奇歌集櫻にも枝さしかはす

桃みれば空さへ今朝はさかヤモヒせり、

詞書ニ推されてヤモヒもぞするどてあな

りの木どもさきはらはせ給ふを見て、是

ゆるる 又いする、強請ノ意、人ノ物ヲ強請スルニハ其人ヲ動搖リテスルニエニ同語ノ轉用ナメリ

ゆるがふ 行過合フナリ、ギアノ約リガナレバスギアフラスガフトイフナリ

よこねる 俗ニ物ヲ借リテ返サヌヲ横ニねるとイフハおこすノ反語ナリト云ヘリト和菜ニ見ユ案ニ杞(起)ハおこす(遣)ト語通ヘバサモアリヌベシおこすハいこすニ同ジ

ゆるる 教ヲ受タルナリ、即チヲシヘラルノ轉語

をこつて うこつてノ條ヲ見ヨ

るれつがまらぬ 言語ガ正シカラヌナリ、呂律ガまはらぬナルベシ

第五章 副詞ノ部

(此編中ニ●印ヲ付スルモノハ大辭書ニ普通語トシテ載セタルモノナリ)

あかしく 危ム貌、第一甚明ルキ意赫々第

二心ニ恐ル所アリテ面ノ赤クナルヨリ只恐ル、一報然

あつく 物ヲ大口ニ食フ貌、飽食ノ意ニテ飽々カ又唯口ノ物食聲ノ形容カバクハ魚ノ喰嘴スル形ヲ形容スル詞ナレバ其轉カ

あきく 厭倦貌、厭々ト云ヘルナルベシ

あせせ 煩忙ノ貌、醒醒ノ轉訛

あつきり 淡泊又薄キ色、濃キニ對ス、淺ノ轉活

あてまつばう 當卒放ノ意、ヨイカゲンニスルヲイフ當寸法カ

あまほつこり 甘ク旨キ貌、ホツコリ其状態ヲイフ詞

あんかん ウツカリスル貌、安閑ノ字面ナルベシ

あやふる 危キ貌、危フヤト云ヘルナルベシ
アヤアヤノ重キ語ヲ一字カヘテアヤフヤト云ヘル電話ノ格ニ多カリ

いさしく 氣ノ勇ム貌、勇々ト云ヘルナルベシ

いらしく 炎天ニ日光ニ當ル感、苛々ト通フナルベシ苛々ハ書言字考ニ見エタリ

いがしく 咽ノ苛ツク貌、芒ナドノ膚ニ觸ル感、苛刺々々ナルベシ麥稻ノ穂芒ヲイガトイフ

いさかしく 又ヤカモカ、争フ貌、但集ニ諍(イサカフ)ハ競逆ノ義ト云ヘリ其競ノ用ナルベシ、ヤカモカハヤカマシノヤカノ疊語法

うろく 惑ヒテ左右ヲ顧視スル貌、愚ノ轉カ、古語ニトボケタルヲおれて、又おれ物、おれくしノ語アルモ皆同意、ウロツクモイフ、書言字考ニ耽耽莽々ヲウロクハ屏營ヲウロタフルト訓マセタリ、屏營ハ彷徨失據貌

うかろく ボンヤリシタル貌、浮々ナルベシ書言字考ニ虚々ヲウカウカモウツラク

いせ見エ椿葉記ニウカノトシテ年モタレヌト見エタリ

うかつか 輕卒ノ貌、ウカクノ轉用

いさしく 肥体歩ニ難ム貌

いさしく 遠慮ナク食フ貌

いさしく 又ヘコタコ、能々

いりわり 又いりわり正故サラニ擇割カ、又エリワリイフナドハ善惡ノナリ、エワルイ訛ナメリ、但集ニエリワリイ備中ニテ善キ惡キヲイフト見エ又エリワザ、故ラニ西國ノ方言トアリ然ラバ擇業ノ轉カカズルベシ 光ノ輝ク貌、輝々カ赫々ノ轉ナルベシ

かしく 膚ニ膏氣ナキ貌

がしく 爪ニテ物ヲ抓ク音ナリ

がすく 粗製ノ墨ヲ磨スルガ如キ音ナリ

かたく 又ガタク、物ノ音ナリ、蔓々ノ音轉ナルベシ又カチャク、ガチャク

カチヤ、カチヤ、ガチヤ、ハ物ノ
 煮エル音ニモイフ
 かつ、稍少シツ、ノ意、且つ、ナルベ
 シ、俚集ニ俗ニやう、又キツト杯イフ
 ニ同ジトアリ
 がち、鼠ノ喘ル音又堅キ物ニ當ル音、カ
 チカチト清ミテモイフ
 かつかり、遊ニ氣落ノセシ貌、又カツクリ
 俚集ニ駿河ニテ弱ルヲイフ、ガツクリ、
 割屈打傾ク狀ヲ云ヒ又ハリツメタル心ノ
 ユルマル体ヲモイフトアリ
 がくて、道士凸凹高低アル貌
 がた、物ノガタツク貌
 がち、人ノ足音、ガチ、ノ重語格
 がぶ、湯茶杯ヲ名ク呑ム貌、古語ニカ、
 呑ミテシントアルカ、ノ轉
 がぶ、小言ヲ喧シクイフ貌、俚集ニ嚙々
 ノ義、人ヲアラケナク叱ルヲイフ恐クム

カマヤナラシカマハカシマシキ也ト見
 エタリ
 がり、亦倉ニテ言ル言ナリ
 ぎ、苦叫ノ聲又キウ、庄、俚集ニ苦
 シミ通リテ叫ブ聲トアリ
 ぎ、角立チテ曲ル貌、曲々ノ轉カ
 ぎ、鋭ク見回ス貌、巖々ノ略カ
 ぎ、キリ、シヤントシタ、前掛腰ヲ
 嫌ウテ羽黒板鉢トテナシダ、形ノ整ヒテ
 シマリタルヲイフ
 ぎ、又キロ、空上書言字考節用
 集、俚俗ノ常談
 ぎ、祝籠杯ヲ昇キ行クガ如キ音
 ぎ、鬱陶シキ貌、鬱々ノ轉カ
 ぎ、密ニ健ク貌
 ぎ、和菜ニ愚卑、ノ音ナリト云ヘ
 リ

ガ、ツマラナク小言ヲイフ貌
 ぐた、身體ノ疲勞セシ貌、又清ニテモイ
 ヘリ、痿エテ伏スガ如キ狀ニイフ、クタ
 ハクタビレノクタナルベシ、宇治拾遺ニ
 ナヘノクタノトナシテオツル所ヲト
 見エタル是ナリ
 ぐ、笑フノ貌、俚集ニ笑フ聲トアリ
 ぐ、正立セヌ貌、グニヤリテグシニ
 ヤリテグシナリイフ、撓ニ痿くるけし
 ぐ、全上
 ぐ、目マイスル貌、物の回ることヲク
 ル、といふ眩の時、周囲ニ見るもの回
 る様に見ゆるものなるが故にクル、の
 轉じてクラ、と亦れものなるべし
 ぐ、逆上シテ耳ノ鳴ル感
 ぐ、又グワラリ、鈴杯ノ鳴ル音

け、ウハチク小言ヲイフ貌、又物ニチ
 び、スル貌
 け、是ニテ人ヲ踏ム音
 け、締ナク笑フ貌、又グタ、イイ
 和菜ニ快樂ノ音ナルベシトイヘレド唯笑
 フ聲ナルベシ著詞集ニキラ、トノミ笑
 ヒケリ見エタリト俚集ニ云ヘルヨロシ
 け、食ニ飽キタル貌
 け、吐嘔スル貌、吐ク時ノ音聲ヨリ出
 デタル語
 け、類リニ頭ヲ打ツ音
 け、鋸ヲ引ク音、又藁繩杯ニテ物ヲ擦
 ル音、俚集ニ物ヲ磨ク音トアリ
 け、小狭々々ノ意ナルベシ、俚集ニ俗
 苛々ノ字ヲ用フ、和菜ニ俗ニコセ、コ
 セツク杯云ヘリ小狭ノ義ナルベシ感ハ苛
 字ヲ訓メリ云々又區々ニコセ、屑々同シ
 見エタリ

こたぐ 混雜ノ貌、和菜云骨董ノ音ナルベシ俗語ナリ、ゴタツクトモゴタマゼイフ無用ノ穴物ヲ閑一ノ小間物屋ヲ一肆ゴタ箱ヲ一箱ゴタ袋ヲ一袋ゴタ煮ヲ一煮ト云ヘルヲ、西土ノ書ニ見エタリ續無名抄ニ巨多々々(ゴタ)トアリ

ころく 靜ニ音スル狀ニイフ、宇治拾遺ニ法師コソトシテ入り來ルマニ云々谷ヨリ岸ノ上ザマニコソト上リヌト見ユコソソリモ同意

こちく 堅キ物ノ相打ツ音、又物ノ堅キ貌、俚集ニ堅キ物ニアタルナリトアリ

こつゝ 咳ケ音

こつゝ 巨多ナル貌、又コト、巨多ノ字音ナルベシ又コト、巨多ノ字

こく 物ノ多キヲイフ、巨多ノ義ナルベシ巨多ヲコトト訓ムハ唐音ノ轉ナルベシ

こぶ 涕、膿、汗ノ多ク出ツル貌、又物ノ煮ユル音

こもく 打開ケヌ貌、コムトイフ詞モアレバ込々カ庄思ヘドコモハ草木杯ノ繁茂セル貌ニテ籠々カ交々ノ意モアルベシ

ころく 轉展スル貌、又笑フ貌、書言故事ニ掩口笑曰胡盧ト見エ通雅ニ盧胡笑(ハ)喉間ニ聲也トアリ展轉(コロ)ナリ

さか 氣ノ劇シキ貌

さか 小兒又蟹ノ這フ貌

さく 氣ノ捌ケタル貌、梨十杯咀嚼スルニイフ辟カトアリ和カニ裂ケ易キヨリ出デタル語ナルベシ

さく 亂雜ノ貌、危岩ノ

さく 茶漬飯ヲ食フ音、又水ノ盈滿セル貌

さく 虫ノ這フ貌、サワノ、倭菜云日本紀事記ニ見エタリ騒々ナリ今モ言フ語ナリ、俚集ニサワノ騒ヲイフ濁ルハ俗言ナレバナリ水ノ流ル、聲トアリ虫ノ這フヲイフモ具音ナリ

しかく 早く又慥ナル貌

しく 虱、蚤、又刺ナドノ刺ス感、和菜俚集ヲ合セ考フルニシクハ屢也シクシク泣ク、眼ノシクハスルモシクハ屢ハ承ナリ承ハ棘ト通ズ棘ハ刺アリテシクハサス意アリト見エタリ其意ヲ知ルベシ

じく 肥エタル貌、又緻密ニ言フホニ用フ片端ヨリジクハ押ヘツケル杯

しこく 堅軟ノ中間(餅等)

しな 徐々、又鞣々セル貌

しわく 木竹杯ノシナフ貌、シナハ

じぶく 水ノ滲ミタル貌

しよほく 沾濡ノ貌

しやれく 早く行ク貌

じやきく 南瓜芋杯生煮ノ齒ニ障ル貌、又包丁ニテ物ヲ切ル音

じやく 衣服ニ刺ノ強キ貌

じやく 衣服ノ長ク垂レタル貌

じやく 毛髮杯ヲスリ落ス音、又物ヲキル音

じやく 等窓ヲ打ツ音、又ジヨリトニ同ジクモ

じやく 親密丁寧ニ(話ナド)スル貌

じやく 細長ク堅立セル貌、俚集ニシヨボシヨボニ同ジシヨボリ濡レナドイフ百里談小芝スダナキ形ヲ喩フ簀着テ立テル軒下云々トアリ是ヨリ移リタル詞ナリ

しよな 歩ミノ抄取ラヌ貌

しよな 全上

じやく 織物ノ升ノ荒キ貌

じやく 寒サヲ覺ユル貌、俚集ニシハ

じやく 寒冷ノ意ハノ音ヲノ如シ

じやく 魚又毛杯ノ焼クル音、又暑熱ノ甚

シキ貌

シキ貌、シヨボクニ同ジ、和字正濫抄シホ、萬葉ニ袖モシホ、ニトヨメリ源氏ニシホ、トマツハナカル、トヨメリシホルル云ル同ジ言カトアリ何レモ擅ヲ活カセシ語ナルベシ

シカノ、冷ニル貌、スガクト通フナルベシスガノ、日本紀ニ吾心清々、清地此曰ニ素鷲トアリ是ハ濯々シキナリト云ヘリ又物ノサツバリシタルヲイフト但集ニ見エタリ其轉用ナルベシ

ズキ、腫物ノ痛ム貌

ズク、頻リニ欲スル貌

ズク、失望ノ貌、スゴイノスゴノノ轉用ナルベシ、和祭ニ紫日記ニイトスゴクス、ロナルト見エタリ凄々ノ意ナリト云ヘリ

ズカク、滞リナク直ニ物ニスル貌、スグスグノ貌トイフスグクハ竹取物語ニスグ

ズグト大キニナリヌトアリ

ズタ、發汗ノ甚シキ貌、又息ヲ切ツテ疾走スル貌、又ヌト、

ズタ、寸斷ノ意、集、鐘馗語、和字道例書、ズタ、(寸)注、又段又分々日本紀、神代紀ニ寸寸ズタト見エタリトアレ下寸々ハズタトナリ

ズル、ゾロ、地ニ就テ引キズル貌、縮リナク滑ル狀、滑ル其音ナルベシズルズルベツタリニハ續無名抄ニ行々爲別ト見エタリ行々ズルトナリ

ズツ、スツカリ、悉皆ノ意、又スツバリスツボリ、スツクリ、スボント、スボントスケルトイフ陥入ノ意ノスボントノ轉ナルベシ、但集ニ俗語ノスボントスケル、スボントオチル、スボントダマサレルトイフ皆同ジ陥入ノ義、陥ハ人ノ白ニ入ル形ニ象レリトアリ

ズツ、ズツ、水ニ入ル音、サンブ

ズブリ、大和物語ニ身を投ぐる所にズブリと落入りぬト見エタリ

ゼツ、急促ノ貌、醒醒(セツ)ナルベシ

ゼツ、時々度々、但集ニ節々俗度々ノイ

ヲ節々トイフ、又セキ、伊勢ノ詞ニ度々重ナルヲセキ、サイ、云ヘリ

江戶ニテセツトイフニ同ジカルベシ

酒音僧寒慄貌素問令三人酒々一時寒愚案素問風論膝理則酒然寒、注ニ酒然寒貌也

酒、灑俗ニゾツトスル也ユエニ酒々ハゾウ、ニ音轉スルナリトミエタリ、酒カゾグ、又ゾガ、ト訓メルハ音韻ノ通法也、酒ハ字彙補ニ音僧トアリ彼様

法ナリ高山ヲカガヤマ、宗部ヲソガベ鐘禮ヲシグレト訓メル例古書ニイト多カリ(音韻啓蒙撮要)

ズガク、又ゾグ、愚寒ノ貌、和菜ゾ

ゾノ注ニ寒氣ダチ、又怖ル、ゾイフ俗語ナリ、酒々ト云ヒ凍々トイフ是ナリトアリゾンゾハ酒々ノ轉音カ

ゾ、物ヲ取除クルニ順序ヨクスル貌、大辭書ニシツカニヲスルノ形容

ゾ、取急グ貌、セコ、ノ轉ナルベシ

ゾ、恰モ似タル貌、又全體殘ラズ、アリノマ、宛然、但集ニ下總ニテスツバリ

ヲイフゾツクラソツクリノ方言ソノマ、

道ノ雪半解ケタル貌、其上ヲ踏ミ歩ク音ナリ

ゾ、日暮レントスル貌、シヨボク、云ヒテ雨ノフル狀トミスボラシキ狀ヲイフ、副詞ハ普通ニアレド日暮ノ分ハナシ

同語ノ轉用ナルベシ

ろろく。徐々、オモムロ、普通

ろろく。ソヨロくニ同ジ、但集ニぞろく進む擁進(紀効新書)一齊擁進ト見エタリ揃々ニテ一齊ニ揃ヒヌム意カ大辭書多ク打續ノ体、ザラく音スル体

だく。路漸ク下ル貌、水ノ滴ル貌、但集ニタクく血ナドノ出ルニイフ又小兒ノタクくアヨビナドイフトアリ、サレバダクくハ歩ノ状ヲ云ヘル語ト見エタリ

だぶ。液類ノ充溢スル貌、衣類ナドノ豊カナル状、ダブく大辭書ニ第一タブタブ第二泥ナド多クアル貌、(繫馬)トアリ

たよく。飢エテ腹ニカナキ貌、但集ニタクユニ同ジ其條通考スベシトアレドタクユノ語ハ見エズ然レドタクくハタクゲトイフニ同意ナルベシ、タクゲハ源氏桐壺ニいどゆげにいどふよとわわかのかのけしきにてト見ユタクゲハ但集ニ

俗ニ太儀トイフ太儀ハ借字ノ俗用ニナリタルナリトアルイトヨロシ緩々(はなは)撓々(はなは)目ヲ頻リニ瞬ク貌、大辭書ニ方言チンくモガくトアリ

あし。些シ宛ノ意、但集ニ續無名抄世話盡運徴々々本朝但譯ニ禿々ト見エレド其意ニアラズ小々ナルベシちびちびさしノ轉、ちびくちびノ重語トアリ

あま。小ク程ヨキ貌、大辭書ちんまりノ注ニちまくノちまニちり杯ノちノ加ツタ語物ノ愛ラシク約カニ且ヨク整ツタ体ノ形容ちんまりたてトアリ同意ノ語

あま。屢々ノ意、又小足ニ走ル貌、但集ニ北越後ニテ手早キヲ、世話字盡撰子々々

ちろく。稚兒ノ歩ム貌、但集ニチヨロチヨロアルキ、チヨロくワツハトノミ見エテ説ナシ大辭書ニチヨロく助ク形ノ形容トアリ

ちらんばん。又チャランバラン、胡麻カス貌、チャランハちやりの義ニテざれ言ヲイフバランハチャランヲ重テちやらん、トイフノ訛レルナルベシ、但集ニチャランボラン駿河ニテ不慥ナルヲイフ

ちやん。キマリヨク物ヲ正シクスル貌、析聲ナルベシ、駢析ニ應ジテ規律ヲ正シクスルヨリ起リシ語ナルベシ、畧シテハチャントノミモ云ヘリちやんくど片付ルナド

ちりく。晴天ニ寒氣ノ強キ貌、但集ニ毛坏ノ焼クルヲイフ又恐懼スル意又千鳥ノ鳴音トアリコレヲヨリウツリシナルベシ、大辭書ニ酷クサレテ恐レル体ノ形容、縮ミ皺ヨル体ノ形容トアリ

ちろく。畏レ視ル貌、續無名抄ニ散々トアレド其意ニ非ズチリチリノ轉語普通語ノチロくチロツ杯ト用法異ナリ

ちよんちよん。急々ノ意、チヨツコリチヨツトノ間ニアハヌ杯一寸ヲ重テタル詞ナルベシ

づか。拂ル貌、大辭書ツカく尊大ニ構へ勢ヨク歩ミヨル体ノ形容ニ枚繪草紙ニ下男つかくト寄つし棒鼻取りづか、全上ノ意味ヲ強メル語トアラ

つ。衣ノ暖ナル貌、打ツケト云フ如キ意、ツケンク庄遠慮ナク面責スル貌

つ。家ノ揺ク貌、能ク喋ル貌、ツヘコベ庄和菜云粒々ノ義、神樂歌ニ雨ふれば軒の玉水つぶつぶといはぶや物を心ゆくまで今ツベツベトイヘリ云々ツブくト細語ノ義ナル

ベシトアリ

つましく 物ヲ整頓スル貌、ツマシキ(節儉)ノツマナルベシ、ツマシキモノハ能ク物ヲ整頓スレバナリ

つたぐ 寸断スル貌、俚集ニ段々ヲ訓メリ又寸々ヲ訓メリ又神代紀寸断ッダノニキルト訓メリツツ濁ルハ俗ナリ清ミテツダツダト訓ムベシ靈異記條然ノ訓釋ニ都太部太ト見ユ日本紀標註云俚語ニズタズタト云ヘルニ同ジトズタトノ條台セ見ルベシ

でぐぐ 又デブぐ、肥エタル貌、デツクリノ轉語ナルベシ

てかぐ 日ノ照ル貌、俚集ニ日ノ照ルヲ大辭書物ノ勢ヒヨク輝ク体ノ形容、てかてかした旭日トアリ

てんがく 判明ノ貌、的白ノ音ニヤ又困知記ニ標舍之爲言猶俗云提起放下ト見エタリ此義ナルベシ凡云ヘリ、俚集ニ物ノ

速ニ片付ライフ大辭書似奇ノ音調カラノ形容スバヤク、カヒクシ

てかばち 手ノツケラレヌライフ、テカバチツカヌ杯、手モ足モツカヌノ轉訛カ

でツちり 肥エタル貌、捏字ノ音カデツクリノ轉カ、俚集ニ打スワル心也オ局ト云ヘバ肥リタルヤツニコソツレ木菟饅飴屋ノ徳利ノ貌ト見エタリ肥エタルニ云フハ轉用ナルベシ又デツシリモイフ、コレモスワル姿ナレバ轉用ナルヲ著シ

どかぐ 糸杯ノ切レ易キ貌、俚集ニ續無名抄世話字盡動下々々

どまに 夕マサカライフ、時間ニノ轉ナルベシ

どろく 顔ノ瘦セタル貌、尖々ノ轉用カ

どろく 火ノ盛リニ熾キタル貌、又遠慮ナク來ル貌

どろく 老キ貌、ドツサリ凡ドサクサト同

語ナルベシ大辭書ニ重イ物ガ落チル音ノ形容トアリ爰ノモ其用ナルベシ

どろく 終ニ結局ノ意、止々ノ延カ、到頭、俚集ニ雅言ニつひにトイフベキ處ヲ俗ニトウトウ何々シタトイフ言アリト見エタリ、大辭書ツマリ、ハテハ

どろく 人ノ混雜スル貌、俚集ニ収込ミテサワガシキライフ、ドサクサマギレ杯イフ

どろく 篤クリ又親切ノ意、鋸屑譚云合

用ニ解字ニ緒ノ亂ル、糸ニタトフ、戀ハ其亂レシ緒ヲトクナリ萬葉ニ妹ガ紐解ト結びて立出山、續千載集ニ振々かく額ノ髮の片亂れどく頼むるけふ暮哉或云韓愈ノ詩ニ去無得々、下來亦悠々、東坡詩、知是多情得々來トアリ然レド今ハ篤字ヲアツ、穩ナルニ似タリ

どろく 稚兒歩ミノ整ハヌ狀

どろく 輕躁ニシテ取調ナキ狀ライフ

どろく 人ノ騒グ貌

どろく 人ノ多ク續キテ行ク貌

どろく 詞泉ニドウナリカウナリニ同ジト分ナラズ凡、何トカシテ、トニカク俗語ト見ユ、どやかくやノ音便カ、何ヤラ此ウヤラノ意ナルベシ

どろく 雅言集覽云盛哀記佛ノ前ガ舞マフ所ニ入道は始めより横目もせず打うおづさくよだれどろくならして見入り給ヘリ宇治拾遺弓射ル所ニ引堅めてどろくはならし弓たよし見やれば云々俗ノタラノト流ス意ナルベシ俗ニキムタキ目ニどろくト云ヒ又どろしト云ヘルモノろくたるき意ニテ都テ鈍キ意ナリ語意盡トロケニ同ジトアリ今俗ニ焚火ノ弱キヲどろノタク、又小睡ヲどろどろ又どろト睡ル杯イフ皆同意ナリ書言字考ニ結々ノ字ヲアテタリ

月の端々に妹をぞ見つる戀しきまでに
 ばちく 眼ノ大ナル貌、又火ノ焚エル音、
 算盤ヲハジク音ニモイフ、書言字考ニ剣
 々ハチく 圍碁聲、丁々全上
 ばたぐ 急ぎ走ル貌、但集ニ早クハカノユ
 キカタノツクヲ濁リテモ半濁ニテモイフ
 又物ヲ拍ク音、宇治拾遺ニ戸をバタバタ
 とたつけるに
 ばささき パサツク貌、婆娑々々ヲ重言ノ時
 一字ヲカヘタルモノ是例多カリ
 ばんく 糊ノ利キタル貌、又豆杯ノ實ノ能
 ク熟リタル貌
 ばらく ぱらく 毛雪雨杯ノ疎ニ降ル貌、
 木ノ葉、涙、沙、土ナドノ落ツル貌、書言
 一ノニ 疎離ガラリ交選注ニ分散也、破落
 離全上和俗所用、班々雨ノ下ル貌、爛
 然ハラく 指南ニ涙下貌、潜然ハラく
 詩格註涙ノ流ル、貌ト見エクリバラく
 バラく 八落ツル音ナリ神代紀万葉集杯
 ニ散ヲハララト訓メルモ同意
 ばりく 乾瓜杯ヲ嚙ム音、但集ニ六根ノ乾
 タルヲ細カニ切リテ醬油ヲカケタルヲハ
 リハリ、トイフ、ハリく 其聲ナリトア
 リ但シ愛ニイフハリく 佐渡ノキリボ
 シカ、大辭書ニはりく 嚙ム音カラミの
 ぼしの香物、ばりく 瓜杯ヲ引ツ搔キ又
 ハ齒ナドヲ嚙ミ割ル体ノ形容トアリバリ
 バリモ同語ノ轉
 ひこく 又ビクく、怯懦ノ狀、惴々大辭
 書ニビクく 怖テ恐ル体ノ形容、惴々ビ
 クく 恣メク体ノ形容トアリヒコく ハ
 ビクくノ轉
 ひしく 間隙ナキ貌、大辭書ヒシグノ注ニ
 ヒシくト壓サレテ碎ケル又ひしと緊シ
 ク壓サレテ鳴ル聲ノ形容又強クハゲシク
 エルミナクトアリ壓ツメラレテ隙ナクナ
 ル狀同ジ意ナリ
 ひろく 潛密ニスル貌、大辭書密密シノビ

ヤカニ、コツソリト、悄悄細細トアリ
 びちく 魚杯ノ活潑ナル貌、又ビチコチ、
 但集ニ活潑々地ハ活テビチく スルコチ、
 リ云々琴ノ撥刺ハ五六ノ手ナリニ絃ヲ一
 聲ノ如ク彈ズル故ニビチトイフ音スルナ
 リビチバチハラバラ皆同ジ音聲ナリト
 びくく 驚ク貌、ビクくノ轉、但集ニ濁
 音驚也貞享節用集世話詞ニ恠ビツクリ愚
 案ニ恠ハ恠ノ訛ナリトアリ又書言字考ニ
 恠ラビツクリ驚ヲ義トアリ大辭書ニ不意
 ニ驚ク体
 ひつろり 関然タル貌、但集ニ世話盡ニヒツ
 ソリクワントモイフ百俚談秘卑ヒソヤカ
 ナル狀也、サワガシカラヌ狀ナリトアリ
 大辭書ヒソカ、悄然
 びんく 人ノ壯健ナル貌、大辭書(一)勢ヨ
 ク活動スル体、病氣ガ治ツテびんく
 る(二)頭痛デ脈ナドノ烈シク搏ツ体
 びんく 音ノ高ク強ク耳ニ響ク感、全上ノ
 語ノ轉ナルベジ
 びらしら 女ノ往來スル影、又ビラト
 人ノ目前ヲ屢々往來スルヲイフ薄キ物ノ
 又ハ鳥ノトフ貌、閃々ノ字清音ニモイフ
 書言一ノニ 婆娑ヲビラリシヤラリト訓
 リ又東來西來、右行左行モ同ジトアリ又
 閃々、閃爍ヲヒカくヒラくト訓マセ
 タリ
 びりたり 屢々病ム貌
 びりく 又ビリく、火傷擦傷ノ痛ム貌
 疼ヨリ出デシ語カ、但集ニ疼字ノ意ナル
 ベシトアリ、大辭書ニひりく 刺スヤウ
 ナ痛ミノスル体ビリくビリく 疔イフ
 但シビリくハひびノ出ル体疔アリ衣類
 ノ破ル、体ヲイフモ同語ナラン
 びろく 畏レツ、見廻ス貌、又食物ヲ欲ガ
 リテ見廻ス貌ビロツクモイフ、但集ニ貧
 究者ノ財利ニ飢渴者ノ飲食ニ於ケル杯ヲ
 イフ續無名抄世話字書尾路々々

ひよろく・歩ミノヨロメク貌、踉蹌書言字考ニ片亂々々(ヨロメク)俗字トアリ、大辭書ニ(一)ヨロメク体、足ひよろく(二)腕ツテ登エル体ひよろ松トアリ

ひよろく・歩足ノ浮キ揚ル貌、馮虛ノ字赤壁賦ニ出ツト云ヘバ馮虛ハ空ニ依ルナレバ其義カ又ヒヨワコリヒイフ或ハ飄乎ナリヒ云ヘリ瓢ノコロメク狀ニイフカ、書言字考ニ馮虛々々(俗ノ常談今案ニ東坡赤壁賦馮虛御風蓋據此義ニ乎

あうく・氣息ノ迫リタル貌

あかろく・偶然又無意識ニテ行動スル貌、ウカクノ轉

あがく・鳥梁ナキ人ノ物言フ聲ノ貌、其音聲ヲ形容セシ詞

あきく・木杯ノ朽チ又ハ和クテ折ル、貌、又餅ノ中ニ米等アリヲ齒ニ障ル感、折又ハ障ルルノ音ナリ

あきく・蒲萄杯ノ多ク生リタル貌、房モ總

モフサト訓メル又眞字伊勢物語ニ下総國ヲ精戀國トカケリ懸ラフサト訓メリ是等ノ義ナルベシ(一)房二房トイフニテモ大辭書ニよき多クノ義細イ糸杯ノ類ガ多ク集リテ而カモ整頓シタ体ノ形容トアリコノ意ノ詞モアリ

あきく・火ノ燦ル貌、轉リテ面ヲ膨ラシ乍ラ小言イフ貌、小言ノ方ニテハブツツトトブツツト(但集沸々地小説語、口のうちにてぶつと云ふと語意ハ燦ス)ナル

あたぐ・汗ノ多ク出ル貌、アワラフタメクハ汗出ヅルユエニフタメクノフタナルベシ、書言字考ニ鞅掌フタメク毛詩ノ註ニ失レ貌也周章同訓ト見エタル以テ推スベシスタク(ヒイフ

あづく・ブツツトブツツトヤク杯イフ、沸々地トカク小説語、口ノ内ニテブツツトイフ

ぶんく・香又臭ノ高キ貌、芬々ノ字面ナルベシ、但集ニ半濁物ノ臭ヒノ盛ナルヲイフ又怒貌、ぶんく濁トアリ書言字考ニ芬々毛詩註香也又選註香氣盛也トアリ

ぶんく・身代ノ盛ナル貌、但集ニ貧々サモ貧乏ラシキヲイフトアレバブンくハ富々ノ音便語ナルベシ

ふらく・居眠ル貌、ブラくハ歩行ノ遅緩ナル貌、但集フラックノ條ニフらく、云頭ノ痛ヲイフ又足ノ弱ヲイフ又物ヲ吊懸リタルヲイフ續無名抄世話字盡不了附トアリ病ニイフモ皆同語ノ轉ナルベシ

ふりく・懲果テタル貌、極メテ嫌ヒ惡ムモノニ合フルハ身震ノセラル、モノユエニ戰慄(フリ)ナルベシ身震ハ恐レ、寒サニ感ジテ身ヲ震フト言海ニ見エタリ

ふわく・和ラカニ締リナキ貌、書言字考ニ(一)浮和々々(俗字)トアレバ假名ハフハナルベシ、但集ニフツノ假字ハ非也衣類

あづく・又紙杯ノ風ニテ揚ル貌又卵ノフハ(ア)リ古事記ニ綾垣のふはやが下にむし袋云々床ノ周リニ帷帳杯ノ欄ノフハリト掛リタルコト云ヘルナリト云ヘリトアリ

あわく・緊張シタルモノノ緩ミタル良(廣)ク長キモノノ前ノ語ノ轉用

あがく・又ヘナク、樂ミ笑フ良、病後又醉中起タントシテハ倒ル、良、ベカハ平ヲイフ語ナルベシベカ車草芽危言ニ平地任載ノ小車ナリ京師ニテ地車ト稱ヘ難波ニテベカ車ト呼ブト但集ニ見エタル由アリゲナリ

あこく・又ヘソク、怯レ退ク貌、但集ヘコムノ注ニ寢ミタルヲイフ又コマリタルヲイフ撓ム意ナリトアルヘコヲ重キタル詞ナルベシ

あたく・飢エタル貌、又ベソク、小兒ノ屢泣ク貌、ベソク、但集ニ哭ク貌、ベソリベソリ

トアリベコトハ其轉ナルベシ
 べた^た 糊杯ノ手其他ニ粘リ付ク貌、ベタ
 ベタ^ト 尾イフベタクタモ重語ノ一格同意、
 但集ニベタツク粘ルヲイフベタト^ト 尾イ
 フト見エタリ
 べち^ち 妄リニ饒舌スル良、又ハ水又ハ
 和キ物ヲ打ツ音
 べち^ち 同ノ一格多辯ナル貌
 へち^ち 彼レ此レ言フ貌、ヘタコタ^ト 尾ヘ
 ッチヤコツチヤ^ト 尾 彼方此方ノ轉カ又變チ
 ヤ異チヤカ、異ラケ^ト 尾 コモイフ例アリ
 ベツ^ツ 能ク物ノ付クヲモ又能クオチツ
 クヲモ物ノ符合スルヲモイフ
 べら^ら 多ク饒舌スル良、又ベラツク^ト 尾 ベラ
 ハ舌ヲイフ方言ツクハ其形容詞ニテ饒舌
 ヲイフ大辭書ヨクシヤベル^ト 尾
 べら^ら 早ク饒舌スル貌、大辭書ベラ^ト 尾
 (一)ヘラ^ト 尾 (二)ベラ^ト 尾 ト見ユベラ^ト 尾
 ラニ同ジトイフ義也
 へな^な 長キ木竹杯ノ柔クシナフ貌、ヘナ
 新撰字鏡ニ棟ヲ訓メリ嫩ノ爲ナルベシ土
 ニモ云ヘリ或ハ泥ヲ訓メリ即チ泥ノ如ク
 へな^な スル義ナルベシ
 へな^な 全上ノ轉語、木竹杯ノ甚ダ撓ミ易
 キ貌
 べん^ん 氣ノ長キ貌、但集諺草ニ辯々^ト 莊子
 ニ顔淵曰夫子辯亦辯也夫子馳亦馳也俗ニ
 無用ノ說話ヲ爲シテ時ヲ移スヲ辯々トイ
 フ、愚按ニ俗ニ多クハ便々ノ字ヲ用フ然
 レモ信用シガタシ云々書言字考ニハ綿々
 (ベン^ん) 毛詩註ニ長而^ト 絶貌便々同
 ジト見エタリ綿々ノ字當レルカ
 べろ^ろ 多ク饒舌スル貌、ベラ^ト 尾 ノ轉用
 ほか^か 暖ナル感、但集ニホカツク^ト 尾 イフ
 暖氣ノ貌トアリ書言字考ニ拂々^ト 尾 ヲヨミ温
 暖ノ言フ所ト注セリ、大辭書ホカ^ト 尾
 カ^ト 尾 (一)氣ガ蒸シテ暖イ体
 (二)木魚ヲ鳴スヤウナ音トアリ

ほき^き 酒氣ノ回ハリ初メタル感、ホカホ
 カノ轉用
 ほき^き 折レ易キ貌、ブキ^ト 尾 ヲ見ヨ、但
 集ニボキ物ノ折ル、聲トアリ是也
 ほこ^こ 綿、毛杯ニ觸ル、感、又土ノ和ラ
 カキ貌、バラ^ラ 尾 シタル土ヲイフ
 ほし^し 欲シテ得ザル^ト 尾 キノ顔色、欲シナル
 ベシ
 ほち^ち 小兒ノ肥エタル貌、但集ニ耳底
 記ニいかにもボチヤ^ト 尾 といしらは
 なりさ^さ 又及敷敷也云々江戶ニテ俗ニ
 イフハ少女ナドノ能ク胖タルナドノ形醜
 カラヌヲイフトアリ
 ほつ^つ 漸ク食フ貌、又業ヲ片端カラスル
 貌、ボツ^ツ 尾 續行言記又急ギデモナケレ
 バ一細工ニボツ^ツ 尾 致スニ依ツテソレデ
 來年ノ今時分ト申スコトデオリヤルトア
 リ皆同語ノ轉用
 ほり^り 煎菓子杯ヲ嚙ム音
 ほろ^ろ 冷飯ナドノ粘リナクナリタル貌、
 又涙、壞土ナドノ落ツル貌、ボロ^ロ 尾
 ラバラト通ズ、但集ニぼろ^ロ 尾 徒然草(職
 人歌合)ニ是今ノ虚無僧ノ頭ナリト云へ
 リ物ノモロクカケ落ル貌(應筑波)親もぼ
 ろ子までぼろ^ロ 尾 といふ句、隣つか
 居若代の壁の^ト 尾 ト見エタリ要領ヲ得ヌ
 解釋ナレド物ノ脆ク落ル貌ダケハ能クキ
 コエタリ、大辭書ボロ^ロ 尾 (一)ボロ^ロ 尾 (二)
 脆ク裂ケナドシタ体(三)粒ニナツテ進ル
 体
 まく^く 逆上シテ頭ノ痛ム貌
 ましく^く 眠ムラレヌ貌、但集マジ^ト 尾 ノ注
 ニ交睫ヲヨメリ又伴^ト 尾 爲^ト 尾 不知ヲイフ又
 視然ノ意倭菜マジメ交睫ヲ訓メリマジマ
 ジモ同ジトアリ又真面目ヲマシメト云へ
 バマジ^ト 尾 同ジク真面目ニテ眠ラヌ意
 カ又眠ラヌヲマシマンジチ^ト 尾 セヌ云へハ
 彌々轉用ノ同語ナルベシ
 まだ^だ マザ^ト 尾 正シクノ意、正々ノ説

トイフ或ハ眼前(マサカ)ノ略疊カ正シク
眼前憚ルコナクノ義マダハマザ
ノ轉用大辭書嵐雪ノ句ニマザトイマ
スガ如キ靈祭、但集真々ノ義ナリ

みぎく 又メキ、板屋根杯ヲ人ノ歩ム
音、但集ニ物ノ損シ破ル、聲(犬子集)メ
キト落葉ハ何ヲ神無月(貞徳)又邊ナ
ルコニイフメキト年ガヨルナドイフ
トアリ

みすく 見ル目ノ前ニノ意、源氏物語ニ見
ス見スノ字面見エコレナルベシ大辭書現
ニ見ナガラトアリ

むかぐ 胸ノ逆上スル貌、逆フ意、吐氣ヲ
催ス狀ニイフ語、但集ニ嘔吐ノ片ニイフ
又腹ヲ立ツルヲイフ又ムカツクトアル
是ナリ、爰國ニテモ同ジ大辭書吐氣ヲ催
ス体

むくく 肥エ太リタル貌、又木ノ茂ル貌

茂クノ轉ムク茂榮ヲモクサクモクサク
モ古書ニ見エタリソヲ重テタル語、第一
多ク重リ合ヒテ毛、草杯ノムクク生ル
第二、動ク貌ムククト起ク、ムクク
動ク、第三、豊肥ムクク肥ユムクク
太ル杯倭菜ニ蠢動ノ意ニ云ヘリ、大辭書
一肥エタ体(二)ウゴメク体

むくく 言ハントシテ言ハザル口ノ貌、又
蚤、虱杯ノ屑ニ蠢動スル貌、ムククノ轉
用ナルベシ、但シ無言ノ方ハ花鳥餘情ニ
无言无言ト見エタリ似タルコナリ

むさく 甘蔗ナドヲ食フキノ感、但集ニ蒙
茸ノ意又物ヲ用意ナク食フヲイフ

むさく 可惜シキ意、無慚々々ノ義カ、但
集ニムダナコナリ惜ム意モアリ徒ナル義
ナリトアレバムダクノ轉用ナルベシ

むしく 心中ニ憤ル貌、但集ニムシクシ面
白キコナキ意トアリ同語也又ムシク日
本釋名ニ虫ハ蒸也濕熱ノ氣蒸シテ生ズ云

キトアル蒸々ノ意ナルベシ

むしやくしや 全上ノ語ノ轉用、ムシクシモ同
ジ、但集ニ毛杯ノ亂レモツレタルナリト
アリ

むぎく 虫ノ腐ヲ這フ貌

むらぐちや 漫リナル貌、但集ニムチヤハ
漫ニシテ知レヌコナリ演義文ニ鵲突ヲメ
ツチヤト訓メリ云々又ムチヤ備後ニテ亂
暴ヲイフトアリ、ムチヤクチヤハムチヤ
ムチヤノ疊語ノ一格

むつく 無言ニテ行動スル貌、ムツチリノ
ムツヲ重テタル語ムハ默ノ字ノ義ツハ只
ツケ字ナルベシ

むりく ロヲ閉ヂ乍ラ堅キ物ヲ嚙ム音、但
集ニ物ノキシリ鳴ル聲(犬筑波)二月十五
夜嵐ハザシケレバ春風ニシヤカむりむ
りノ軒端哉トアル語ノ轉用ナルベシ
めさく 増減ノ著ルキ貌、頭ノ強ク痛ム貌
但集ニ物ノ損シ破ル、聲、犬子集メキメ

キト落葉は何を神無月(貞徳)又邊ナル事
ニイフメキト年ガヨルナドイフトア
ル是也

めくく 小兒ノ愛ランキ貌、但集メゴイ物
類稱呼カアイラシイトイフ詞ノ代リニ越
後奥羽ニテメゴイイフ常陸ニテモメンゴ
イトイフトアルメゴヲ重テタル詞

もこく 毛多キ貌、又草木ノ繁茂セルニモ
イフ母久ノ轉訛ナルベシ、續紀ニ牟俱佐
加爾應神紀ニ芳艸蒼蔚(シメグ)顯宗紀ニ厥
功茂焉杯アル茂(シメグ)ノ義即チ繁茂ノ意ナ
リ

もたく 粘毛キ貌、モタクハモチヤモチ
ヤノ轉、モチヤハモチノ轉ナルベシ、モ
チハ鵜ニテ脂ノ如ク粘リアルモノユエニ
粘リ多キコトモチモチ又ハモチツク杯云
ヒシヲモチヤクモチク杯ウツリシナ
ルベシ

もやく 胸中ノ不爽ナル貌、和菜云俗ニ胸

トイフ或ハ眼前(マサカ)ノ略疊カ正シク
眼前憚ルコナクノ義マダハマザ
ノ轉用大辭書嵐雪ノ句ニマザトイマ
スガ如キ靈祭、但集眞々ノ義ナリ

みるく、全ク、又不殘ノ意、圓滿ノ義ナル
ベシ
みきく、又メキく、板屋根杯ヲ人ノ歩ム
音、但集ニ物ノ損シ破ル、聲(犬子集)メ
キくト落葉ハ何ヲ神無月(貞徳)又邊ナ
ルコニイフメキくト年ガヨルナドイフ
トアリ

みきく、見ル目ノ前ニノ意、源氏物語ニ見
ス見スノ字面見ユコレナルベシ大辭書現
ニ見ナガラトアリ
むかひく、胸ノ逆上スル貌、逆フ意、吐氣ヲ
催ス状ニイフ語、但集ニ嘔吐ノ片ニイフ
又腹ヲ立ツルヲイフ又ムカツクモトアル
是ナリ、愛國ニテモ同ジ大辭書吐氣ヲ催
ス体

むくく、肥エ太リタル貌、又木ノ茂ル貌

茂クノ轉ムク茂榮ヲモクサクモクサク
モ古書ニ見エタリソヲ重テタル語、第一
多ク重リ合ヒテ毛、草杯ノムクク生ル
第二、動ク貌ムククト起ク、ムクク
動ク、第三、豊肥ムクク肥ユムクク
太ル杯倭菜ニ蠢動ノ意ニ云ヘリ、大辭書
一肥エタ体(二ウゴメク体

むくく、言ハントシテ言ハザル口ノ貌、又
蚤、虱杯ノ膚ニ蠢動スル貌、ムククノ轉
用ナルベシ、但シ無言ノ方ハ花鳥餘情ニ
无言无言ト見エタリ似タルコナリ

むきく、甘蔗ナドヲ食フキノ感、但集ニ蒙
茸ノ意又物ヲ用意ナク食フヲイフ
むきく、可惜シキ意、無慚々々ノ義カ、但
集ニムダナコナリ惜ム意モアリ徒ナル義
ナリトアレバムダクノ轉用ナルベシ

むしりく、心中ニ憤ル貌、但集ニムシクシ面
白キコナキ意トアリ同語也又ムシクシ
本釋名ニ虫ハ蒸也濕熱ノ氣蒸シテ生ズ云

むしりく、全上ノ語ノ轉用、ムシクシモ同
ジ、但集ニ毛杯ノ亂レモツレタルナリト
アリ

むしりく、虫ノ膚ヲ這フ貌

むしりく、漫リナル貌、但集ニムチヤハ
漫ニシテ知レヌコナリ演義文ニ鶴突ヲメ
ツチヤト訓メリ云々又ムチヤ備後ニテ亂
暴ヲイフトアリ、ムチヤクチヤハムチヤ
ムチヤノ疊語ノ一格

むつく、無言ニテ行動スル貌、ムツチリノ
ムツヲ重テタル語ムハ默ノ字ノ義ツハ只
ツケ字ナルベシ

むりく、口ヲ閉ヂ乍ラ堅キ物ヲ嚙ム音、但
集ニ物ノキシリ鳴ル聲(犬筑波)二月十五
夜嵐ハザシケレバ「春風ニシヤカむりむ
りノ軒端哉トアル語ノ轉用ナルベシ
めきく、増減ノ著ルキ貌、頭ノ強ク痛ム貌
但集ニ物ノ損シ破ル、聲、犬子集メキメ

キト落葉は何を神無月(貞徳)又邊ナル事
ニイフメキくト年ガヨルナドイフトア
ル是也

めくく、小兒ノ愛ランキ貌、但集メゴイ物
類稱呼カアイラシイトイフ詞ノ代リニ越
後奥羽ニテメゴイフ常陸ニテモメンゴ
イトイフトアルメゴヲ重テタル詞

もこく、毛多キ貌、又草木ノ繁茂セルニモ
イフ母久ノ轉訛ナルベシ、續紀ニ牟俱佐
加爾應神紀ニ芳艸蒼蔚(モク)顯宗紀ニ厥
功茂焉杯アル茂(モ)ノ義即チ繁茂ノ意ナ
リ

もたく、粘モキ貌、モタくハモチヤモチ
ヤノ轉、モチヤハモチノ轉ナルベシ、モ
チハ糲ニテ脂ノ如ク粘リアルモノユエニ
粘リ多キコナリモチモチ又ハモチツク杯云
ヒシヲモチヤくモチく杯ウツリシナ
ルベシ

もやく、胸中ノ不爽ナル貌、和菜云俗ニ胸

氣不爽ナルニ云ヘリ蒙霧(一)ヨリ出テタル詞ニヤ大辭書(二)ニスベテ分明デナイ体

濛々(二)思ヒ煩フ体

あぢく 氣ノ迫ク貌、ヤチコチル

あみく 厭苦ノ貌、暗々ノ字面カ暗キハ實ニ厭ニシキ物ナルユエニ、大辭書ミ、スミ

ストアリ此處ノ方言ノヤミクトハ用法別ナリ

あれく 驚キアキル、片、又安心シタル片ニ發スル歎詞

あれるれ 人ニ世辭ヲ巧ミニスル貌

あつくり 又エツククラ、緩々ライフ、古言ユクラノノ轉ナルベシ詞泉ニゆゑなりと、いそがずに、悠然ト見ユ

あぶく 漉泥杯ノブヨクスル貌、動搖ヲユブルトイフ其ユブノ疊語

よじこ 蜿蜒ノ貌、ヨシクノ疊語二格

よじく 身ヲモジル貌、俚集ニ懸見ノ歩ミ

あせらあせら 阿ルキトイフトアリ

よたたく 疲勞ノ貌、大辭書足許ノ定ラヌ体

よせせ 懶惰ノ貌

らくく 女心ノ貌、俚集ニ樂々物ニユタカニ宛キアルライフ樂ニ這ルナドル事ノ易キライフ、大辭書樂々ト安樂デ

ろくく 羅クノ見ズ、ロクノ爲ズ杯イラ平々ノ字ナリト云ヘリ、大辭書ニ碌々漢語爲出ストノイ体、眞面目ニ十分

トアリ(下ニ必ズ反語ヲ持ツ)ろくく 搦はぬ

わくく 逆上ノ感、俚集ニ心ノ動ク貌ト見

エタリ胸ノワクナドイフ、ワク即チ涌ニテ胸ノ涌キテ逆上スルニテ涌々ナルベシ

わしく 爪ニテ膚ヲ抓ク音ナリ

わろく 衆多喧噪ノ貌、俚集ニ嘈々ヲ訓メ

リ嘈ハ玉篇ニ衆口嘈雜也又碎言也喧也トアリテ衆人ノガヤク騒ガシキナリワ

クハイフ、ワヤクヤト同音

わらく 破レ零チタル貌、山邊册子わやく

あし 註云稚子ノ足ヲ杯シテイワケナキ

能スルヲワ、ト云ヒ今ノ言ニワヤクヤ

イフ杯イフモ同ジ申ニテ元ハ万葉五ニ水

松の如、和々氣、佐我禮留、同八ニ秋芽子

のうれ和々良葉に霞も白露ナドアル和々

氣和々良杯ニテ物ノ亂レタル貌シイフ、

襲ヲわらトイフモ亂レ易キヨリノ名ナル

ベシ童ヲわらトイフモ髪ヲからげ散シ

オク故ノ名ナリトアルニテ知ルベシ然レ

ハ今ノ俗ニ語言ノ亂雜ナルヲワヤク又

ワヤクヤ杯イフモ又ワヤクトテ破レタル

ル狀ヲイフモ皆同ジ義ナリ

第六章 雜辭部

あい 應答ノ聲歎ナルベシ、歎ハ説文ニ響也

廣勾ニ慢聲也トアリ應答ノ意ヲ表ス感動

詞、重テアアイトイフ

あん 何ト疑フ詞ナリ即チ何ノ轉、ナニヲア

ニ(豈)尼云ヒナゼヲアゼ尼イフハ万葉集

ニ見エテ古キ轉語ナリ

いひ 又イイエ、又イヤ尼否ミヲ表ス感動

詞イエノ延言ニテ普通ニモイヘリ

うん 諾ノ音便、然諾ヲ表ス感動詞、重テテ

ウソノイフ

うんば 諾否ノ轉訛ニテ不然ヲ表ス感動詞

けいれもにや ケレドモ、又ハ然レ尼ノ所ニ用

フ羽茂郡又三宮後山近傍

けいも 又ケモ、ケイトモ、ケレドモノ所ニ

用フ即チ具轉語

こさ コソノ係辭ヲコサトイフコアリ、一般

ニ然ルニハ非ズことハノそはガサニ約マ

リタルナリ

ごんす 御座ンスノ略

ごんすい 又コチエ、語尾ニウケテ用ナル詞

如シトイフノ轉約ナルベシ如ク古語ニゴ

トトノミ云ヒトイフヲイト云ヘレバゴ

トタイノ急語ナリ(後山邊ノ方言)者ヲ古

語ニテイレバト訓メルモトイヘレバノ義ナリ、二見邊ニテハ然ウダてわトイフハ多分然ウダラウトイフ意味ナリ

語尾ニツク感動詞、いやがきア、なんだウてさアノ如シサアト延イテイフ、斯ウダガさ、行クトさナドハ延ベズ延ブルハ他ニ答フルカ又ハ他ノ要ヲ要スルキノ事ナリ

又シヤイ、ナサイノ意、俗語ニ彼山見さい此山みさい、いたとつれた、をばらまを俚集ニサイトイフ俗言アリ、見ナサイ、聞キナサイ、ヨシイサナイナリ又サレレイフ、合被爲ノ義ナリ本、サレガサエニ轉ジサエガサイトナリシ也レノエニ通フハ忘ラレヌヲ万葉ニ忘ラヌトアル是ナリ、佐渡ニテハささいノ者ヲ省キテ見サイ、着サイ、行カシヤイナド云ヘリ

然諾ヲイフ、然ノ本語、サノ音便ナリさりとつち、然ルベシ、又然カセゼザルベカラズノ意、ハツチャノ解下ニアリ
ゴジンスノ略、語尾ニツケテイフ、羽茂郡宿根木ノ方言、本莊了寛帥云ク佐渡ニテ第一ニ言語ノ卑陋ナルハ宿根木ナリト師ハ佐渡全圖ヲ足跡ノ到ラヌ隈ナク幾度トナク巡歴シタレバ其言誠ニ信ズルニ足ル希クハ宿根木ノ方言ヲ調査シテんすけい、又スカ、サカイトイフベキ所ニ用フサウダスケイ、カウダスケイノ類
又ソレカラ、其ヨリノ意、即チ同語ノ轉
然ラバソソナラトイフハ然ウナラバノ轉
語尾ノゾラゼトイフコアリ行クゼ歸ルゼ又サレイフコアリ、行クサ歸ルサナドノ如シ(接尾ノサニ非ズ)コノゼヲ小木地方ニテハセエト長ク引キテ一語毎ニ付シ

甚ダ耳ダテリ

だのッて、ダニヨツテノ意、八幡ニテ多クイフ

語尾ニツクル辭、和菜云庄内ニ口語ノ下ニ云ヘリ美濃ニテちやトイフ、著ノ唐音ナリ、相川河原田地方ニテ最モ行ハル所ニヨリテハちや尾云ヘリ、來タチヤ、吳レイチャ、否ヤチャ

驚キノ意ヲ合メリ、然ルカトイフ時ノ感動詞、大辭書接續詞トシちやと濁リテそれではからするトノ義、デシカラバノ意味ニ轉ジテイフ語トアルニ近シ

全上、以上三語皆同語ノ轉

さらしたり、かうしたりノたりト云ヘル完了ノ助動詞ヲツリトイヘルナリ、いのたたりたりといつたりきつり、杯モ同ジ
接頭語(馬ルル)ドカウベ(頭)ド畜生ノ如シ
命令詞ノ語尾ニ加ヘイフ、例へば來ヨ

呉レヨヲ俗調ニコイ、クレイト云ヒ其尾ニテヲ加ヘテコイテ、クレイテ杯イフナリ、來イテトイフコトヨ、吳レイテコトヨノコトヨノ省カレタルナラン
杯ノ意ニ用フ、袴ドモ着テ、本ドモ持チテノ如シ
感動詞ヲナア、チイ、ノウ杯イフ皆ナトイフ感動詞ノ轉用ナリ
猶更ヲイフ
等トイフ複數ヲ示ス助辭、ナンゾレイハ何カナカベシ、石ナンカ、竹ナンカ、ナンゾハナンドレイヒテ通フナルベシ
何トイフ又如何ナル又何程ナドノ意
地位ヲ示ス、ニヲチトイフコアリ後ニヲ後手又ナレイフコアリ前ニヲ前ナドナリ

と 主格ヲ示ス、ハヲヤト云フ來テハヲキ
 テヤ今日ハヲコンチヤ杯云フ類ナリ
 とツちや サウハツチヤ、カウハツチヤ、世
 事百談ニサウハツチヤハ左様ト云フ詞ニ
 テハツチヤハ助辭ノ活キナリ、俚集ニは
 ちや甲斐ニテ然ラバナリ杯アルニテ大意
 ハキコユ、爰ノ使ヒアリハ然カアルベキ
 第ナリト云ヘル如キニ用フはづちやノ轉
 語ニハアラヌカ

とんぼ 全上ノ訓説

ばつてい バツテン庄イフ、バト云フヲバテ
 イトイフ古キ語ノ音便也世事百談ニ筑紫
 ガタニテハ詞ノ末ニばつてんとイフ助語
 ヲ添フ云々今常ニさういふたればとて云
 タナリトイフヲ誰モアルコトニテバトイ
 フ詞ノ國ノ訛リニテバツテントナルナリ
 トアルハ未ダ委シカラズてん、ていハと
 いふノ轉リナルコトツていノ條ニイヘル
 ガ如シ、然ウダばつてい、斯ウ仕タばつ

てい化やトヤウニ用フ
 ひち 接頭語、打、振ナドノ類ノ接頭語ナリ
 叱ノ誤用ナランカ

やがれ 賤者ニ對シ又言リテ命令スルニ用
 フ、例へバ來ヤガレ、失セヤガレナドノ
 如シ

なつて 八幡ノ方言、ソレヲツテ、コレヲツ
 テトイフヲツテハ只助語ナリ、ヲトテノ
 訓説ナルベシ

なま 又ヲウヲウ、唯ナルベシ、延喜式ニ稱
 唯(ヲ、トマラス)ト見エタリ唯ハ齒ヲ嚙
 シメテ諾(ウベナ)フ聲ナレバヲ、ト言ヒ
 警蹕ニハ口ヲ開ケテオ、トイフ此差別ヲ
 辨へ置クベシト祝詞辨蒙ニイヘルサルコ
 ナリ

附 録

甲) 朝夕の挨拶

おつかん(おつかい) 朝逢ヒタル片ノ挨拶、
 御勞レナサイマセウトイヘルナルベシ
 おあけな(おあけ) 食事ニ逢ヒタル片ノ挨拶
 御上リナサイマシタトイヘルナルベシ
 おやすみな(おやすみ) 夜間別カル、片ノ挨拶、
 御寝ミナサイマセトイヘルナルベシ
 おつかい(おつかい) 又いッ、きます、他家ヲ辭
 スル片、又自家ヲ立出ル片
 おつかい(おつかい) 又いッてきました、全上
 歸リシ片
 おつかい(おつかい) 御疲レデアリマセウ
 ノ意又こたいぎでござります、人ノ遠方
 ヨリ來リシ片又業務ヲ勞フ時ノ挨拶
 かへらん(かへらん) 人ヲ送ル時、御コロビナサルナ
 トイフ義ナリ、かへるハ頼ルニテ頼倒ス

ナト注意スルナリ

おせ(おせい) 勉強セヨノ意、業務ヲ
 執リタル人ニ別ル、時ノ挨拶、御精ヲ出
 サセナサレマセト云ヘルナルベシ
 つか(つか) 借リタル物ヲ返ス時、又頼ミシ
 事ノ成リタル時ノ謝意、又でかした(賤
 ニ)デカスハ成功ノ普通語ナレバ普通ニ
 ハ目下ニノミ使フヲ佐渡ニテハ尊上ニモ
 使用セリでかしました是ナリ
 おの(おの) 又おのこりればこ
 さいませう、死亡ヲ吊フ時ノ詞、御名殘
 惜又ハ御名殘多イノ轉ナルベシ
 こん(こん) 今度目ヤナリ、今後復逢フ片ヲ
 ヲイフ別ル、片ノ挨拶ナリ
 がい(がい) いかい折ツタデセウノ訛ニ
 テ御休リデセウ、骨折リデセウ杯ノ義、
 又ガイハ骸ニテモアリヌベシ骸ハ脛骨ナ
 レバ百骸ナドイフ片ハ唯骨ノ義ナルヲ左
 傳ニ折骸以髣凡見エタレバ骸折ルトイフ
 マジキニモアラジ

とくごんすか ハイ御座リマスカト云ヘルナ
ルベシ

ばいよ 在方ニテ別ル、時ニ使用ス、早クヨ
ノ轉訛ニテ早ク歸レトイフ等カ

まのりまし 御膳ヲ喰ヒナサイナリ、參リマ
セノ訛

ようゆかんし 能ク行カンセナリ、無事ニテ行
キ玉ヘトナリ

しんじまし 御前ニハ進上シマセヌ私ハ是ヨ
リ振舞ニ行キマストイフ時ニ用フ、進ゼ
マセンノ訛轉ナルベシ

此他 今日ハ、今晚ハ、御早ウ、御静ニ
コソナ、コソバン、オハヤ、オシヅカ

(乙) 人代名詞付敬稱
一、對稱

あなた 又あんた、尊上ニ對ス、貴方ナルベ
シ語釋ハ彼方ナリ

おまへ 同等ニ對ス、御前ノ字面ナルベシ、
同字ニテモゴゼント云ヘバ尊貴ヲ稱シ又

サンヲ加ヘテ御前サント云ヘバ僧侶(眞
宗)ヲ稱ス、オメエトモイフ

さま 貴様、同等以下ニ用フ
おみ 御身ナリ、全上

おぬし 御主ナリ、下輩ニ用フ
うんしや 御主シヤノ轉訛、シヤハ中古文ニ
母シヤモノ父シヤモノナドノシヤナルベ
シ、下輩ニ稱フ又オンシヤモイフ

おんし 又おのしや、おのし、下輩ニ稱フ皆
御主ノ轉訛

いし 全上主ノ轉カ、又幼年ヲ呼ベルガ本ニ
テ稚カ稚ハ神代紀ニ國稚士稚ト見エテ幼
稚ノ義ナリ

わし 又下輩又同輩ニイフ和主ノ義、和ハ和
兄和弟和上臆杯ノ和ニシテ鎌倉頃ノ流行
詞ナリ、其和ハ吾ニテ親ミノ詞、万葉十
六能登歌ニ和之ト云ヘルコト四ツ見ヘテ契
沖浦ハ汝ノ義眞淵翁ハ吾主ノ中略ト云ヘ
ル然モアリヌベシ宣長翁ノ柏子詞ト云ヘ

ルハイカバ、金九邊ノ方言

わい 八幡ノ言、俚集ニさつまにて汝をいふ
いやしめていふ詞なりトアリ

こんた 此方ノ字面、又こんさん、此方様ノ
急語又こんさんモイフ

うな 又うなア、已ナルベシ

おんしや 又うんしや、御主ノ轉
るいつ 其奴ノ義、稍言ル意ヲ含ム

うのれ 已ナリ

わららア 四日町、背合邊及新保西方邊ノ方
言、吾等ニテ自稱ナレモ他稱ニモ用ヒ複
數ナレモ重ニ單稱ニ用フ

われ 又おのれ、嘗ル時ノ代名詞、自稱ノ吾、
已ナルヲ對稱ニ用フ是ハ普通ニモ例アリ

代名詞ヲ云ヘル俚語
三宮、なさん後山さま何だ金丸はわじく

二、自稱

わし 私ノ字義、わたくし、わたしハ普通俗
稱わしハ方言ナリ、和菜云私ヲ訓メリ字

彙ニ自營爲レム背レム爲レ公隸作レ私ト見ユ
わたハ曲ノ義ナルベシ自稱ニイフハ韻府

ニ賤私ハ某也ト見エタリ言海云我が盡シ
ノウツリカトイフ、隨見隨錄云儀禮士相

見禮ニ某也夫子之賤私トイフアリテ其
鄭註ニ家臣稱レ私ト見エタリ然レバ私ハ

周代卿大夫ノ臣タルモノ、自稱ナリ又玉
篇ニ家臣稱レ私又天子以下皆曰レ私モ見エ

タレバコレヨリ出デタルナルベシ尊上ニ
對シテノ謙稱

おれ おいら、大辭書ニ已ノ略、俚語自稱ノ
代名詞、ワレ、オラ、オイラ、今多ク下

等ハノ口ニイフトアリ
うら おら、ううら、おうら、皆前語ノ轉訛、
和菜引阿波詞ヲ詠メル歌ニうらがくにト
見ユ

よのもんだち 長木邊ノ方言、餘ノ者等ニテ自
分ヨリ外ノ人等ト云ヘル義ナルヲ轉ジテ
自稱ニ用ヒ復稱ナルヲモ單稱トス

三、複 稱

(天) 自 稱 (音等)

おらち 已達

おちちア一 オラツチャアノ略

おらんち 已達

おらたち 已達

うらち 全上

わしやんら 私等

おらちる 已達

おらち 全上

わしら 私等

わしやん 私共

(地) 對 稱 (汝等)

おめだち 御前達

おんだち 又オミタチ、御身等

うなち 已達

わいたち 和主達

わいら 和主等

こなさん 此方様方又ハ達ヲ加ヘテ

こんさん 全上、全上

おんしや 御主、達ヲ加ヘテ

わじだち 和主達

きさまたら 貴様達

うのれだち 已等

おめだち 御前方

わつだち 吾達ノ急語 置言

おのつらち 已達ノ訛、全上、オノレダチ

らいつら 其奴等、全上

四、敬 稱

やん かばやん、あばやん、あねやん 杯ノや

んナリ是ハ屋ナリ又唯ヤヒイフ、清五郎
や、源助やノ類、河内や、二井やナドノ
屋号ヨリ出デタリ

あん 兄チャン

しう 衆、ト衆ナドノ轉用ナルベシ、幸シウ
久シウノ類

こう 公、熊コウ、虎コウノ類

こ 公ノ轉語、金コ、龜コノ類、或ハ子カ

まん 公ノ音便、キンナルベシ

さん 様ノ音便

どん 殿ノ音便

がた 方ナリ、複數ニ用フ、貴下方、庄屋方
ノ類

尙ホ近來ニ行ハル、君、兄貴、先生様杯ノ
如ク敬稱ニモ對稱ニモ用ヒ又足下許、其方、
貴殿、其方杯ノ對稱モ文語又ハ口語ニテモ
一部分ノ間ニ行ハレ自稱ニ於ケル儀、拙者、

余輩、吾人、吾輩、此方、自分杯モ然リ此等ハ
悉ク省キテ載セザリ

丙 飲 食 物

日用飲食物及其料理法等ノ名ニモ種々面
白キモノ有ルナル可レド其道ノ人ニ非テ
ハ之ヲ詳ニシ難シ因リテ今ハ唯日用年中
最モ多ク使用セル大根及豆類ノ料理ニ關
スル名稱ヲ擧ゲテ其一般ヲ示スニ止マル
ベシ

一、大根料理

蝶の羽 蝶ノ羽ノ如ク薄クキリヘギタルモ

短冊 短冊ノ如ク細長ク切リタルモノ

載蘿蔔 載ナシテ細ク切リタルモノ、シヨ

載蘿蔔 載ナシテ細ク切リタルモノ、シヨ

煮鹽 載蘿蔔ヲ醬油汁ニテ煮アヘタルモノ

汁少ナク實多クシテ宛モあハものト汁ト

ノ中間ナルモノ餅ノ汁ニ多ク之ヲ用フ

おろし 大根オロシニテオロシタルモノ
 削り 庖丁ニテ削リタルモノ
 風呂吹 湯ニテ能ク煮テ(丸タノ儘一寸位
 ツ、ニ切り) 柚子味噌ヲツケテ食フモノ
 幹大根 丸大根ヲ尾張乾ノ如ク乾シ又ハ切
 リテ干シテ水ニ漬シテ煮テ食フモノ
 酢汁 酒ノ糟又ハ餘ニテ煮タル大根汁味噌
 ヲ加ヘザルモノ
 輪切 大根ヲ丸ク輪切ニシテ汁ノ肉ニセシ
 モノ
 二、菜
 辨慶鹽 大根ヲ細ク切りテ南蠻ナドヲ加ヘ
 テ辛ク鹽ヘタルモノ
 千歳坊 細切大根ニ蕎麥切ヲ交ヘタルモノ
 しめもの 染物大根ヲ煮染メタルモノ種類ニ
 ナラザルベシ
 なまき オロシ大根又ハ載羅荷ニ酢ヲ加合
 テタルモノ元ハ鱈、鱈等ノ肉ニオロシ大
 根ヲ加ヘテ酢ニテアヘタルヲナマスト云
 ヒシニ出デシ語
 切乾 細カク切りテ乾シタルモノ
 尾張乾 細大根ヲ乾シテ細切シ醬油ニ漬ケ
 テ食フモノ
 三、漬物
 水漬 鹽ノミニテ漬ケシモノ
 へぎ漬 醬油ニ漬ケタルモノ
 丸漬 丸大根ノ儘ツケタルモノ
 大漬 大キナル桶ニ多ク漬ケテ時日ヲ長ク
 保ツニ用フルモノ
 常座漬 又當ヲ漬ルモノ常座人用ノ早漬ナ
 リ
 もみつけ 大根ヲ縦ニ二ツニ割リテ一両日乾
 シテ鹽ヲモミツケテ漬ケタルモノ
 澤庵 丸大根ヲ乾シテ糠ヲ加ヘテ漬ケタル
 モノ
 味噌漬 澤庵漬ヲ味噌ニ漬ケタルモノ

糟漬 酒糟ヲ加ヘテツケタルモノ
 四、豆類料理
 扣菘 豆ヲ扣チツブシテ羹汁ニ他ノ物ト
 (菜大根ナド)加ヘ煮タルモノ之レヲウチ
 ヲメ汁トイフ
 饅豆 生豆ヲ楮鉢ニテ楮リテ雜菜ニ加ヘテ
 煮タルモノ
 納豆 生豆ヲ淪デ、蒸腐シテ羹汁ニ作りタ
 ルモノ之ヲ一汁トイフ
 こまぐ 豆腐ヲ二三分角ニ切りテ煮タル
 モノ、サイノメイフ
 短冊 豆腐ヲ短冊形ニ切りテ煮タルモノ
 ぐつに 豆腐ヲ握ミ潰シテ煮タルモノ
 油揚 豆腐ヲ油ニテ煎リ揚ゲタルモノ
 焼豆腐 一度焼キテ羹汁杯ニ煮タルモノ
 餡掛 煮タル豆腐ニ葛餡ヲ掛ケタルモノ
 寄豆腐 豆腐ヲ最初ヨリ方形ニ固メズシテ
 煮テ餡ヲカケタルモノ
 豆餡ニ味噌ヲ付ケテ焼キタルモノ
 やつこ 煮テ醬油ヲカケ又ハ柚子味噌杯ニ
 テアヘタルヲ煮ヤツコ焼イテ柚子味噌ナ
 ドツケタルヲヤキヤツコトイフ
 煮染 焼豆腐ヲ醬油ニテ煮染メタルモノ
 煮豆 諸種ノ豆ヲ和ラカクモ固クモ醬油若
 クハ味噌ニテ煮染タルモノ
 枝豆 枝乍ラノ青豆ヲ鹽ヲ加ヘテ淪ゲタル
 モノ
 煎豆 炮燥ニテ煎リタルモノ之ヲイリグワ
 シトイフ

明治四十二年三月二十五日印刷
明治四十二年三月三十一日發行

定價金參拾錢

著者 矢田求

新潟縣佐渡郡二宮村大字石田七番戶

新潟縣佐渡郡相川町大字材木町七十七番地

發行人 門間兼吉

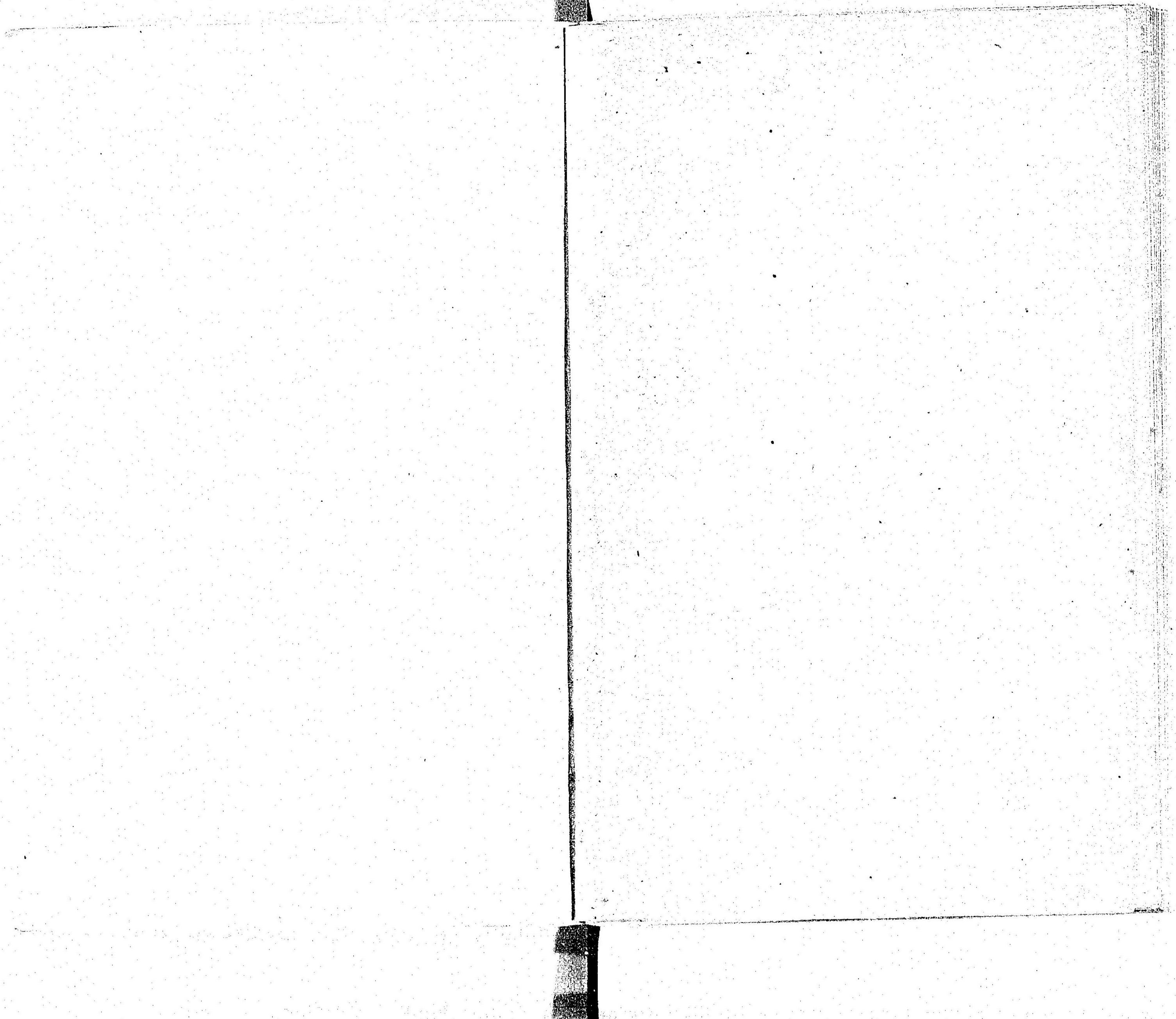
新潟縣佐渡郡相川町大字下戸炭屋町拾四番地

印刷所 佐渡新聞社印刷部

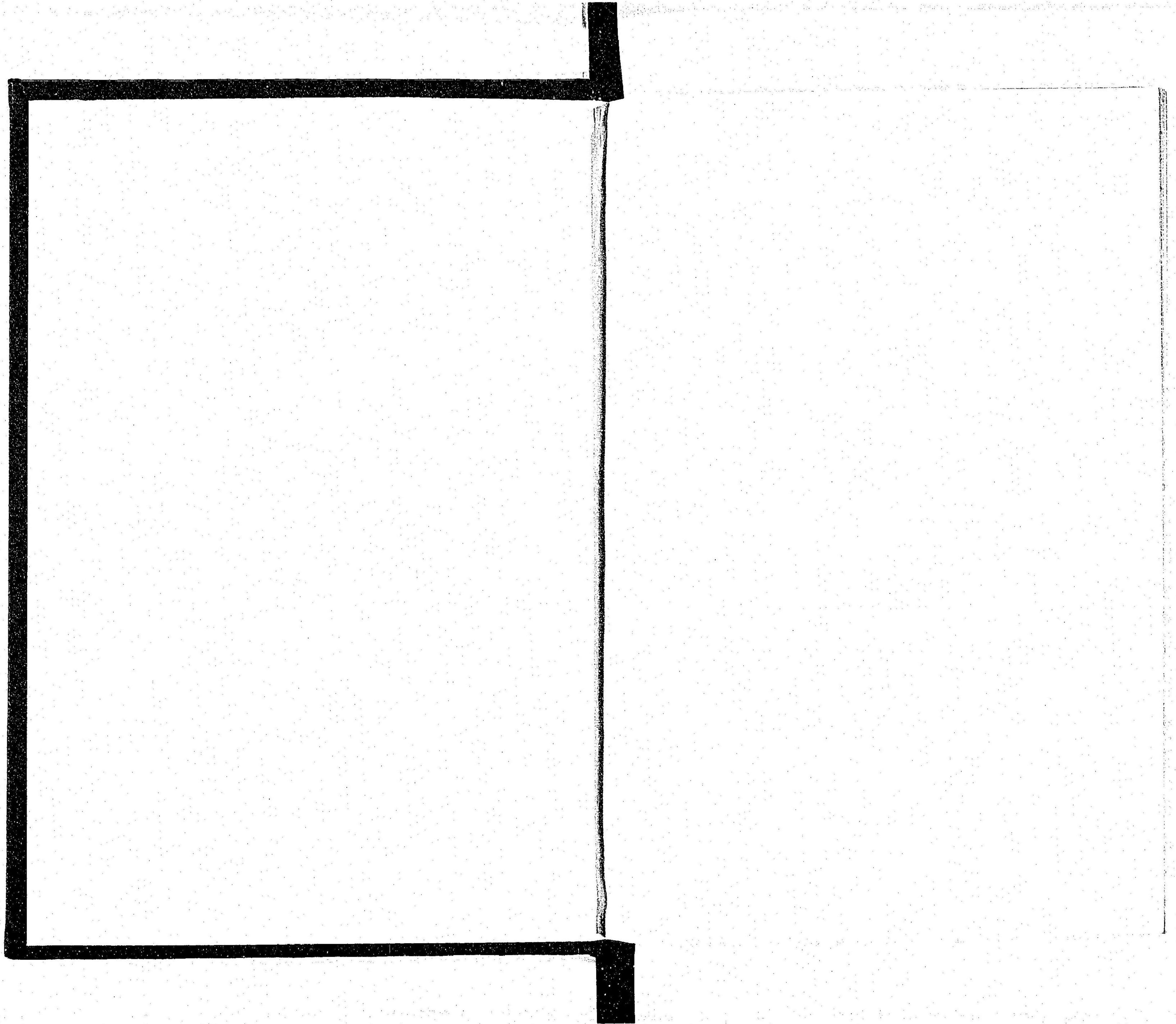
全縣全郡全町全番地

發行所 佐渡新聞社出版部

不許
複製



2/P-55



11

818.41

Y122s

081974-000-2

818.41-Y122s

佐渡方言集

矢田 求/編

M42

DAC-6978



